年　報　第５１集

令和２年度　文化財調査報告書

前橋市教育委員会

はじめに

日頃より、本市の文化財保護行政につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

令和２年度は、新型コロナウイルスが世界的に蔓延し、イベントや外出の自粛、経済活動の変化等により、文化財保護行政も大きな影響を受けました。

前橋市においても、感染拡大防止のため郷土芸能大会、大室古墳イベント、各種教室・出張授業の中止、前橋・高崎連携文化財展の一部中止を余儀なくされました。また、文化財施設の来館者数は、感染拡大防止のための休館等により減少しました。

しかし、コロナ禍におきましても、文化財の適切な保護、管理、普及啓発活動や新たな文化的資産の調査等に努めました。

中止となったイベント等が多かった中、感染予防対策を講じた上で粕川歴史民俗資料館の企画展、文化財探訪、大室古墳（つか）の語り部による案内、チョコレート鏡づくり教室等は実施することができ、文化財の普及を進めました。

国指定史跡である大室古墳群においては、群馬デスティネーションキャンペーンによるＰＲが実施されたことにより、市内外から多くの来訪者がありました。

国指定重要文化財である阿久沢家住宅においては、耐震診断結果による耐震対策の検討、国登録文化財である旧本間酒造においては、外トイレの整備に着手しました。

発掘調査においては、引き続き進めている上野国府、総社古墳群の範囲内容確認調査をはじめ、元総社蒼海遺跡群、上細井中西部遺跡群等、市内各地の遺跡でその歴史を紐解く地道な作業を続けています。

発掘成果を広くお知らせするため現地説明会や新出土文化財展を開催し、多くの来場者がありました。

この冊子には、令和２年度における、それらの成果がまとめられています。

文化財に関わる活動を通して、市民が郷土への愛着の心を育み、連綿と築かれてきた歴史文化を未来に繋いでいけるよう、今後も施策を実施してまいりたいと思います。

令和３年３月

前橋市教育委員会
教育長　　吉川 真由美

目　次

はじめに

第１章　文化財調査委員による調査

１　建造物調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　樹木調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

第２章　文化財保護事業

１　保護管理運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

２　整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

３　普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

第３章　埋蔵文化財事業

１　埋蔵文化財発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

①令和２年度　上野国府等範囲内容確認調査・・・・・・・・・・・４３

②令和２年度　上細井中西部遺跡群発掘調査概報・・・・・・・・・４５

③元総社蒼海遺跡群（１４０）・・・・・・・・・・・・・・・・・７２

④元総社蒼海遺跡群（１４１）・・・・・・・・・・・・・・・・・７４

⑤元総社蒼海遺跡群（１４４）・・・・・・・・・・・・・・・・・７６

⑥元総社蒼海遺跡群（１４５）・・・・・・・・・・・・・・・・・７９

⑦元総社蒼海遺跡群（７５街区）№２・・・・・・・・・・・・・・８１

⑧元総社北小学校遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８３

⑨池端屋敷小路遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８５

⑩田口滝ノ前遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７

⑪荻窪倉兼Ⅲ遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９

⑫上泉下中峯遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１

⑬朝倉上郷遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９３

⑭川曲柳橋Ⅳ遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９５

⑮総社昌楽寺廻窪道遺跡№２・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７

⑯西片貝東高縄遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９９

⑰西片貝西大道遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０１

⑱堤下原間遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０４

⑲総社高井向原遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０７

２　市内遺跡発掘調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０

３　遺跡台帳整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０

４　埋蔵文化財資料整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０

５　文化財資料管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１３

６　上野国府等保存整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１４

あとがき

第１章　文化財調査委員による調査

今年度は、文化財調査委員による市内調査を２回実施した。
また、隔年で実施している市外調査はコロナ感染拡大防止のため中止とした。

１　建造物調査

（１）日時
令和２年１１月１０日（火）
（２）調査者
村田委員長、文化財保護課
（３）調査対象物件
前橋東照宮
（４）調査内容
松本十徳氏の昭和62年の調査報告書の追認・追調査。

拝殿遠景（東から）

拝殿の彫刻の調査

中門の調査（東から）

本殿の縁下調査（南から）

拝殿・本殿の建築年代について、虹梁、海老虹梁、木鼻等の形式より幕末の建築であると思われる。虹梁、海老虹梁、木鼻等の彫刻は精巧であり、嶋邑源蔵俊表の銘がある。木鼻には、嶋邑俊表嬌俊豊の銘も確認できた。本殿は、幕末に見られる神社建築に見られる派手な装飾はなく素木で簡素である。

２　樹木調査

（１）日時

令和２年１１月２４日（火）

（２）調査者

能登委員、文化財保護課

（３）調査内容

現況確認調査

（３）調査対象物件

①三夜沢のブナ　【市天第９号】

所在地　　三夜沢町354-1

指定年月日　昭和５５年４月１日

調査結果　　若いブナの樹勢は旺盛

若いブナ全景（南から）

②月田のモチノキ【県天第１８号】

所在地　　粕川町月田1308

指定年月日　昭和２７年１１月１１日

調査結果　　樹勢は旺盛

全景（南から）

③沼の窪のザゼンソウ【市天第１３号】
所在地　　富士見町赤城山　沼の窪市有林内
指定年月日　平成7年10月1日
調査結果　　経過観察

上流部のヌタ場（北から）

上流部の新しいけもの道（南から）

下流部の新しいけもの道（西から）

動物の足跡（中流部）

前回の調査時と同様、動物の侵入が認められた。ヌタ場も同様に大きく広がっている。新しいけもの道もできていた。動物の足跡や糞も確認した。

【参考】沼の窪のザゼンソウの株数
令和３年１月１９日（火）調査時　１５株　芽がまだ地中にあったと考えられる。
令和３年３月１２日（金）調査時　９５株

第２章　文化財保護事業

１　保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

国有文化財天川二子山古墳と総社二子山古墳の２箇所について実施した。見廻り看視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財看視人として委託した。落枝の処分については、職員が定期的に行った。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに、総社二子山古墳は「みんなの店運営委員会」に業務委託し、それぞれ２回実施した。

(2)　国・県・市指定文化財管理

令和３年３月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指定名称	国指定	県指定	市指定	合計
重要文化財	7	38	140	185
史跡	11	12	45	68
無形文化財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
天然記念物	2	3	13	18
名勝	0	1	0	1
合計	20	56	243	319
登録有形文化財	24			24
登録有形民俗文化財	1			1
重要美術品	8			8

①　史跡の樹木管理

・危険樹木の伐採（総社二子山古墳南側、東側各１・八幡山古墳東側１・中二子古墳北側、西側各１・富士見収蔵庫西側２）

・樹木剪定（前二子古墳東側・中二子古墳南側・南西角－東電実施、前二子古墳北側・天川二子山古墳東側－東電実施）

②　史跡等の除草

市が管理する史跡等について、地元自治会、前橋市シルバー人材センター及び業者に委託して環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分(指定)	除草面積延べ(㎡)
1	前橋城車橋門跡	市	1,125
2	亀塚山古墳	市	7,452
3	金冠塚古墳	市	7,221
4	八幡山古墳	国	33,708
5	宝塔山古墳	国	2,204
6	蛇穴山古墳	国	400
7	蛇穴山古墳隣接地	国	1,308
8	総社二子山古墳隣接地	国	792
9	女　堀（1）	国	89,652
10	不二山古墳	市	2,702
11	大日塚古墳	市	1,124
12	荒砥富士山古墳	市	2,700
13	大胡城跡	県	23,620
14	大胡城跡(急傾斜地)	県	5,000
15	堀越古墳	県	582
16	遠見山古墳	市	3,886
17	阿久沢家住宅	国	2,400
18	膳城跡（1）	県	3,171
19	旧本間酒造	国	2,000
20	女　堀（2）	国	5,666
21	今井神社古墳	市	4,624
22	天神山古墳	県	1,095
23	膳城跡（2）	県	14,820
合　計			217,252

③ 害虫防除

市が管理する史跡３ヶ所において、樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除作業を職員が樹幹注入型殺虫剤を用いて実施した。

実施日　令和２年６月５日
　　令和２年８月７日
実施場所　天川二子山古墳
　　総社二子山古墳
　　遠見山古墳
実施樹木　６５本

④ スズメバチ駆除業務

膳城跡にて２箇所の巣を駆除した。
実施日　令和２年１０月１２日

⑤ その他の環境整備

富士見収蔵庫西側擁壁撤去工事

(3)　文化財の保護

① 指定文化財の現状変更について

令和2年度の現状変更は、国指定が1件、県指定が1件、市指定が2件、国登録有形が1件であった。詳細は一覧の通り。

種別	指定名称	内容
国史	山王廃寺跡	史跡地内にある日枝神社社殿新築
県重	上野総社神社本殿	雨漏り修理
市有民	堀下の仏像群	経年劣化部分の補修
市天	三夜沢のブナ	幹折れ
国登録有形	群馬県庁本庁舎	ガーデンテラスの石板の毀損

② 防火査察及び文化財防火訓練

ア　防火査察

３９件の文化財査察対象物に対して７班編成を組み、前橋市消防局（各消防署地域安全係）、東京電力パワーグリッド、関東電気保安協会と協力して、合同立入査察を実施した。

○令和３年１月２５日(月)

≪中央消防署：１１施設≫

市水道資料館（敷島町）、市浄水場配水塔（敷島町）、旧蚕糸試験場事務所棟（敷島町）、旧大竹酒造煉瓦蔵（三河町一丁目）、萩原家住宅主屋座敷（朝日町一丁目）、萩原家旧繭蔵（朝日町一丁目）群馬県庁本庁舎（大手町一丁目）、群馬会館（大手町二丁目）、前橋カトリック教会聖堂（大手町二丁目）、臨江閣（本館、別館、茶室）（大手町三丁目）、市中央児童遊園（るなぱあく）もくば館（大手町三丁目）

○令和３年１月２６日(火)

≪中央消防署：３施設≫

旧勝山社煉瓦蔵（本町二丁目）、広瀬川美術館（旧近藤嘉男アトリエ及び　絵画教室ラ・ボンヌ）（千代田町三丁目）、上泉郷蔵（附 上泉古文書）（上泉町）

≪東消防署：１４施設≫

上毛電気鉄道大胡駅駅舎・大胡駅電車庫・大胡駅変電所・大胡駅避雷鉄塔・大胡駅中継鉄塔・大胡駅引留鉄塔・大胡駅受電鉄塔（茂木町）・荒砥川橋梁（茂木町～大胡町）・粕川橋梁（粕川町女淵～西田面）、阿久沢家住宅（柏倉町）、柏倉諏訪神社の歌舞伎舞台（柏倉町）、三夜沢赤城神社本殿内宮殿（三夜沢町）、三夜沢赤城神社本殿並びに中門（三夜沢町）、赤城神社惣門（三夜沢町）

○令和３年１月２７日(水)

≪西消防署：６施設≫

上野総社神社本殿一棟（元総社町一丁目）、総社神社拝殿（元総社町一丁目）、旧本陣酒造店舗兼主屋・酒蔵及び釜屋）（総社町総社）、光厳寺薬医門（総社町総社）、大徳寺総門（小相木町）

≪南消防署：３施設≫

産泰神社本殿・幣殿・拝殿・神門及び境内地（下大屋町）、旧関根家住宅一棟（西大室町）、旧アメリカン・ボード宣教師館一棟（小屋原町）

≪北消防署：１施設≫

旧小暮一の鳥居（富士見町小暮）

イ　文化財防火訓練

当初１月２４日に臨江閣にて消防訓練を計画していたが、群馬県社会経済活動再開に向けたガイドラインの指標：警戒度が４になったことで中央消防署の判断で消防訓練を中止にした。

予定していた訓練内容を以下に示す。

演習の想定：１月２４日午前９時５７分頃、臨江閣別館１階給湯室内の湯沸器から出火、自動火災報知機設備のベル鳴動により関係者が覚知し、１１９番通報と共に初期消火を試みるも、天井に炎が達するまでに燃え広がり初期消火は失敗、火災は別館内に延焼拡大の様相を呈する。なお、初期消火に当たった関係者１名が頭に火傷を負った。

気象状況：北西・風速７ｍ乾燥注意報発表中

○令和３年１月２４日(日)

午前１０時００分から午前１１時００分まで

国指定重要文化財臨江閣（大手町三丁目１５番地）

（参加機関）

前橋市消防局（中央消防署、千代田分署及び西消防署）

前橋市消防団（第１方面団第１分団、第２分団、第３分団）

前橋市教育委員会事務局 文化財保護課

臨江閣自衛消防隊

③文化財パトロール

市内を１０地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置し、指定文化財のパトロールを行った。月１度の報告を受け、除草や修理の対応をした。例年行っていた会議・研修視察は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった。

(4) 前橋市総社歴史資料館の管理・活用

前橋市総社歴史資料館の来館者数は、コロナ禍による休館（4月17日～6月1日）等の影響により、令和元年度より少なく、９，１１１人であった。

幸い、９月下旬から１１月中旬かけては、警戒度も下がっていたこともあり、市内の小学校から社会科見学に４年生が例年通り訪れた。郷土学習の一環で天狗岩用水の現地見学とセットにして資料館で学習した。資料館での見学の対応は、地元で組織されている説明員の会に委託している。「秋元氏と天狗岩用水」の解説と、昔の天狗岩用水開削工事に使った道具の体験活動を行ったが、コロナウイルス感染症の拡大防止のため、館内での案内やタブレットの利用は制限した。小学３年生も、「人々のくらしと道具のうつりかわり」の学習で社会科見学に訪れた。

その他、一般の団体や個人、市外の学校も案内の希望があったので、館内や総社地区の古墳の説明、体験学習に応じた。

また説明員の会には、近隣の史跡の清掃も月３回、年間３６回程度の活動を依頼している。

総社歴史資料館の開館日数は２６８日（４月中旬から５月末までは臨時休館）、来館者数は約９，１００人。そのうち学校の社会科見学は、２，６３０人にであった。

例年３月に実施している説明員の研修会は、昨年に続きコロナ禍の影響で中止とした。

総社歴史資料館

(5) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用

粕川歴史民族資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は春期及び秋期に企画展を開催し、多くの市民に関心を持っていただくことをねらった。

なお、コロナ禍の影響により４月１７日から６月２日までを臨時休館とした。年間の開館日数は１６５日、入場者数合計2,290 人。

春期企画展「元三夜沢・御殿・宇通―赤城山中の古代遺跡―」
開催期間：令和２年６月３日(水)～
令和２年８月３０日(日)

秋季企画展「赤城南麓の弥生土器―赤城南麓地域の形成―」
開催期間：令和２年１０月２４日(土)～
令和３年　２月２８日(日)

(6) 阿久沢家住宅の管理・活用

開館日の管理はシルバー人材センターに委託。令和２年度の開館日数は１３３日。来館者は２，００９人だった。(コロナ禍により４月１７日から６月３日、１２月１８日～３月１２日は休館)

また、住宅の燻蒸を業者に委託して年６回実施し、住宅の適切な維持管理に努めた。

４月には庭先にある桜のライトアップを阿久沢家住宅活用委員会との共催で実施した。

４月１日（月）～４月７日（木）の７日間９時～２０時３０分まで連日開館し約１５３人が夜間に来場した。

小学１年生の国語教材「たぬきの糸車」に絡めた糸車の展示が、昨年度は好評だったので、今年度は１２月～３月と期間を延長し、総社資料館の糸車を借用して、こざに展示をする予定であった。新型コロナ感染者拡大防止のため休館となったため展示を中止した。

その間に宮城地区の住民から阿久沢家住宅で活用して欲しいと糸車を譲り受けた。

また休館中に糸車の展示について、問い合わせがしばしばあったので、公開を再開した３月１３日より常設で糸車を展示することにした。

糸車が使用されていた当時の一般的な使用例に基づきヒロマに展示する予定である。

１１月１７日には、初めて小学校の団体見学があり、大胡東小３年の社会科見学で６７人が来館した。

糸車の展示の様子

(7) 臨江閣の管理・活用

開館日の管理については、前橋市シルバー人材センターに委託し、2名常駐している。管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備保守点検、雨樋及び屋根清掃などを業者委託した。なお、庭内の樹木は、公園管理事務所へ管理を依頼している。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症対策により、令和2年4月24日から5月31日、12月19日から3月9日まで休館した。なお休館期間中も、予約済みの貸館利用については対応を行った。

① 月別入場者数

月	開館日数	入館者数（人）
4	14	1,500
5	0	40
6	25	1,210
7	27	1,436
8	26	1,591
9	26	2,768
10	27	3,194
11	25	5,509
12	16	1,874
1	0	75
2	0	194
3	19	3,707
合計	205	23,098

② ジャンル別貸館利用申請割合

種別	件数	割合
写真撮影	247件	93.2%
茶会、いけばな等	3件	1.1%
行政関係	6件	2.3%
イベント	5件	1.9%
その他	4件	1.5%
合計	265件	100%

③ 使用料収入額　1,231千円

④ ひな人形展

本館1階にて寄附で受け入れたひな人形を展示した。

(8) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

開館日の管理は、前橋市シルバー人材センターに委託し、見学者の受付や館内外の清掃を行っている。

このほかの管理業務として、消防設備保守点検、樋及び周辺清掃業務をそれぞれ専門業者に委託した。

建物内の4つの展示室（①設立のいきさつ、開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕用具③上州座繰をはじめとして製糸業に用いる道具器械④機織りや養蚕信仰の資料）において資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

例年は春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催に合せて、富岡製糸場世界遺産伝道師協会等の協力を得て、座繰り体験・桑の木クラフト体験・まゆクラフト体験を行っていたが、令和2年度はコロナ禍の影響により春のばら園まつり、秋のバラフェスタともに中止となり、体験会も中止した。

開館日は、4月～11月の土・日・祝日（ばら園まつり・バラフェスタ開催期間中は毎日）だが、感染対策のため4月17日から6月3日は休館となり、ばら園まつりの時期に合わせた平日開館も中止となった。

本年度の来館者は1,709人であった。

冬期の閉館期間を利用して、居座機の織物が劣化により脱落したものを修理した。

修理後の居座機

⑼ 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群の石室入口の鍵開閉や日常の保守・点検・除草清掃等については大室公園管理業者に委託している。

県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「大室古墳(つか)の語り部」が古墳を中心に案内をおこなっている。

令和２年２月からＪＲ東日本の群馬デスティネーションキャンペーンのＰＲとして、大室古墳群等を紹介したテレビCMが放映された。古墳の語り部が吉永小百合さんを案内するシーンが好評となり、以降、来園者が大幅に増加した。

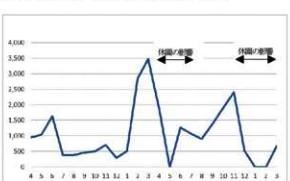
CM放映後の前二子山古墳石室見学者の様子

令和３年３月１６日～前二子・後二子古墳の石室内に防犯カメラを設置した。それに伴い、令和３年度以降は公園管理業者に委託している石室入口の鍵開閉を簡略化し、業務改善にもつながった。

⑽ 大室公園民家園の管理・活用

開園日の管理は前橋市シルバー人材センターに委託。令和２年度の開館日数は１２９日、来園者数は令和元年度（平成３１年度）の１３，１５４人から１１，９９６人となった。

群馬デスティネーションキャンペーンの効果で１日当りの来園者は増加したが、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休園（延べ５５日間）したため、前年度に比べ入園者総数は減少した。



令和31年４月～令和３年３月来園者

	令和２年度	令和元年度
入園者数（人）	11,996	13,154
開園日数（日）	129	185
１日当り（人）	92	71

コロナ禍の影響により４月１７日から６月３日、１２月１８日から３月１２日は休館となった。

茅葺屋根保存維持のため、専門業者による燻蒸を６回実施した。

旧関根家住宅茅葺屋根の経年劣化に伴い、建物北側複数箇所から雨漏りが生じていた。茅葺屋根修繕までの暫定対応として、令和３年３月に雨漏り防止用のシートを設置した。

旧関根家住宅の雨漏り防止用シート

「大室古墳(つか)の語り部」の活動拠点として定例会議等で利用した。

「大室イベント」のほか、「大室古墳の教室」各事業は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(11) 旧本間酒造の管理・活用

R2.4.17　旧本間酒造利活用にかかる説明会
R2.8.5　主屋２階西側雨樋修理
R2.10.19 管理謝礼 4～9 月分支払
R2.11.12 旧本間酒造外トイレ新築工事着工（翌年度５月完成予定）
R3.3.9 旧本間酒造樹木剪定
R3.3.19 旧本間酒造主屋２階畳、襖、障子張替工事
説明会出席者：総社地区自治会連合会・総社町栗島自治会長・総社地区生涯学習奨励員
連絡協議会・総社歴史資料館説明員の会・総社地区民生委員児童委員協議会・総社地区老人クラブ連合会・総社地区食生活改善推進員会・HONMAYA 代表

年間を通じて自治会連合会が、地域の交流の場として利活用している。土日に野菜販売等を行っているＨＯＮＭＡＹＡの令和２年度の来場者は２，６５６人だった。

(12) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理・活用

現在施設は、赤城山南麓の旧町村の出土遺物の収蔵庫、隣接する粕川歴史民俗資料館の収蔵庫として、活用している。

施設内の機械警備、小荷物専用昇降機、消防設備保守点検は、業務委託により引き続き管理を行っている。

(13) 寄附の受入

戦前のまちなか（千代田町）の飛騨問屋で活用されていた銭箱の寄附を受け入れた。

	寄附名称
1	銭箱

(14)　刀剣の製作承認及び市有刀剣の管理

本年度の新規製作承認申請は５件が提出され、その全てを承認した。

また刀剣類を良好な状態で保存するため、毎年実施している専門的な技術者による手入れを、１１月と２月の２回実施した。対象刀剣類は７種５６口。

2　整備事業

(1)阿久沢家住宅耐震基礎診断事業

【概要】

阿久沢家住宅は、昭和45年に国の重要文化財の指定を受けた民家住宅である。平成21年度に群馬県が実施した耐震予備診断では基礎診断が必要と判定されており、令和元年度より耐震基礎診断を実施している。2か年度目となる今年度は構造診断の結果耐震補強対策を行うことが必要となることが判明し、基礎診断書を作成し、耐震補強案の検討・策定を行った。

なお、診断業務は、国庫及び県費の補助を受けて公益財団法人文化財建造物保存技術協会に委託した。

耐震基礎診断に係る検討会議の様子

文化庁調査官による視察

(2)旧本間酒造外トイレ整備事業

国登録有形文化財である旧本間酒造について、平成28年度から利活用に向けて意見交換会を開催し、平成30年6月から地元自治会により、地域の寄り合い所、地元野菜等の販売などを行う「HONNMAYA」として活用を開始してきましたが、より利用しやすい環境づくりのため令和2年度は、地元との協議により外トイレ設置工事に着手した。(令和3年度5月完成予定)

(3)塩原家住宅防災対策事業

・令和元年度に国指定重要文化財になった塩原家住宅については、専門業者による主屋・裏蔵の耐震予備診断を実施した。

また、主屋・裏蔵へ消火器を設置し、自動火災報知設備については、所有者、消防署等の関係機関と協議を進め、令和3年度に着工予定となった。

(4)総社古墳群範囲内容確認調査事業

【概要】

平成29年度より実施している総社古墳群範囲内容確認調査について、4年目にあたる今年度は、史跡総社二子山古墳および愛宕山古墳の範囲内容確認調査を実施した。事業の実施に当たっては、「総社古墳群調査検討委員会」の指導を受けて行った。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、通常年2回開催している委員会を、1回とし、調査中の現地指導のみとした。

「総社古墳群調査検討委員会」

委員長：右島和夫（群馬県立歴史博物特別館長）

委　員：林部均（国立歴史民俗博物館教授）

：山本孝文（日本大学文理学部教授）

第1回委員会　令和3年1月20日

【史跡総社二子山古墳の調査】

周堀範囲および中堤の確認を目的として墳丘南側および西側にそれぞれ2条のトレンチを設定して調査を行った。その結果、墳丘西側のトレンチにて中堤の立ち上がりが確認され、想定される周堀幅は22m以上に及ぶことが判明した。堀の深さは現地表面から約1m下で検出され、底面の形状はほぼフラットである。堀底の直上にはAs-B混じりの黒色土が堆積し、墳輪片や崩落した葺石とみられる川原石が出土した。墳丘南側では中世以降の溝等に切られ、周堀の立ち上がりや中堤は確認できなかったものの、トレンチ北端にて後円部墳丘の立ち上がりを検出した。

総社二子山古墳中堤立ち上がり

【愛宕山古墳の調査】

墳丘形状および周堀範囲の確認を目的とし、墳頂部より北側周堀立ち上がりにかけて１条（北トレンチ）、同じく墳頂部より墳丘西側基底部にかけて１条（西トレンチ）設定して調査を行った。

周堀は北トレンチにて墳丘側立ち上がりおよび外側立ち上がりを検出した。上端幅は約 18m、現地表面からの深さは約 1.5mを測る。堀底面はほぼフラットで内外立ち上がりとも緩やかに立ち上がり、堀中央部では底面付近まで As-B 軽石を含む黒色土層が堆積、堀内からは崩落した葺石が多量に出土した。

総社二子山古墳墳丘立ち上がり

現況測量の成果から、これまで墳丘は２段築成と考えられていたが、調査の結果３段築成以上の古墳であったことが判明した。墳丘１段目（基壇）の葺石は、周堀底面より上位の、盛土面に構築され、残存高約 0.9mを測る。基壇テラスは幅約 8m と広く、石敷きが施される。墳丘２段目および３段目葺石は残存高 2m 前後で、傾斜角度は約 40 度。断面観察の結果２段目及び３段目葺石の外側にも葺石を施していたことが確認された。

出土遺物としては縄文土器や埴輪片、中近世の陶磁器などが出土したものの、本古墳に伴うと見られる遺物は検出されなかった。

２古墳の調査の結果、墳丘規模や形状、兆域に係る新たな知見が得ることができた。

愛宕山古墳北トレンチ２・３段目葺石

外側葺石と内側葺石（西トレンチ３段目葺石）

・愛宕山古墳調査　現地説明会

調査の状況やこれまでの成果を、より広く市民の方にお知らせするため令和３年２月 13 日（土）、２月 14 日（日）に現地説明会を開催（259 人参加）。

総社古墳群調査検討委員会　右島委員長による解説

(5)　阿久沢家住宅整備事業

整備を行った駐車場および市道２０－２４５２号線取付道路を市道認定し、県道区域が変更になった。そのため、専用許可を受けている敷地の面積が変更になったので、改めて道路占用変更の許可を受け、前橋土木事務所と覚書を締結するための協議を行った。

変更内容

【占用物件】

駐車場および市道２０－２４５２号線取付

面積　４９６．８７㎡

【占用期間】

令和３年２月１７日～令和７年３月３１日

整備事業とは別に消防局警防課と行政財産の使用について協議を行い、駐車場北端に耐震性貯水槽を設置した。（R３．１．２８完成）

市道認定を受けた道路と駐車場の様子

(6)　大胡城跡ガイダンス施設整備事業

引き続き大胡歴史研究会と運営について協議を行った。

共愛学園前橋国際大学生１名と群馬大学生２名・大胡歴史研究会に協力を得て、大胡城跡の見どころマップが完成した。

完成した図案「大胡城跡の見どころマップ」

(7) 指定文化財説明板の整備

説明板の新設及び書替を行った。

・新設（改修）１箇所　西大室町公民館のオハツキイチョウ

・張替３箇所　妙安寺梵鐘・光巌寺薬医門・観昌寺の宝塔

・文字訂正２個所　大徳寺総門・膳城跡

3　普及事業

(1) 大室古墳群公開・普及イベント

本イベントは、国指定史跡を擁する大室古墳群を広く普及啓発することを目的として、平成１７年度から毎年開催しているもの。

令和２年度も例年と同様、６月初旬の開催を計画していたが、コロナ禍の影響により開催することができなかった。

(2) 第４８回前橋市郷土芸能大会

毎年開催している郷土芸能の公演。

市郷土芸能連絡協議会の加盟団体から５団体、近隣市町村からの招待１団体に出場いただくことが通例となっている。

令和２年度も１１月下旬の開催を予定していたが、コロナ禍の影響により開催することができなかった。

(3) 大室古墳群市民ボランティア解説員（大室古墳の語り部）の活動

市民ボランティア解説員の会「大室古墳の語り部」は、一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指し平成１８年に発足した。

現在活動中の市民ボランティア解説員は、１３名。ほとんどが地元在住で、地元にまつわるエピソードなども盛り込みながら大室古墳群の案内・解説を行っている。

春から秋にかけての定例説明会の他、団体や個人から見学依頼を受けて案内を行っている。他に大室イベントや大室公園竪穴住居再生体験の協力など幅広く活動している。定例説明会は、「広報まえばし」や市ホームページで情報周知を行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、本年度の総括と来年度へ向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体（施設）を見学し資質向上に努めている。

① 定例活動（古墳案内等）

４月～１１月の第１土曜日に９時３０分から１１時頃まで受付。民家園を集合場所として希望者が集まり次第、人数に応じたグループ分けをし随時案内。一周一時間程度を計画していた。

しかし４月に実施して以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため広報まえばし等での周知を取りやめた。４月の見学者は４４名であった。

以降、定例会として月１回会議のみ実施。

② 学校・一般団体等の案内

随時受付け。８団体へ実施。見学者計９９名

③ 群馬デスティネーションキャンペーン

ツアーガイドを実施した。群馬県社会経済活動再開に向けたガイドラインを遵守し警戒度２以下の期間中に１２件催行し、２１７名を案内した。

コロナ感染症対策として旅行代理店から遠隔無線マイクを借り受け、密にならなくても解説の声が届くように工夫した。

警戒度が３以上の期間は旅行代理店と協議し、ツアーガイドを中止した。

④ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。

本年度は、１１月下旬に県立歴史博物館のほか高崎市内の古墳、資料館等を見学した。

ツアーガイドの様子（後二子古墳石室前）

研修会の様子（高崎市観音塚考古資料館）

(4) 前橋・高崎連携文化財展

前橋・高崎連携文化活用事業として毎年開催している文化財展「東国千年の都」は、本年度で第１４回目となった。

① 展示テーマ
東国千年の都
『発掘調査最前線―東国文化の中心地を掘ってみた―』

② 期日・会場
・ 前橋会場　令和３年１月７日～１２日
臨江閣　１階　西洋間
＊新型コロナウィルス感染者拡大防止のため前橋会場は中止。
・ 高崎会場　令和３年１月１６日～２４日
高崎シティギャラリー　２階 第６展示室

③ 開催結果
来場者数４１７人（高崎会場のみ）

高崎会場：前橋市の展示の様子

(5) 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成１５年度より開始してきた。

令和２年度は、第１回目は歩いてめぐる文化財探訪「城南地区の古墳と産泰神社」として荒砥地区を歩いた。募集人数を超える５５名の応募があったため、２回に分けて実施した。

第２回目は文化財探訪「前橋城を歩いてめぐる」として前橋城に関連する場所を歩いた。

〈第１回目〉
歩いてめぐる文化財探訪
「城南地区の古墳と産泰神社」
日　時　（１）１２月６日（日）
午前９時～午後３時１０分
（２）１２月１１日（金）
午前９時～午後３時２０分
案　内　文化財保護課　副主幹　阿久澤　智和
嘱託員　前原　豊
参加者　（１）２１名（欠席者４名）
（２）１７名（欠席３名）
コース　最善寺→観昌寺→荒砥富士山古墳→荒子の砦→産泰神社→伊勢山古墳→大室神社→大室古墳群→はにわ館

〈第２回目〉
粕川歴史民俗資料館　企画展関連事業
「前橋城を歩いてめぐる」
日　時　３月２８日（日）
午前８時～正午
案　内　文化財保護課　嘱託員　小島　純一
参加者　２５名（欠席者２名）
コース　市役所→大手門跡→連雀町　桑町（城域東の端を確認する）→坪呂門跡→島田曲輪→柏木門跡→柳原門跡→県庁→長壁神社→龍海院→再築前橋城の南端→車橋門

(6) まえばし古墳の教室

体験学習や考古学講座を開講し、市内の埋蔵文化財の活用や本市の古代文化を紹介するとともに郷土愛を育むことを目的として開催した。

開催した普及事業

鏡チョコレート作り　計５５名

日時：令和２年２月１３日（土）、１４日（日）
会場：文化財保護課庁舎
講師：杉山　秀宏　先生
（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
主任調査研究員

なお、例年夏季休業期間中に開催している小学生を対象とした講座「森の考古学教室」については、今年度はコロナ禍の影響により開催できなかった。

チョコレートでつくった三角縁神獣鏡

(7) 里山学校

令和２年度の教育委員会重点事業の１つである赤城山ろく里山学校（宮城地区）については、例年国指定重要文化財阿久沢家住宅の活用を目的のひとつとし、主に宮城小学校の児童を対象とした体験学習を実施しているが、今年度はコロナ禍の影響により開催することができなかった。

(8) 出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

「おもしろ文化財教室」は、小・中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として学校や教育施設へ訪問し、授業を行うものである。担当教諭と事前打ち合わせを行い、授業のねらいや留意点などを確認し、児童・生徒たちにとって充実感や達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、コロナウイルス感染症が拡大したため、利用する学校が減少し６校、３６３名の指導となった。

《実施概要一覧》

実施日	学校名　学年	実施内容（実施場所等）
９/３０	桃瀬小３年	人々のくらしと道具のうつりかわり（粕川歴史民俗資料館）
１０/２	桃井小３年	人々のくらしと道具のうつりかわり（粕川歴史民俗資料館）
１０/９	元総社南小３年	人々のくらしと道具のうつりかわり（粕川歴史民俗資料館）
１０/２２	東小３年	人々のくらしと道具のうつりかわり（粕川歴史民俗資料館）
１１/１７	大胡東小３年	人々のくらしと道具のうつりかわり（旧阿久沢家住宅）
２/１７	滝窪小３年（含む分校）	人々のくらしと道具のうつりかわり（粕川歴史民俗資料館）

出前講座（生涯学習課事業）

今年度の実施状況は以下の通り。

ⅰ.「前橋市の文化財行政」
なし
ⅱ.「明治のイギリス外交により見出された大室古墳群」
なし
ⅲ.「古代の東国に咲いた華　山王廃寺」
1団体
ⅳ.「解明！古代前橋の中心「推定上野国府跡」
1団体

なお、この他にも地域の歴史勉強会等の団体からの講師派遣依頼があった。児童文化センターとの連携事業で、「勾玉づくり」を2回行った。

また、今年度コロナウイルス感染症拡大防止のため「公民館連携事業」に関連するものは、実施されなかった。

児童文化センターとの連携による勾玉づくり教室

令和2年8月1日
児童文化センターにて感染症対策を講じた上で実施した。（小学生対象）

職場体験学習

今年度は、0件であった。

⑼ 文化財資料の貸出

資料提供依頼による主な写真資料の貸し出しは以下のとおり。

貸し出し資料	貸し出し先
・前橋天神山古墳現況 ・同　墳丘残存当時 ・宝塔山古墳石室内 ・同　家形石棺 ・盾持人埴輪 ほか	群馬県 文化振興課
・神明宮甲冑画像	姫路市
・人面付円筒埴輪 ・小像付円筒埴輪	下野市
・天狗岩用水掘削模型 ・AR コンテンツ「天狗岩用水を掘る」（総社資料館ナビ） ・総社城想像復元図 ・総社城絵図 ・天狗岩掘削之図	群馬テレビ株式会社
・臨江閣外観	JTB パブリッシング 株式会社平凡社 ほか
・養蚕・製糸用具	株式会社 博報堂ケトル
・山王廃寺出土瓦	株式会社 第一学習社
・大室古墳群全景	株式会社 阪急交通社

(10) 文化財調査事業

①前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査

【調査概要】

前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献を調査し、市域における蚕糸業の重要性を再評価するために実施する調査事業である。平成３０年度に「塩原蚕種の建造物と文書―前橋の蚕糸業に係る歴史的建造物等調査報告書―」を ５カ年計画の５年次として報告書を刊行した。しかし、これは塩原蚕種を中心とした調査・研究の成果であるため、その他の前橋市の蚕糸業にかかる歴史上重要な遺構及び文献について、引き続き調査を行うこととなった。令和元年度から令和２年度は、「塩原佐平家文書」の確認整理作業を行った。

【構成員】

石井寛治顧問（東大名誉教授）
大野敏委員（横浜国立大学教授）
岡田昭二委員（前橋市文化財調査委員）
西川武臣委員（横浜開港資料館館長）
宮崎俊弥委員（元前橋国際大学教授）
村田敬一委員（県文化財保護審議会副会長）

【調査計画】（令和２年度は継続２年目）

計画年次	調査		内容
1 年次	事前調査		委嘱式及び現地視察（塩原蚕種）
２・３年次	塩原蚕種に係る調査	「蚕糸業遺構調査（塩原蚕種建造物調査）」	**・建造物調査** **・建造物に関係する部分の報告書作成**
		「関連文献調査」	**・塩原蚕種にかかる文献調査**
		「聞き取り調査」	**・塩原蚕種所有者及び関係者を対象に物件の歴史や活用状況、活動範囲等について詳細な聞き取りを行う。**
		検討・計画	**・調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討。** **・次年次の調査活動の計画について検証** **・計画の再構成等**
４年次	蚕糸業に係る調査	市内に残る蚕糸業に係る遺構関係調査	・市内の蚕糸業関連遺構の全体把握 ・蚕糸業関連遺構絞込みと詳細調査 等準備
		市内蚕糸業にかかる文献調査	・調査物件の過去の資料、既往の研究等から調査物件の歴史的意義や価値、変遷過程に関する調査等
		検討・計画	・次年次の調査活動の計画について検証 ・計画の再構成等
５年次	報告書作成	報告書作成に向けた補足調査	・報告書作成に当たって、必要に応じ、随時補足調査を行い、調査内容の充実を図る。
		報告書作成	・４ヵ年にわたって実施した調査内容を報告書として編集する。 ・専門部会及び委員会により精査し、報告書の内容を確認し発行。

継続年次	調査	内容
令和元年	「塩原佐平家文書」	文書の確認整理作業
令和２年度	次年度の調整「塩原佐平家文書」	文書の確認整理作業、完了
令和３～４年度	**建造物調査**	**菊水小林製糸所** **図面・写真・考察** **池田撚糸** **図面・写真・考察** **三栄撚糸工場** **図面・写真・考察**
令和５年度	報告書の作成	原稿執筆 印刷製本 「(仮) 前橋の蚕糸業」	調査成果から歴史的な価値付け等、整理、検討

第3章　埋蔵文化財事業

1　埋蔵文化財発掘調査事業

(1)令和２年度の発掘調査をふりかえって

令和２年度埋蔵文化財発掘調査一覧表に示したとおり21件の発掘調査を実施した。

調査目的・原因別内訳は保存目的の範囲・内容確認調査３件、公共開発事業に伴う記録保存を目的とした調査11件、民間開発事業に伴う記録保存を目的とした調査７件である。記録保存目的の調査では公共開発に伴い２遺跡、民間開発に伴い４遺跡の調査を直営で実施し、他はすべて民間調査組織への委託により調査を実施した。

総発掘調査面積は29,169㎡で、うち保存目的の調査が918㎡、公共開発に伴う調査が25,874㎡、民間開発に伴う調査が2,377㎡であった。

以下に主な調査について概述する。

①上野国府等範囲内容確認調査

第２期５か年計画の最終年にあたる今年度は、６地点でトレンチを設定し、国府関連遺構の検出に努めた。調査の結果、上野国府の中心施設ではないが、宮鍋神社南側付近より官衙に関連すると考えられる礎石建物跡や両側溝をもつ道路を検出することができた。上野国府等範囲内容確認調査では、ここ数年国府関連遺構の検出が続いており、上野国府を推定する材料が徐々に蓄積されている。

②上細井中西部遺跡群№３・４

県営上細井中西部地区土地改良事業に伴い平成30年度より５か年計画で直営調査を実施しており、今年度はその３年目になる。令和２年度の発掘調査は６月から開始し翌年２月にかけて実施した。調査の結果、縄文時代の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡等が検出された。

③元総社蒼海遺跡群

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群の発掘調査は、直営により１遺跡・125㎡、官民委託により３遺跡・2,352㎡の調査を実施した。また、民間開発に伴い１遺跡・524㎡の調査を民間調査組織への委託により実施した。

蒼海(140)は区画整理事業区域西部の染谷川左岸の自然堤防上に位置する。区画道路築造に伴い調査を実施した。調査区は２区に分かれており、１区からは古墳時代後期と平安時代の住居跡５軒、調査区東端から蒼海城に関連する堀跡が検出された。２区からは平安時代の住居跡11軒のほか中世の井戸跡や多数のピットが確認された。

蒼海(141)は区画整理事業区域北部の牛池川右岸台地上に位置する。調査区はＡ・Ｂ区の２区に分かれており、Ａ区からは推定上野国府域を南北に縦断する道路状遺構を検出した。この道路状遺構は、牛池川の渡河地点に向かって下る、切通し状の路体を備えた斜路で、奈良時代に開削され10世紀代に廃絶したものと考えられる。また、Ｂ区からは住居跡の覆土中から飛鳥Ⅲ～Ⅳの畿内系暗文坏（平城京分類坏Ａ）の細片が出土した。

蒼海(144)は区画整理事業区域東端部、元総社公民館の北東に位置する。宅地造成に伴う擁壁工事に伴い調査を実施した。調査の結果、古代の竪穴住居跡２軒、土坑４基、古墳時代の溝跡１条を検出した。

蒼海(145)は区画整理事業区域東部、元総社公民館の南東に位置し、宅地造成に伴い調査を実施した。調査の結果、竪穴住居跡17軒、溝跡14条、多数の土坑・ピット等が検出された。特筆すべき遺物としては、平安時代と推定されるピットから出土した小金銅仏が挙げられる。

蒼海(75街区)№2は蒼海遺跡群北部の牛池川右岸台地上に位置し、倉庫建設に伴い調査を実施した。調査の結果、７世紀から11世紀の竪穴住居跡15軒、工房跡１軒、土坑６基等を検出した。工房跡は10世紀初頭のものと考えられ、小金銅仏・三鈷杵・銅印の鋳型・須恵器転用取瓶・坩堝等が出土した。

④元総社北小学校遺跡

元総社北小学校のプール改築建築工事に伴い調査を実施した。狭い範囲での調査であったため、遺構の大部分が調査区外にあり、重複も激しく詳細が不明な箇所も多々あるが、弥生時代後期から11世紀にかけての住居跡22軒、溝跡２条、道路状遺構１条、井戸跡１基、土坑12基、ピット２基を検出した。

⑤池端屋敷小路遺跡

前橋市西部の池端町に位置し、道路整備事業に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳の周堀１条、古代の土坑３基、近世の溝跡２条を検出した。古墳の周堀は、東側に隣接する神明宮を墳丘頂部に鎮座させる清里村３号墳の周堀と推測される。

⑥田口滝ノ前遺跡

前橋市北西部の田口町に位置し、道の駅整備事業に伴い調査を実施した。調査の結果、6世紀初頭の榛名山二ッ岳噴火を起因とするHr-FA洪水層に覆われた小区画水田と平安時代末期のAs-B下の条理水田が検出され、古墳時代以降、大規模な水田経営が行われていたことが確認された。

⑦荻窪倉兼Ⅲ遺跡

前橋市北東部の荻窪町に位置し、受水場・配水池築造に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代後期末から平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡を検出した。特に7世紀末から8世紀中葉の所産と考えられる柵列に囲まれた大型の竪穴住居跡や掘立柱建物跡は、赤城南麓の荒砥川以西で開発を行った有力者の存在を想定させるものである。

⑧上泉下中峯遺跡

前橋市北東部の上泉町に位置し、公園造成に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代後期から奈良時代にかけての竪穴住居跡と掘立柱建物跡、土坑等を検出した。特筆すべき遺物としては、氷室と推定される土坑から出土した8世紀中頃の須恵器坏底部外面に墨書された「厨」の墨書土器が挙げられる。

⑨朝倉上廊遺跡

前橋市南部の朝倉町に位置し、道路築造に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居跡45軒、溝跡14条、土坑、ピット、井戸跡等を検出した。特筆すべき遺構としては、奈良時代の水田開発に伴う灌漑用水路と想定される3号溝跡が挙げられ、西端のコーナー部から8世紀中葉の坏・甕が数個体集中して出土した。

⑩川曲柳橋Ⅳ遺跡

前橋市南部の川曲町に位置し、学校建設に伴い調査を実施した。調査の結果、天仁元(1108)年に降下したAs-B軽石に直接覆われた条里型地割の水田跡を検出した。

⑪総社昌楽寺廻窪遺遺跡№2

前橋市西部の総社町総社に位置し、宅地造成に伴い調査を実施した。調査の結果、古墳時代・平安時代の集落の一部と考えられる竪穴住居跡等を検出した。また、平安時代の遺構覆土中より山王廃寺のものと考えられる瓦片が出土した。

⑫西片貝東高縄遺跡

前橋市中央部の西片貝町に位置し、事務所建設に伴い直営で調査を実施した。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1軒を検出した。

⑬西片貝西大道遺跡

前橋市中央部の西片貝町に位置し、宅地造成に伴い直営で調査を実施した。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1軒を検出した。

⑭堤下原間遺跡

前橋市中央部の堤町に位置し、駐車場整備に伴い直営で調査を実施した。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡1軒を検出した。

(2)台帳整備事業

令和2年度の台帳整備事業は、まず昨年度下半期に実施した本発掘調査及び試掘調査実施箇所のデータを9月までに、また本年度上半期のデータは2月までに遺跡地図に加筆した。また、過去5年間の試掘調査実施箇所のうち遺跡地図未記入分について、改めてデータを整理し前橋市遺跡分布地図への書き込みを行った。なお、包蔵地の範囲変更が生じた場合は、随時、県の情報システム上に反映されるよう、データの改訂を申請している。

(3)資料整備事業

①普及関係

埋蔵文化財普及リーフレット『い・せ・きワールドin 前橋 2021』を刊行し、市内小・中学校に配布したほか、一般用として公民館等の公共施設にも配布した。また、市内で行われた発掘調査を地区ごとに紹介するリーフレット「まえばし地下マップ」も刊行した。

埋蔵文化財資料の展示については、前橋・高崎連携文化財展において展示を行ったが、今年度は新型コロナウイルスの影響から前橋会場での展示は取りやめ高崎会場のみとなった。

また、主に令和元年度に本市で発掘調査を実施した遺跡の出土品を中心に展示した「新収蔵品展」を令和2年11月10日から23日まで13日間の会期で臨江閣別館1階の西洋間において開催し、会期中2,952人の来館者があった。さらに、市内公民館および小学校、けやきウォーク、サンデンフォレストにおいて出土資料の貸出しや展示替えを行った。

②資料整備

昨年度に引き続き収蔵資料の整理を行い、調査図面・写真資料及び報告書等の整理・台帳作成はほぼ終了した。

出土遺物については、元総社蒼海遺跡群からの出土遺物を中心に収蔵整理及び台帳作成を行った。来年度以降も、スケジュールを立てて収蔵資料の整理を行う予定である。

(4)開発に伴う事前協議

令和２年度は2,789件の開発事業に係る埋蔵文化財包蔵地の照会があった。また、文化財保護法第93条第１項の届出は811件となった。平成24年度『前橋市遺跡分布地図』情報の公開に伴う「周知の埋蔵文化財包蔵地」の拡大により、照会・届出件数が一気に増大したが、本年度は昨年度に比べてわずかに減少している。減少の要因については、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられるが、大幅な減少とはなっておらず、相変わらず市内における開発事業の多さを物語っている。

試掘・確認調査実施件数は44件であり、このうち28件で埋蔵文化財の存在を確認した。うち5件が発掘調査に移行し、5件が現在調整中である。その他については、試掘調査結果を受けて計画変更等により現状保存を図った。その他に、各種開発工事中の立会調査を37件実施した。

令和２年度　埋蔵文化財発掘調査一覧表

	遺　跡　名	所在地	面積(㎡)	担当	調査原因	調査期間	主な内容
1	上野国府等範囲内容確認調査	元総社町	588	阿久澤智和 齋藤　颯	範囲内容確認	6月1日 ～ 12月4日	古代礎石建物跡・溝跡・道路跡、古墳・平安住居跡
2	上細井中西部遺跡群№３・４	上細井町	16,646	松村鄒敏 村越純子	土地改良事業	6月16日 ～ 2月26日	縄文土坑、奈良・平安住居跡、掘立柱建物跡、溝跡
3	元総社蒼海遺跡群(140)	元総社町	326	(有)毛野考古学研究所 高橋清文	土地区画整理事業	6月18日 ～ 8月12日	古墳・平安住居跡、中世蒼海城堀跡
4	元総社蒼海遺跡群(141)	元総社町 総社町総社	559	技研コンサル㈱ 中村岳彦	土地区画整理事業	6月12日 ～ 7月20日	古墳・飛鳥・平安住居跡、奈良・平安道路状遺構
5	元総社蒼海遺跡群(144)	総社町総社	125	小峰　篤 岩丸展久	土地区画整理事業	5月29日 ～ 7月21日	平安住居跡、土坑、古墳溝跡
6	元総社蒼海遺跡群(145)	総社町総社	1,467	技研コンサル㈱ 佐野良平	土地区画整理事業	11月4日 ～ 12月25日	古墳・平安住居跡、平安竪穴状遺構、小金銅仏出土
7	元総社蒼海遺跡群(75街区)№2	元総社町	524	技研コンサル㈱ 岡野　茂	倉庫建設	6月4日 ～ 7月13日	古墳・平安住居跡、工房跡、鋳型・取瓶・坩場出土
8	元総社北小学校遺跡	総社町総社	208	技研コンサル㈱ 中村岳彦	プール改築	11月1日 ～ 12月2日	弥生・古墳・奈良・平安住居跡、中世道路状遺構
9	池端屋敷小路遺跡	池端町	436	技研コンサル㈱ 高橋政充	道路築造	5月20日 ～ 6月8日	古墳周堀、平安土坑、近世溝跡
10	田口滝ノ前遺跡	田口町	2,164	技研コンサル㈱ 三宅敦気	道の駅整備	5月11日 ～ 8月3日	As-B軽石下水田、Hr-FA洪水層下水田
11	荻窪倉兼Ⅲ遺跡	荻窪町	1,239	山下工業(株) 永井智教	受水場・配水池築造	5月10日 ～ 7月22日	奈良・平安住居跡、掘立柱建物
12	上泉下中峯遺跡	上泉町	1,084	山下工業(株) 永井智教	公園造成	7月30日 ～ 10月7日	奈良・平安住居跡、奈良掘立柱建物、縄文・奈良土坑

	遺　跡　名	所在地	面積(㎡)	担当	調査原因	調査期間	主な内容
13	朝倉上廍遺跡	朝倉町	1,620	(株)シン技術コンサル 福嶋正史	道路築造	7月6日 ～ 11月18日	奈良・平安住居跡、溝跡（大型の溝跡含）
14	川曲柳橋Ⅳ遺跡	川曲町	1,520	技研コンサル㈱ 中村岳彦	学校建設	3月23日 ～ 4月17日	平安水田跡
15	総社昌楽寺廻窪道遺跡No.２	総社町総社	193	(株)シン技術コンサル 小林一弘	宅地造成	4月3日 ～ 5月1日	古墳・平安住居跡、溝跡
16	西片貝東高縄遺跡	西片貝町五丁目	93	並木史一 寺内勝彦	事務所建設	6月16日 ～ 6月17日	奈良住居跡、溝跡
17	西片貝西大道遺跡	西片貝町一丁目	20	並木史一 寺内勝彦	宅地造成	11月20日 ～ 11月21日	平安住居跡
18	堤下原間遺跡	堤町	12	並木史一 寺内勝彦	駐車場整備	12月14日	平安住居跡
19	総社高井向原遺跡	総社町高井	15	並木史一 寺内勝彦	店舗建設	3月30日	平安住居跡
20	総社二子山古墳	総社町植野	165	小川卓也	範囲内容確認	9月1日 ～ 10月31日	古墳
21	愛宕山古墳	総社町総社	165	小川卓也	範囲内容確認	11月1日 ～ 2月28日	古墳

令和２年度　埋蔵文化財報告書一覧表

No.	報告書名	発行者	発行年月日	備考
1	推定上野国府 ～令和元年度調査報告～	前橋市教育委員会	令和3年3月19日	
2	元総社蒼海遺跡群(140)	前橋市教育委員会	令和3年3月16日	
3	元総社蒼海遺跡群(141)	前橋市教育委員会	令和2年10月30日	
4	元総社蒼海遺跡群(145)	前橋市教育委員会	令和3年3月24日	
5	元総社蒼海遺跡群(75街区)No.2	前橋市教育委員会	令和2年10月30日	
6	西部第一落合遺跡群(１)	前橋市教育委員会	令和2年10月30日	
7	元総社北小学校遺跡	前橋市教育委員会	令和3年1月29日	
8	池端屋敷小路遺跡	前橋市教育委員会	令和2年7月30日	
9	田口滝ノ前遺跡	前橋市教育委員会	令和2年9月30日	
10	上泉下中峯遺跡	前橋市教育委員会	令和3年3月15日	
11	朝倉上廓遺跡	前橋市教育委員会	令和3年3月19日	
12	川曲柳橋Ⅳ遺跡	前橋市教育委員会	令和2年7月31日	
13	総社昌楽寺廻窪道遺跡No.2	前橋市教育委員会	令和2年7月31日	

令和２年度　立会調査一覧表

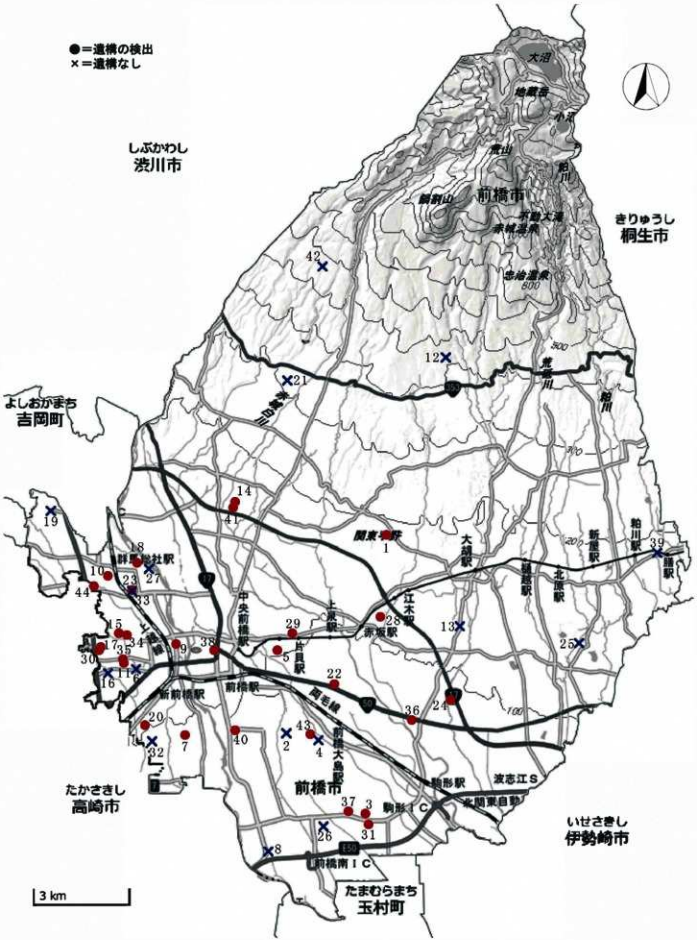
	所在地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	調査結果
1	元総社町字早道923番52	680	集合住宅（基礎工事）	R2.6.12	掘立柱建物柱穴、竪穴住居跡。土師器片、須恵器片、灰釉陶器片
2	二之宮町字中島1689-22	497	個人住宅（切土造成）	R2.6.25	埋蔵文化財検出なし
3	元総社町字屋敷2313番の一部	227	個人住宅（基礎工事）	R2.6.30	埋蔵文化財検出なし
4	元総社町字小見1649番	1,444	農地復旧（伐採・伐根・整地）	R2.7.7	埋蔵文化財検出なし
5	元総社町2348	220	宅地造成	R2.7.17・20	竪穴住居跡5件以上。土師器片、須恵器片
6	総社町総社2121	200	伐根	R2.8.12	埋蔵文化財検出なし
7	富士見町時沢2828-5他	－	市道00-199号線道路整備	R2.8.24	埋蔵文化財検出なし
8	石倉町四丁目8番19	339	倉庫（基礎工事）	R2.8.25	埋蔵文化財検出なし
9	元総社町81BL1845-1、1850	1,123	店舗（基礎工事）	R2.8.25	遺構の検出なし。土師器片、須恵器片、瓦片、鉄
10	江木町1241-5	－	市道00-046号線道路整備	R2.9.16	埋蔵文化財検出なし
11	上佐鳥町363-1、363-3、363-4、363-5	1,685	集合住宅（合併浄化槽設置工事）	R2.9.23	埋蔵文化財検出なし
12	苗ヶ島町872-2他	－	市道20-3351号線道路改良	R2.9.29	埋蔵文化財検出なし
13	総社町総社1604-3	229	水道取り出し工事	R2.9.29	埋蔵文化財検出なし
14	箕井町18ほか	700	市道09-296号線道路整備事業	R2.10.12	埋蔵文化財検出なし
15	元総社町一丁目7番8	154,800	宅地造成	R2.10.13	埋蔵文化財検出なし
16	稲川町稲里165-4ほか	－	道路改良	R2.10.20	埋蔵文化財検出なし
17	小島田町172-1ほか	4,966	店舗（合併浄化槽）	R2.10.19	埋蔵文化財検出なし
18	大胡町335番ほか	2,842	その他建物（建売住宅）	R2.10.27	埋蔵文化財検出なし
19	総社町高井字向原543番	1,547	店舗（基礎工事）	R2.10.28	埋蔵文化財検出なし
20	富士見町時沢字沢間46番1	1,463	集合住宅（基礎工事・擁壁設置）	R2.10.30	埋蔵文化財検出なし
21	稲川町前皆戸127-3他	－	道路改良	R2.11.11	埋蔵文化財検出なし
22	亀泉町466番2、466番3、466番4、466番5、462番7	6	宅地造成	R2.11.21	竪穴住居跡3軒。土師器甕片1片
23	元総社蒼海106街区（元総社町1396-6他）	182	宅地造成	R2.11.19	埋蔵文化財検出なし
24	柏倉町914番地3	1,215	牛舎建築（造成工事）	R2.12.4	埋蔵文化財検出なし
25	堤町532番1、534番4	1,805	駐車場建設（擁壁設置工事）	R2.12.7	竪穴住居跡1軒。須恵器蓋片、土師器小片
26	亀泉町466番1	6	宅地造成	R2.12.18	埋蔵文化財検出なし
27	総社町総社字町屋敷南1617番	36	墓地廃止手続きに伴う掘削	R2.12.21	埋蔵文化財検出なし
28	元総社町1743番3	1	配電設備設置	R2.12.22	埋蔵文化財検出なし
29	亀泉町466番2	274	個人住宅（基礎工事）	R3.1.6	竪穴住居跡3軒、縄文住居又は土坑1軒。縄文土器片、土師器片
30	柳島町162番1、173番	1,248	駐車場（雨水浸透施設）	R3.1.7	遺構の検出なし。土師器片
31	元総社蒼海（6街区）	－	区画道路側溝	R3.1.14	埋蔵文化財検出なし
32	本町一丁目4番1、4番2、4番6	750	店舗併設集合住宅	R3.1.19	一。石垣と見られる石（約30個）、煉瓦
33	亀泉町466番3	278	個人住宅（基礎工事）	R3.1.29	埋蔵文化財検出なし
34	元総社蒼海（6街区）	－	土地区画整理造成工事	R3.2.3	埋蔵文化財検出なし
35	元総社蒼海（6街区）	－	道路側溝工事	R3.3.12	埋蔵文化財検出なし
36	堀之下町161番地	1	電柱接地工事	R3.3.17	埋蔵文化財検出なし
37	亀泉町466番4	280	個人住宅（基礎工事）	R3.2.18	埋蔵文化財検出なし

①令和２年度　試掘・確認調査一覧表

	所在地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	調査結果
1	荻窪町392-1ほか	28,500	公園造成	R2.4.21・22	古代竪穴住居跡９軒、溝跡１条。土師器片、須恵器片
2	朝倉町946ほか	3,900	道路改良	R2.4.27・28	遺構の検出なし。土師器小片
3	西善町597番2ほか	7,983	認定こども園	R2.4.30	平安時代水田畦畔1条、中世土坑1基、柱穴1基。土師器小片
4	広瀬町一丁目30番地6ほか	512	集合住宅	R2.5.29	埋蔵文化財検出なし
5	西片貝町五丁目14番3ほか	1,640	事務所兼IDC	R2.6.16	古代の竪穴住居跡１軒、柱穴２基、近現代の溝跡２条。土師器片、須恵器片
6	元総社町一丁目25-1ほか	2,111	店舗	R2.6.19	遺構の検出なし。土師器片、須恵器片
7	後家町字堰向105ほか	13,000	宅地造成	R2.6.23・24	平安時代水田畦畔9条、中世柱穴2基
8	亀里町878ほか	1,456	工場	R2.6.26	埋蔵文化財検出なし
9	石倉町五丁目9-23	1,101	集合住宅	R2.7.1	溝跡1条。土師器片、石器
10	総社町総社2121	7,320	工場	R2.7.27	土坑1基
11	元総社町2345	994	宅地造成	R2.7.6	溝跡1条、柱穴6基。土師器片
12	柏倉町3792ほか	10,869	太陽光発電設備	R2.7.9	埋蔵文化財検出なし
13	富田町116-4ほか	2,800	道路改良	R2.8.5	埋蔵文化財検出なし
14	上細井町1564-1ほか	10,686	土地改良	R2.7.15・16	古代竪穴住居跡1軒、縄文時代竪穴住居跡1軒、縄文時代土坑。縄文土器片（諸磯ｂ）、土師器片
15	総社町総社3149	1,532	小学校プール改築	R2.8.19・20	古代竪穴住居跡17軒、古代溝跡1条。土師器片、須恵器片、羽口片
16	元総社町888-1ほか	1,464	土地区画整理	R2.8.27	埋蔵文化財検出なし
17	元総社町1574-2ほか	1,260	土地区画整理	R2.8.25	古代竪穴住居跡４軒、古代溝跡２条。土師器片、須恵器片須恵器片、瓦片
18	総社町植野142-1ほか	2,675	認定こども園	R2.8.21	中世溝跡１条、土坑または溝跡１条、土坑１基。土師器片、須恵器片
19	池端町146-8ほか	890	道路改良	R2.9.1	埋蔵文化財検出なし
20	江田町字村前26番12ほか	999	宅地造成	R2.9.3	平安時代末の水田跡（畦畔1条）
21	富士見町石井730-1	110	配水場	R2.10.6	埋蔵文化財検出なし
22	野中町86番2ほか	150	歯科診療所	R2.10.8	中近世の溝跡１条、柱穴９基
23	総社町総社1604番3	73	個人住宅	R2.10.14	古墳周堀、土坑１基。土師器片１
24	荒口町1097-1ほか	14,752	牛舎・堆肥舎	R2.10.20～22	方形周溝墓の可能性のある溝跡5条（周溝墓2基）、土坑1基。土師器片
25	西大室町2027ほか	3,902	豚舎糞尿処理施設	R2.10.27	遺構の検出なし。チャート１点
26	宮地町143番2	1,356	集合住宅	R2.10.29	溝跡1条（近現代）
27	総社町植野字東新井1-11ほか	1,055	個人住宅	R2.11.12	埋蔵文化財検出なし
28	亀泉町466番1ほか	2,692	老人ホーム	R2.11.17	竪穴住居跡７軒、縄文土坑２基、土坑５基、柱穴３基。縄文土器、土師器、須恵器、石器　1/2箱
29	西片貝町一丁目306番2	1,021	宅地造成	R2.11.20	竪穴住居跡１軒、落ち込み１。平安時代の土師器、須恵器
30	元総社町1410-1ほか	200	土地区画整理（宅地造成）	R2.11.26	竪穴住居跡６軒（古墳時代、平安時代）、縄文土器包含層。縄文土器、土師器、須恵器、瓦、緑釉陶器
31	西善町781-1ほか	54,297	産業用地宅地造成工事	R2.12.8～23	As-B軽石下水田跡畦畔。土師器
32	箱田町字道下32番3	875	宅地造成	R2.12.2	埋蔵文化財検出なし

	所在地	開発面積（㎡）	開発原因	調査年月日	調査結果
33	総社町総社1604番地2	336	個人住宅	R2.12.25	近世以降と推定される堀跡
34	総社町総社3120	242	土地区画整理	R3.1.8	古墳時代（Hr-FA降下後）の畠跡耕作痕。土師器片、瓦片
35	元総社町字屋敷2334番	131	集合住宅	R3.1.20	中世蒼海城堀跡1条。土師器片、須恵器片
36	小島田町68番1ほか	3,168	店舗	R3.1.29	平安時代の水田跡（畦畔３条）。土師器片
37	西善町615番1	3,008	老人ホーム	R3.2.9	平安時代の水田跡（畦畔１条）、溝跡１条、近世以降の溝跡４条、中世以降の柱穴
38	本町一丁目4番6ほか	763	店舗併用集合住宅	R3.2.10～18	前橋城大手門と考えられる石垣および堀跡。瓦、木片（漆喰の付着あり）
39	粕川町中328番1、320番1	5,417	店舗	R3.2.17	埋蔵文化財検出なし
40	六供土地区画整理事業118街区966-1ほか	4,319	店舗	R3.2.26	溝跡２条、土坑２基、その他に近世以降の溝跡および柱穴。土師器、須恵器
41	上細井町1569ほか	6,710	土地改良	R3.3.3・4	縄文時代竪穴住居跡1軒、縄文時代土坑5基。縄文土器片、石器片
42	富士見町赤城山1204-74ほか	8,256	太陽光発電所	R3.3.9	埋蔵文化財検出なし
43	朝倉町四丁目11番2	60	個人住宅	R3.3.11	八幡山古墳周堀
44	総社町高井字向原530-1他	17,027	店舗	R3.3.29	平安時代の竪穴住居跡1軒。土師器片、須恵器片

（5）②令和2年度　埋蔵文化財試掘・確認調査位置図



（5） 令和２年度　埋蔵文化財試掘・確認調査詳細

1　荻窪町 392-1 ほか

開発面積　28,500 ㎡　**開発原因**　公園造成

調査日　令和２年４月 21・22 日

調査の概要

開発予定地は、(主)渋川・大胡線を挟んだ荻窪公園の南側で赤城山南麓に位置する。周辺には荻窪倉兼遺跡や荻窪鯨塚遺跡が確認されている。

遺構確認は表土下 20～40 ㎝の黄褐色ローム層で行った。調査の結果、台地上の高い部分に設定したトレンチで古代の竪穴住居跡が検出された。調査地は、舌状台地上に位置し、１トレンチの遺構検出密度が高く、集落跡の主体は調査地の西側にあるものと考えられる。工事計画の変更による遺跡の現状保存が叶わなかったため、記録保存のための発掘調査を実施した。(上泉下中峯遺跡)

2　朝倉町 946 ほか

開発面積　3,900 ㎡　**開発原因**　道路改良

調査日　令和２年４月 27・28 日

調査の概要

開発予定地は、前橋協立病院の南で、端気川の東西となる江田・天川大島線の築造箇所で、前橋台地上に位置する。東に朝倉伊勢西Ⅰ～Ⅲ遺跡、西に六供東京安寺遺跡が確認されている。

遺構確認は表土下 40～100㎝の粘質土層で行った。調査の結果、極少量の遺物は出土したが、想定した古代水田跡は検出されなかった。As-B は、部分的に残存していたが、均一な堆積状況は確認されず、現代の掘削による攪乱で、遺構確認面自体が残存していない箇所も多かった。

3　西善町 597 番 2 ほか

開発面積　7,983 ㎡　**開発原因**　認定こども園

調査日　令和２年４月 30 日

調査の概要

開発予定地は(主)高崎・駒形線及び南消防署の北側で、前橋台地上に位置する。南方の中内村前遺跡等でも検出されているように広く As-B 下水田が想定される地域である。

遺構確認は表土下 38～64㎝の浅間Ｂ軽石層および表土下約 70㎝の浅間Ｃ軽石降下前の黒色土で行った。調査の結果、平安時代の水田跡が検出された。南北に走行する畦畔１条が検出されたが、敷地中央部を除き、As-B の堆積がないなど残存はあまりよくない状況であった。

4　広瀬町一丁目 30 番地 6 ほか

開発面積　512 ㎡　**開発原因**　集合住宅

調査日　令和 2 年 5 月 29 日

調査の概要

開発予定地は国指定史跡八幡山古墳と前橋天神山古墳の中央で、前橋台地上に位置する。周辺は朝倉・広瀬古墳群である。

遺構確認は、表土下 0～54㎝のローム層で行った。調査の結果、表土直下でローム層となり、遺構・遺物は検出されなかった。また、地表下約 90㎝で小礫を含む砂層となり、かつて水の流れがあったものと思われる。

5　西片貝町五丁目 14 番 3 ほか

開発面積　1,640 ㎡　**開発原因**　事務所兼 IDC

調査日　令和 2 年 6 月 16 日

調査の概要

開発予定地は東部環状の北、児童文化センターの東で、広瀬川低地帯内に位置する。周辺での遺構検出実績は少ない。

遺構確認は表土下 64～100㎝ の褐色シルト質地山で行った。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡 1 軒、柱穴 2 基等が検出された。地山層は、敷地西側では高くなり、微高地であったと考えられる。住居の出土遺物は、ほぼ小片であったが、須恵器短頸壺の蓋が出土した。覆土は噴砂が見られ、818 年の弘仁地震のものとすると、これ以前に廃絶していたと考えられる。記録保存のための発掘調査を実施した。（西片貝東高縄遺跡）

6　元総社町一丁目 25-1 ほか

開発面積　2,111 ㎡　**開発原因**　店舗

調査日　令和 2 年 6 月 19 日

調査の概要

開発予定地は市立元総社保育所の南で榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。周辺では官衙遺構等多数の遺跡が確認されている。

遺構確認は表土下 163㎝ の総社砂層地山で行った。開発予定地北側の寺田遺跡で確認されている区画溝の検出が想定されたが、遺構は確認されなかった。総社砂層は西に向かって低くなり、牛池川に開析された低地となる。元総社明神Ⅷ遺跡では、この低地で水田耕作が行われている。今回、この低湿地を埋没させて堆積した Hr-FA 泥流が確認されたが開発計画では遺跡保護層が確保される。

7　後家町字堀向 105 ほか

開発面積　13,000 ㎡　**開発原因**　宅地造成

調査日　令和２年６月 23・24 日

調査の概要

開発予定地は(主)前橋・高崎線の南、染谷川の東で前橋台地の西端に位置する。周辺では As-B 下水田が広く確認されている。

遺構確認は表土下 25～81cm の As-B 層で行った。調査の結果、平安時代の水田跡（畦畔９条）が検出された。ただし、確認を行った As-B 層は、現代の耕作土面から浅く（盛土が行われた部分は深い）、耕作が遺構確認面に及んでいる部分も多々あり、As-B の堆積がない部分もあり、残存はあまりよくなった。

8　亀里町 878 ほか

開発面積　1,456 ㎡　**開発原因**　工場

調査日　令和２年６月 26 日

調査の概要

開発予定地は(主)前橋・長瀞線の東、利根川の北で、前橋台地南端に位置する。周辺では As-B 下水田が広く確認されている。

遺構確認は表土下 175cm の As-B 層およびその下層の黒色粘質土層で行った。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。As-B が残存している箇所は点在的で、厚さも厚いところで２cm 程度となっており、残存状況はよくなかった。同層の下層は黒色粘質土であり、水田床土であった可能性があるが、畦畔は確認されなかった。

9　石倉町五丁目 9-23

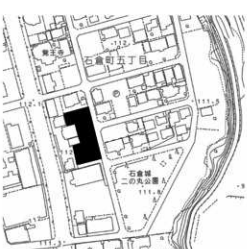
開発面積　1,101 ㎡　**開発原因**　集合住宅

調査日　令和２年７月１日

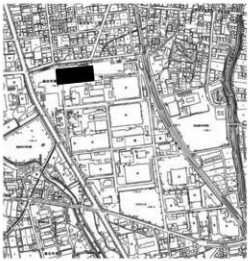
調査の概要

開発予定地は石倉城二の丸公園の北西で、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。周辺は石倉城縄張内で、外曲輪付近と想定される。

遺構確認は表土下約 100cm の浅間Ｃ軽石を含む黒色土層で行った。調査の結果、開発予定地南側で東西に走行する溝跡１条が検出された。覆土から中世と推定されるが、走行位置、方向から、三の丸と外曲輪の間の堀跡には当たらない。北側は遺構は検出されず、Hr-FA の堆積が見られた。



10　総社町総社 2121



開発面積　7,320 ㎡　**開発原因**　工場

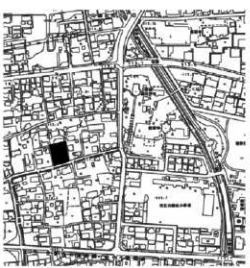
調査日　令和 2 年 7 月 27～29 日

調査の概要

開発予定地は(主)前橋・箕郷線の北、八幡川の東で、榛名山麓に位置する。周辺は南側の大屋敷遺跡で、古墳時代等の集落が確認されており、東側には総社二子山古墳が残る。

遺構確認は表土下 66cm 程度の褐灰色地山または水成堆積土で行った。調査の結果、検出されたのは土坑 1 基のみで、遺物の出土もなかった。河川由来とみられる水成堆積土が広く堆積し、自然流路も確認された。開発地南西側が砂質水成堆積土であるのに対し、北東側では粘質土となることから、南西側を流れる八幡川の氾濫原であったか、榛名水系の浅い谷状であった可能性が考えられる。

11　元総社町 2345



開発面積　994 ㎡　**開発原因**　宅地造成

調査日　令和 2 年 7 月 6 日

調査の概要

開発予定地は、県道足門・前橋線と(主)前橋・安中・富岡線に挟まれた市立元総社小学校の西側で、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。周辺では官衙遺構等多数の遺跡が確認されている。

遺構確認は表土下 56cm の総社砂層地山で行い、調査の結果、中世を中心とした溝跡 1 条及び柱穴 6 基が確認された。南側の道路は、蒼海城堀跡と言われ、検出遺構と同時期となる。地山より上の土層は残っておらず、該期の遺構は検出されなかった。地山に中世の遺構が残ることから、中世段階に削平されていると推定される。

12　柏倉町 3792 ほか

開発面積　10,869 ㎡　**開発原因**　太陽光発電設備

調査日　令和 2 年 7 月 9 日

調査の概要

開発予定地は、国道 353 号線の北、高田川の左岸で、赤城山南麓に位置する。北西には柏倉十文字遺跡が確認されている。

遺構確認は表土下 28cm のローム質地山層で行った。調査の結果、遺構、遺物は検出されなかった。工事予定地は傾斜地が段々状になっており、調査を行った平坦な部分は、すでにほぼ地山まで切土されている状態であった。標高の低い南側 2 トレンチの東端の部分で、ごく一部に As-C を含む黒色土が残っていたため、当該箇所で深堀を行ったが、縄文時代以前の遺構も検出されず、遺物の出土もなかった。

13　富田町 116-4 ほか

開発面積　2,800 ㎡　**開発原因**　道路改良

調査日　令和２年８月５日

調査の概要

開発予定地は、（主）藤岡・大胡線沿い東側で富田受水場の南西方の赤城山南麓に位置する。富田受水場付近は古墳の密集地で、稲荷前遺跡でも２基の古墳が確認されている。

遺構確認は表土下約 50㎝の黄褐色土層で行い、遺構・遺物は確認されなかった。現耕作土直下が遺構確認土層となり、その間の時期の土層が残らないことから、後世の削平が及んでいるものと考えられる。

14　上細井町 1564-1 ほか

開発面積　10,686 ㎡　**開発原因**　土地改良

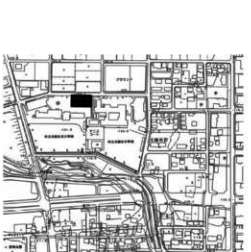
調査日　令和２年７月 15・16 日

調査の概要

開発予定地は、上武道路の北側、赤城白川の東側で現小河川のある谷地を挟んだ広域で、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は、表土下 30～70㎝の主として黄褐色のローム層で行った。旧河道である谷地を境に、その東側では遺構は検出されず、谷地西側の台地部分に遺構が検出された。検出した遺構は、古代の竪穴住居跡１軒、縄文時代の住居跡１軒、縄文時代の土坑などであり、縄文土器片（諸磯ｂ式）が出土した遺物包含層も確認された。遺構が検出された部分については、次年度に記録保存のための発掘調査を実施することとした。（上細井中西部遺跡群№４）

15　総社町総社 3149



開発面積　1,532 ㎡　**開発原因**　小学校プール

調査日　令和２年８月 19・20 日

調査の概要

開発予定地は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域の北、牛池川左岸にある市立元総社北小学校の敷地内で、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。

遺構確認は表土下 140～200㎝の灰褐色土層で行った。いずれも竪穴住居覆土である。プール解体の攪乱が深いものの、一部に As-B 混土層が残存し、これを除去した面を遺構確認面とした。調査の結果、古代竪穴住居跡 17 軒、古代溝跡１条が検出された。工事計画の変更による遺跡の現状保存が叶わなかったため、記録保存のための発掘調査を実施した。（元総社北小学校遺跡）

16　元総社町 888-1 ほか

開発面積　1,464 ㎡　**開発原因**　土地区画整理

調査日　令和 2 年 8 月 27 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 前橋・安中・富岡線の南、染谷川左岸で、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。関越自動車道以西で確認されている東山道国府ルート延伸近くである。

遺構確認は表土下 60～150㎝で行い、シルト質土、粘質土、粗砂と 4 トレンチいずれも水成堆積土であり、調査の結果、遺構は検出されなかった。染谷川の河道範囲内にあると考えられ、摩耗した遺物片が数点確認された。

17　元総社町 1574-2 ほか

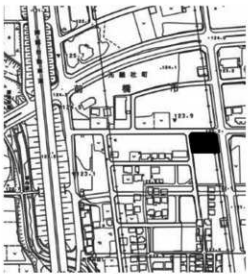
開発面積　1,260 ㎡　**開発原因**　土地区画整理

調査日　令和 2 年 8 月 25 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に国分僧寺、北に上野国分尼寺を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は、表土下約 60～80 ㎝の総社砂層地山で行い、調査の結果、古代竪穴住居跡 4 軒、古代溝跡 2 条を検出した。周辺調査状況と同様に集落跡と考えられる。遺構密度は高くはないが、残存状況は比較的良好であり、現状保存を図るよう協議を行った。



18　総社町植野 142-1 ほか

開発面積　2,675 ㎡　**開発原因**　認定こども園

調査日　令和 2 年 8 月 21 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 前橋・伊香保線の北、元景寺の南東側に隣接し、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。近隣には総社古墳群が残る。

遺構確認は表土下 55～90㎝の灰黄褐色粘質の地山で行い、中世溝跡 1 条、土坑または溝跡 1 条、土坑 1 基が検出された。勝山城と総社城の想定範囲に隣接することから、当該期の遺構の検出も予測されたが、表土下が As-C を含む黒 (褐) 色土となり、当該期の遺構はほぼ検出されなかった。

19　池端町 146-8 ほか

開発面積　890 ㎡　**開発原因**　道路改良

調査日　令和２年９月１日

調査の概要

開発予定地は、関越自動車道駒寄 IC の南西方、建設中の県道南新井・前橋線新道の南側にあり、榛名山麓に位置する。近隣は北側の建設中道路で集落が確認され、南側は清里村３号墳が残る。

遺構確認は表土下約 50 ㎝の褐色地山層で行い、調査の結果、遺構は検出されなかった。工事予定地は、「清里村３号墳」北側の微高地で、北から南へ緩やかに傾斜する地形である。既存施設跡地であり、攪乱が複数カ所認められた。北へ向かって地山は浅くなる。出土遺物も検出されなかった。

20　江田町字村前 26 番 12 ほか

開発面積　999 ㎡　**開発原因**　宅地造成

調査日　令和２年９月３日

調査の概要

開発予定地は、（主）前橋・高崎線の南、染谷川の東側で前橋台地西端に位置する。東地区周辺では広く As-B 下水田が確認されている。

遺構確認は表土下 55cm の浅間 B 軽石層（同層がほぼ確認されなかった西側 10m は、表土下 78cm の榛名二ツ岳渋川テフラ洪水層）で行い、平安時代の水田跡（畦畔１条）を検出した。

21　富士見町石井 730-1

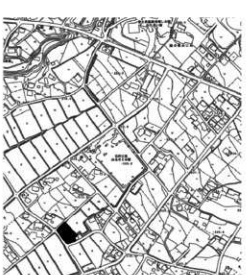
開発面積　110 ㎡　**開発原因**　配水場

調査日　令和２年 10 月６日

調査の概要

開発予定地は、国道 353 号線及び石井三区ふれあい公園の南にあり、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は表土下 100～130cm の黒褐色砂質土で行い、調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。工事予定地は、過去の土地改良により水田として整備されている。地形的には谷地形であったことが窺える。現耕作土直下は、50～70cm 厚の造成土で、これを除去した上層面を遺構確認面とした。明黄褐色粘質土上層で、植物茎の酸化痕が多く見られ、かつては湿地であったと思われる。



22　野中町 86 番 2 ほか

開発面積　150 ㎡　**開発原因**　歯科診療所

調査日　令和 2 年 10 月 8 日

調査の概要

開発予定地は、国道 50 号線北側の広瀬川低地帯内に位置する。野中環濠遺跡群が想定される範囲内である。

遺構確認は表土下約 1m のシルト質地山層で行い、調査の結果中近世の溝跡 1 条、柱穴 9 基を検出した。遺構確認面の下層は 1.6m の深さで旧利根川の砂礫層となる。As-C や Hr-FP を含む土層が残らず、中世～近世頃に一度削平されていると考えられ、検出された柱穴等は環濠に伴うものである可能性があるが、建物形状を確認するには至らなかった。

23　総社町総社 1604 番 3

開発面積　73 ㎡　**開発原因**　個人住宅

調査日　令和 2 年 10 月 14 日

調査の概要

開発予定地は、（主）前橋・箕郷線の北、史跡宝塔山古墳の東側隣接地であり、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。

遺構確認は、表土下 20cm および 140cm の総社砂層で行った。140cm は、宝塔山古墳東側の周堀である。同周堀に加え、土坑 1 基を検出した。古墳周堀は現地表から約 1 m の深さまで攪乱であり、下層の灰黄褐色土の下、にぶい黄褐色砂質土、As-B をブロック状に含む黒褐色土が覆土として堆積する。遺構を現状保存するよう協議を行った。

24　荒口町 1097-1 ほか

開発面積　14,752 ㎡　**開発原因**　牛舎・堆肥舎

調査日　令和 2 年 10 月 20～22 日

調査の概要

開発予定地は、上武道路と荒砥川が交差する上武荒砥川橋の南方で、赤城山南麓に位置する。東側は方形周溝墓等が検出された荒砥北原遺跡である。

遺構確認は表土下 61～152cm（攪乱の深さが異なるため）の地山層で行い、調査の結果、方形周溝墓の可能性のある溝跡 5 条（周溝墓 2 基）、土坑 1 基を検出した。現状保存に向け協議を行った。

25　西大室町 2027 ほか

開発面積　3,902 ㎡　**開発原因**　豚舎糞尿処理施

調査日　令和 2 年 10 月 27 日

調査の概要

開発予定地は、県道深津・伊勢崎線と東神沢川の間で、大室古墳群の北西に位置する。南東側は方形周溝墓等が確認されている上縄引遺跡である。

遺構確認は表土下 67cm のローム漸移層で行い、調査の結果、遺構は検出されなかった。過去に土地改良が行われており、客土となるローム質の土が、主に低い方の北西側に広い範囲で厚く堆積していた。

26　宮地町 143 番 2

開発面積　1,356 ㎡　**開発原因**　集合住宅

調査日　令和 2 年 10 月 29 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 高崎・駒形線の南、市立第七中学校の北、前橋台地南部に位置する。

遺構確認は表土下 72cm の白色粘質地山層等で行った。東宮地環濠遺跡群とされる範囲であるが、調査の結果、検出されたのは近現代の溝跡 1 条のみであった。

27　総社町植野字東新井 1-1 ほか

開発面積　1,055 ㎡　**開発原因**　個人住宅

調査日　令和 2 年 11 月 12 日

調査の概要

開発予定地は、市立勝山小学校の南東方、利根川右岸岸壁にあり、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。

遺構確認は表土下 51cm の青灰色地山層で行った。なお、攪乱の深い部分は最大 161cm まで掘り下げた。調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。総社城の縄張内で敷地西側の現道は堀跡とされているが、敷地の最も西寄りを掘削した 2 トレンチにおいても、堀跡の肩などは検出されなかった。

28　亀泉町 466 番 1 ほか

開発面積　2,692 ㎡　**開発原因**　老人ホーム

調査日　令和 2 年 11 月 17 日

調査の概要

開発予定地は、亀泉霊園の南、寺沢川右岸の舌状台地上にあり、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は、表土下 17～38cm のローム質地山層で行い、調査の結果、竪穴住居跡 7 軒、縄文土坑 2 基、土坑 5 基、柱穴 3 基を検出した。また、縄文土器、土師器、須恵器、石器が 1/2 箱と遺物も多く出土した。東側の谷地部分から上がった崖線上に縄文時代から平安時代まで永きに亘る生活痕が残っていた。工事計画変更の協議を行い、現状保存とした。

29　西片貝町一丁目 306 番 2

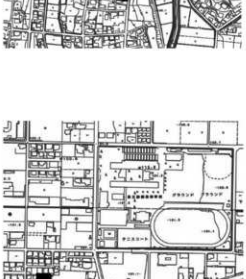
開発面積　1,021 ㎡　**開発原因**　宅地造成

調査日　令和 2 年 11 月 20 日

調査の概要

開発予定地は、上毛電鉄片貝駅北西、県立前橋高校南西の広瀬川低地帯内に位置し、周辺での遺構検出は少ない。

遺構確認は、表土下 68cm のローム質地山漸移層および水成堆積砂層で行い、調査の結果、竪穴住居跡 1 軒、落ち込み 1 が検出された。記録保存のための発掘調査を実施した。（西片貝西大道遺跡）



30　元総社町 1410-1 ほか

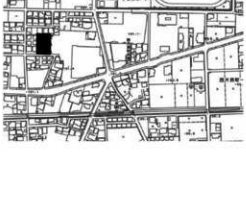
開発面積　200 ㎡　**開発原因**　土地区画整理

調査日　令和 2 年 11 月 26 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。北西に上野国分二寺、南東に総社神社を擁する上野国府推定域で、多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は表土約 50cm の総社砂層で行った。調査の結果、竪穴住居跡 6 軒、縄文土器包含層が検出された。縄文土器、土師器、須恵器、瓦、緑釉陶器と、遺物も多く出土した。次年度に記録保存のための発掘調査を実施することとした。（元総社蒼海遺跡群(146)）



31　西善町 781-1 ほか

開発面積　54,297 ㎡　**開発原因**　産業用地造成

調査日　令和 2 年 12 月 8～23 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 高崎・駒形線に面した南消防署の南側にあり、前橋台地上に位置する。南方の中内村前遺跡等でも検出されているように広く As-B 下水田が想定される地域である。

遺構確認は表土下 30～90cm の黒色粘質土層で行った。調査の結果、広大な工業用地の試掘であったが、事業地の一部となる南西部分において、As-B 下水田跡畦畔を検出された。畦畔のたかまりは僅かであったが、水田区画を認識でき、この地域において水田耕作が営まれていたことが想定される。次年度に記録保存のための発掘調査を実施することとした。(西善福禄遺跡)

32　箱田町字道下 32 番 3

開発面積　875 ㎡　**開発原因**　宅地造成

調査日　令和 2 年 12 月 2 日

調査の概要

開発予定地は JR 新前橋駅の南約 1.5km、新前橋・川曲線の西側で、前橋台地の西部に位置する。平安時代の水田跡が広く確認されている地域で、開発地の東約 200m の前箱田村西Ⅱ遺跡、同Ⅲ遺跡でも確認されている。

遺構確認は表土下約 1m の As-B 層で行い、調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。As-B 面には、水田耕作痕の可能性がある直径 10～20cm ほどの小穴が多数確認され、平安時代末の水田跡であった可能性が高いが、畦畔は検出されなかった。また、As-B 下 16cm では、As-C 層が確認されたが、畦畔は検出されなかった。

33　総社町総社 1604 番地 2

開発面積　336 ㎡　**開発原因**　個人住宅

調査日　令和 2 年 12 月 25 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 前橋・箕郷線の北、史跡宝塔山古墳の東側隣接地であり、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。

遺構確認は、表土下 1 m以上の堀跡覆土で行った。調査の結果、近世以降と推定される堀跡を検出した。試掘トレンチ設定箇所はほぼすべて同堀跡内であり、地山は、残存する墳丘のすぐ近くに一部残るのみであり、宝塔山古墳周堀は検出されなかった。検出された地山は過去に墳丘盛土が構築された下層であることが想定されるため、現状保存するよう協議を行った。

34　総社町総社 3120

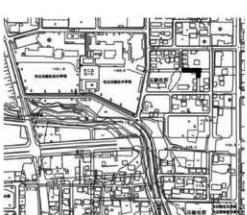
開発面積　242 ㎡　**開発原因**　土地区画整理

調査日　令和 3 年 1 月 8 日

調査の概要

開発予定地は東の牛池川、西の染谷川に挟まれた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域内に位置する。多数の発掘調査実績により縄文から近代まで濃密な遺跡地として知られる。

遺構確認は、表土下約 1.2mの黒褐色 As-C 混土で行った。調査の結果、Hr-FA 降下後の畠跡耕作痕が検出された。隣接する元総社蒼海遺跡群(14)、(88)でも同様の遺構が検出されていることから、当該地一帯は生産域として機能していたことが窺える。工事の先行する一部を立会調査し、残りを次年度に記録保存のための発掘調査を実施することとした。(元総社蒼海遺跡群(146))



35　元総社町字屋敷 2334 番

開発面積　131 ㎡　**開発原因**　集合住宅

調査日　令和 3 年 1 月 20 日

調査の概要

開発予定地は県道足門・前橋線の南で、多数の発掘調査実績のある前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業区域に隣接する。

遺構確認は表土 25cm の総社砂層で行った。蒼海城堀跡 1 条が検出された。南北に走行し、西側立ち上がりは敷地外となる。また、旧建物の攪乱が広く、蒼海(95)に近接するが、古代の遺構は確認されなかった。

36　小島田町 68 番 1 ほか

開発面積　3,168 ㎡　**開発原因**　店舗

調査日　令和 3 年 1 月 29 日

調査の概要

開発予定地は、国道 50 号線小島田町交差点の南西にあり、広瀬川低地帯の北限付近に位置する。隣接する国道 50 号部分は笂井八日市遺跡として調査が行われ、As-B 下水田等が確認されている。

遺構確認は、表土下 33cm の As-B 層等で行い、調査の結果、As-B 下水田が検出された。As-B の堆積は厚いところで 4cm 程はあるものの、工事予定地南側ではほぼ残存しておらず、全体として残存状況は不良で、畦畔の検出も 3 条に止まった。また、古墳時代の水田跡は確認されなかった。

37　西善町 615 番 1

開発面積　3,008 ㎡　**開発原因**　老人ホーム

調査日　令和 3 年 2 月 9 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 高崎・駒形線の北、藤川の東で、前橋台地南部に位置する。

遺構確認は表土下 30～95cm の As-B 層または As-B 混土層下面で行った。As-B 層は、工事予定地中央部の東西約 25 m の範囲にのみ残り、この中央部は谷地状に深くなり、畦畔も 1 条確認されていることから、旧地形の低かった場所で水田耕作が行われたことが考えられる。また、工事予定地西側の微高地では、As-B を覆土とする溝跡 1 条、As-B 混土の溝跡 3 条、中世以降の柱穴が検出された。西側微高地は水田域ではなく、集落が営まれたと想定される。

38　本町一丁目 4 番 6 ほか

開発面積　763 ㎡　**開発原因**　店舗併用集合住宅

調査日　令和 3 年 2 月 10～18 日

調査の概要

開発予定地は、群馬県庁の東で、国道 17 号線と 50 号線が交差する本町一丁目交差点の南西にあり、前橋台地に位置する。

遺構確認は表土下 140cm の地山層で行い、調査の結果、石垣および堀跡が検出された。石垣は 2 段以上残存し、東から西へ 2 石、西側で南へ曲がって南北に 5 石、南側で西へ曲がって東西に 3 石の範囲を確認した。切込接で、一石の大きさは車橋門を上回り、位置および形状から、江戸時代前期の前橋城大手門のもので、検出した箇所は大手門から南側の堀へ橋が架かる袂の東側と考えられる。石垣の南側は、堀となり、瓦や漆喰の付着した木片が出土した。

39　粕川町中 328 番 1、320 番 1

開発面積　5,417 ㎡　**開発原因**　店舗

調査日　令和 3 年 2 月 17 日

調査の概要

開発予定地は、上毛電鉄膳駅の西方、(主) 前橋・大間々・桐生線の北側に面し、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は表土下 30cm の As-C 混土層下面及び表土下 130cm の黒褐色粘質土層で行い、調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。開発予定地は、過去に試掘が実施され As-C 下水田が検出されている。今回、現表土からの深さが不明であるため、開発計画に伴って確認調査を実施したが、過去の試掘の際に部分的な調査が行われ、その後も現代の耕作面から浅いためか、As-C 純層は確認されず、耕作面と捉えられる畦畔も検出されなかった。

40　六供土地区画整理事業 118 街区 966-1 ほか

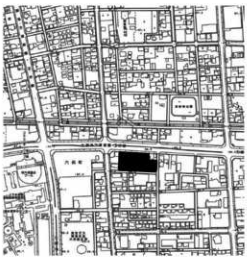
開発面積　4,319 ㎡　**開発原因**　店舗

調査日　令和３年２月 26 日

調査の概要

開発予定地は、（主）前橋・玉村線の南側に面し、前橋台地に位置する。北側道路は六供中京安寺遺跡Ａ区であるが、開発予定地に近接する箇所では、ほぼ遺構がない。

遺構確認は、表土下約 75㎝の黒色 As-C 混土層で行い、調査の結果、溝跡２条、土坑２基、その他に近世以降の溝跡および柱穴を検出した。



41　上細井町 1569 ほか

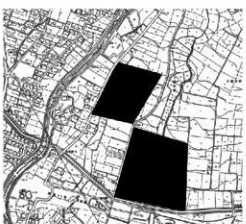
開発面積　6,710 ㎡　**開発原因**　土地改良

調査日　令和３年３月３・４日

調査の概要

開発予定地は、上武道路の北側、赤城白川の東側で現小河川のある谷地の西側広域で、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は表土下 40～80㎝ の主として黄褐色ローム層で行い、調査の結果、南側の試掘調査区④⑤において縄文時代の竪穴住居跡１軒、土坑５基を検出した。北側の試掘調査区①②は、水成堆積のきめ細かい砂層で、遺物の出土もなかった。遺構が検出された部分については、次年度に記録保存のための発掘調査を実施することとした。（上細井中西部遺跡群№４）



42　富士見町赤城山 1204-74 ほか

開発面積　8,256 ㎡　**開発原因**　太陽光発電所

調査日　令和３年３月９日

調査の概要

開発予定地は、赤城南麓広域農道の北側で、赤城山南麓に位置する。

遺構確認は表土下 80cm 以上の自然堆積で残るローム質地山層で行い、調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。現表土から深くまで近現代の掘削が及んでいるところがほとんどで、浅いところでも 80cm 以上、深いところでは２ｍを超えて攪乱となっていた。残る自然堆積土部分にも遺構は確認されなかった。

43　朝倉町四丁目 11 番 2

開発面積　60 ㎡　**開発原因**　個人住宅

調査日　令和 3 年 3 月 11 日

調査の概要

開発予定地は、史跡八幡山古墳の北西側に隣接し、前橋台地上に位置する。

遺構確認は表土下 76cm の明黄褐色砂質地山層で行い、調査の結果、八幡山古墳の周堀を検出した。周堀内には Hr-FA が良好な状態で堆積しており、周堀外周側の立ち上がりが確認された。協議の上、遺跡保護層を設け、現状保存となった。

44　総社町高井字向原 530-1　他

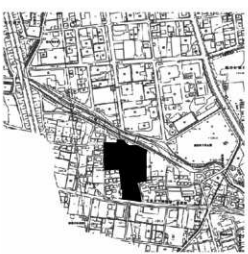
開発面積　17,027 ㎡　**開発原因**　店舗

調査日　令和 3 年 3 月 29 日

調査の概要

開発予定地は、(主) 前橋・箕郷線の北側、関越自動車道の東側にあり、榛名山麓から前橋台地へ接続する付近に位置する。西側の関越自動車道部分は、FA 下水田や平安時代集落が確認された北原遺跡である。

遺構確認は表土下約 1～1.5m の総社砂層地山で行い、調査の結果、平安時代の竪穴住居跡 1 軒を検出した。記録保存のための発掘調査を実施した。(総社高井向原遺跡)



(6)令和２年度　埋蔵文化財発掘調査詳細

①令和２年度上野国府等範囲内容確認調査

調 査 地　前橋市元総社町 2029-2 ほか

調査期間　2020. 6. 1～12. 4

調査面積　588 ㎡

調査担当　阿久澤智和・齋藤颯

調査概要と主な成果

令和２年度上野国府等範囲内容確認調査は、元総社町内の宮鍋神社周辺における発掘調査で礎石建物跡（掘込地業）や掘立柱建物跡の検出が相次いだことから、①宮鍋神社周辺における礎石建物や掘立柱建物跡等の官衙に関係した建物跡の検出。②これら建物跡の外周を区画する施設（溝跡等）の検出を目的として、宮鍋神社の北側に２か所、宮鍋神社境内で２か所、宮鍋神社の南西から南にかけて３か所にトレンチを設定し調査を行った。

調査の結果、官衙関連もしくは国府を考える上で重要と思われる遺構として、70 トレンチで古代の道路跡１条、73 トレンチで礎石建物跡１棟、古代の道路跡２条、古代の溝跡６条が検出された。

73 トレンチで検出された礎石建物跡は、布地業が「枠形」を呈するタイプのもので、令和２年度度調査までの段階で 73 トレンチでの例も含めて宮鍋神社周辺で少なくとも３例目の検出事例と言える。布地業は一部が削平されていたため、その全体像を確認することはできなかったが、布地業は東西 12. 5m以上、南北 9mの規模と測り、北から西へ 11 度の傾きをもつ。この礎石建物の布地業は 10 世紀代の住居により壊されていることから、10 世紀には建物は廃絶していたと考えられる。この「枠形の布地業」をもつ礎石建物については、その建物の方向や、他の遺構との重複関係から推定される推定される存在時期に共通していることから、宮鍋神社周辺では、８世紀から９世紀にかけて官衙に関連した同様の構造をもつ建物が立ち並んでいたと推定される。

調査トレンチ位置図

73 トレンチ　礎石建物跡（枠形の布地業）

73 トレンチ　古代の道路跡と溝跡

73 トレンチ　礎石建物跡　版築断面

73 トレンチ　廃棄遺構（11 世紀代）

令和２年度　上細井中西部遺跡群発掘調査概報

1　本概報は、群馬県中部農業事務所が計画した令和２年度（農山）県営水利施設等整備事業（畑地帯担い手育成型）上細井中西部地区（以下「上細井中西部地区土地改良事業」という。）に伴い実施した令和２年度発掘調査に係る概要報告書である。

2　上細井中西部地区土地改良事業は、平成 30 年度から５か年計画で施工され、埋蔵文化財発掘調査も当該事業と並行して実施される。本年度は５か年計画の３年目にあたる。

3　令和２年度工区（Ｃ工区）内での発掘調査について

遺　跡　名：上細井中西部遺跡群№３

遺跡コード：２Ｂ２２

調査区所在地（1 調査区）

１区　前橋市上細井町１５４５ほか　（調査対象面積：８，７２４㎡）

合　計：８，７２４㎡

調査担当者：前橋市教育委員会事務局　文化財保護課　埋蔵文化財係

松村輝敏・村越純子

調査期間：令和２年　６月１６日～令和３年　１月２７日

4　令和３年度工区（Ｄ工区）内での先行発掘調査について

遺　跡　名：上細井中西部遺跡群№４

遺跡コード：３Ｂ２４

調査区所在地（２調査区）

１区　前橋市上細井町１６０３ほか　（調査対象面積：４，３８３㎡）

２区　前橋市上細井町１５６０－１ほか（調査対象面積：３，５３９㎡）

合　計：７，９２２㎡

調査担当者：前橋市教育委員会事務局　文化財保護課　埋蔵文化財係

松村輝敏・村越純子

調査期間：１区　令和２年　６月　５日～令和２年　７月２１日

令和２年１２月１５日～令和２年１２月１８日

２区　令和２年１１月１３日～令和２年１２月　３日

令和２年１２月２５日～令和３年　２月２６日

5　調査方針

発掘調査及び資料整理は、前橋市長と群馬県中部農業事務所長との間で、埋蔵文化財発掘調査に係る業務委託契約を締結し実施した。なお、発掘調査経費のうち農家負担分については、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助）、群馬県文化財保存事業費補助金並びに市費により実施した。

6　発掘調査の各種記録、出土遺物は、前橋市教育委員会が保管している。

Ⅰ　調査の経緯と経過

前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）では、令和元年度に令和２年度工区（以下「Ｃ工区」という）を対象とした試掘・確認調査を実施した。試掘・確認調査結果と土地改良事業に伴う造成工事計画を基に、上細井中西部土地改良区、群馬県中部農業事務所、市教委の三者で、Ｃ工区の発掘調査実施スケジュールについて協議を行い、上武国道（国道１７号バイパス）以北に１か所の調査区を設定した。また、Ｃ工区西側に隣接する令和３年度工区（以下「Ｄ工区」という）の一部も合わせて発掘調査を行うこととした。

令和２年５月２２日付けで、群馬県中部農業事務所長と「令和２年度埋蔵文化財発掘調査業務委託契約」を締結し、その後、現場事務所設置、発掘調査作業員任用、土木機械手配等の準備を進め、同年６月５日に現場での表土掘削作業を開始した。当該年度の現場作業は概ね予定通り進み、令和３年１月 27 日をもってＣ工区の発掘調査は全て終了した。また、発掘調査成果については、現地説明会を１０月１１日に開催し、地域への還元を図った。（別添現地説明会資料参照）

なお、Ｃ工区の遺構検出数量が当初の想定数量を下回るものであったため、Ｄ工区内で試掘・確認調査を実施し、調査可能な個所（Ｄ工区２区）を先行して発掘調査することとした。調査は１１月１３日から開始し、２月２６日をもって古代面の調査を終了したが、次年度に縄文面の調査を持ち越すこととなった。

今年度出土した遺物については、洗浄作業および一部注記作業、遺構毎の仕分け整理を行った。出土遺物の注記・接合・復元、実測作業、遺物写真撮影等の整理作業は、令和３年度以降に実施予定である。

Ⅱ　遺跡の地理的・歴史的環境

群馬県の中央部にある前橋市は、北に赤城山、西は榛名山に囲まれ、南には関東平野が広がる。前橋市の地域を地形および地質の特徴から区分すると、北東部の「赤城南麓斜面」、南西部の洪積台地である「前橋台地」、前記両者の間に挟まれて地溝状をなす沖積低地である「広瀬川低地帯」に分けられる。

この赤城南麓斜面には、赤城白川、藤沢川、荒砥川、粕川などの河川が流下し、丘陵性地形を侵食することで、南北に長い起伏のある丘陵性台地を形成している。また、こうした河川や台地端部での湧水の影響で枝状の開析が進み、台地と谷地が複雑に入り組む地形となっている。上細井中西部遺跡群は、標高約 400m の旧富士見村大河原付近を扇頂として東端を藤沢川、西端を細ヶ沢川の広い範囲で緩斜面を形成している白川扇状地の扇端付近に所在する。扇端は標高 130～120m で北西から南東に６㎞で「広瀬川低地帯」と侵食崖で接している。

上細井中西部遺跡群の所在する赤城南麓斜面には、一般国道 17 号線の渋滞混雑緩和のために計画された大規模バイパス道（上武道路）が建設された。当該工事に伴い埋蔵文化財発掘調査も数多く行われ、様々な時代の遺構や遺物が見つかっている。上武道路が通過する地

域は、3万年前の旧石器時代以降、多くの遺跡が残されている。

旧石器時代は、新田上遺跡のAs-YP下から細石刃・細石刃核などが、上細井中島遺跡のAs-Okp下や上細井蝉山遺跡のAs-Okpを含む層からは剥片等が出土している。上細井中西部遺跡群の周辺では旧石器でも比較的新しい時代の遺物が発見されている。

縄文時代は、新田上遺跡から前期・中期、上細井中島遺跡から早期と中期、上細井蝉山遺跡から前期後半、上細井五十嵐遺跡から前期中葉～後葉の竪穴住居跡が検出されている。これまでの上細井中西部遺跡群の調査の結果、上細井中西部遺跡群№1の3区と№2の1・4・5区から縄文時代前期の竪穴住居跡が発見されている。

弥生時代の遺跡は非常に少ないが、新田上遺跡から弥生時代中期前半から後半にかけての竪穴住居跡が発見されている。上細井中西部遺跡群№2の1区からも弥生時代中期の住居跡が見つかっている。

古墳時代は、山王・柴遺跡から後期の集落が発見されたほか、古墳や小石棺墓、畑跡といった生産域の遺構も見つかっている。

奈良・平安時代になると遺跡数が増加し、8世紀後半から10世紀中ごろまでの集落が展開しており、特に9世紀の遺構が多い。山王・柴遺跡や上細井五十嵐遺跡では拠点的な集落が営まれていたことが確認されている。

中・近世で注目されるのは、南北朝期（延文5年：1360年）に書き記された「神鳳抄（じんぽうしょう）」にある青柳御厨と細井御厨の位置であるが、現在のところ相当する遺跡は発見されていない。

Ⅲ　調査の成果

C工区、D工区ともに、縄文時代の土坑、奈良・平安時代の竪穴住居跡を中心とする集落跡を検出した。

C工区では、奈良・平安時代の遺構として竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡等が検出された。竪穴住居跡は8～9世紀代のものが大部分を占め、出土遺物も、一般の住居で用いられていた土師器・須恵器などの土器がほとんどであったが、平瓶・青銅製の鉈尾などの官衙関連遺物や牛の文字と絵が描かれた墨書・墨画土器、「田」の字が刻まれた刻書土器など祭祀に関係すると思われる遺物なども出土している。また、金床石と思われる被熱した大きな石が検出された住居跡もあり、鍛冶・製鉄に関する遺構と考えられる。縄文時代の遺構としては、土坑が15基見つかっているが、遺物は縄文土器深鉢片が数点出土したのみであった。

D工区では、1区から平安時代の住居跡が2軒重複した状態で見つかっている。縄文時代の土坑からは、ほとんど遺物は検出されなかったが、7号縄文土坑からは、縄文時代前期の深鉢の底部が出土した。2区からは竪穴住居跡、土坑・ピットが見つかっている。住居跡はほとんどが8世紀代のもので、覆土の堆積状況から、人為的に埋められた住居が数軒確認できた。

1　令和２年度工区（Ｃ工区）

(1)　１区

調査区は東西に走行する現道を挟んで南側の（Ｃ工区１区-１）と北側の（Ｃ工区１区-２）に分かれる。縄文時代の土坑１５基、奈良・平安時代の竪穴住居跡４５軒、掘立柱建物跡１棟、溝跡２条、集石遺構２基、土坑８基を検出した。

Ｃ工区１区-2 調査区１面目全景（上が北）

Ｃ工区１区-1 調査区１面目全景（上が北）

【縄文時代】

縄文時代の遺構は、調査対象地内をトレンチ状に重機で掘削し、遺構の確認された範囲を拡張する方法で調査を行った。その結果、土坑１５基が確認された。落とし穴と考えられる土坑は４基確認されたが、規則的に並ぶ、疎密があるといった分布上の特徴は見られなかった。土坑から出土した遺物はほとんどなく、縄文土器深鉢片がわずかに出土しただけであった。

Ｃ工区１区　１号縄文土坑断面（南から）

【奈良・平安時代】

Ｃ工区で検出された竪穴住居跡は大半が８～９世紀代のものであった。竪穴住居跡はほとんどが長方形を呈し、いずれの住居跡のカマドも東壁に構築されていて比較的規模の小さい住居であった。

２２号住居跡は北西壁が張り出しを持っていた。床面に住居の中央付近から遺物が点々と分布していたが、張り出し部の機能は不明である。また、この住居の南西部には長さ３０㎝ほどの大きな砥石が発見されている。Ｃ工区の他の住居跡からは、鎌などの鉄製品も発見されており、集落内の鉄製品の手入れを行っていたのではないかと考えられる。

Ｃ工区のカマドの中には、煙道に土師器の甕を埋め込んだものやカマドの壁や袖に石を使用するものがみられた。５号住居跡・１４号住居跡では煙道先端部に土師器の甕が口縁部を下にした状態で埋め込まれていた。

２号住居跡には袖石が据えられており、カマドを構築していたと考えられる石材がカマド周辺に多数分布していた。13 号住居跡では、カマドの壁に大きな亜角礫が用いられていた。他の住居跡でも、袖石が残る例やカマド周辺に構築材と考えられる石材が分布する例がみられた。

出土遺物で特筆すべき点は、「牛」の文字が書かれた墨書土器や「田」の文字が刻まれた刻書土器、「大」の字が刻まれた刻書紡錘車などの文字資料が出土したことである。

また、平瓶や青銅製の鉈尾など官衙に関連するような遺物も発見されたことは大きな特徴といえる。

22 号住居跡全景（南から）

14 号住居跡カマド煙道部（西から）

2 号住居跡全景（西から）

13 号住居跡カマド全景（西から）

1）掘立柱建物跡について

本調査区では１棟検出した。１１号住居跡の周囲を回るように柱穴が並んでいた。一か所は住居と重複していて、柱穴の方が古いことを確認した。２間×２間のほぼ正方形を呈す。柱穴はいずれも円形を成し、規模が小さい。柱穴の中には、柱のあたりを持つものもあった。

平成３０年度・令和元年度の調査で検出された掘立柱建物跡と比較すると、柱穴も小さく、より簡単な建物であったことがうかがえる。

1 号掘立柱建物跡と 11 号住居跡（上が南）

２）製鉄・鍛冶遺構について

２７号住居跡からは、赤く焼けた使用痕が認められる金床石が遺構のほぼ中央部に設置され、石の周囲の床面も赤化していた。令和元年度に調査された鍛冶・製鉄に関わる遺構からは、鍛造剥片が大量に発見されたがここでは見つかっていない。しかし、鉄滓も見つかっているため、この遺構が製鉄・鍛冶に関わるものではないかと考えられる。また、他の住居跡で、紡錘車、鎌などの鉄製品が見つかっていることから、この地で製鉄から製品作りまで行われていたことがうかがえる。

27 号住居跡全景（西から）

3）３５号住居跡に伴う不明施設について

３５号住居跡の西壁には、用途の不明な施設が付属していた。当初、袖石状のものが据えられていることから住居の西カマドではないかと考えていたが、断ち割って断面を確認したところ、住居外に向かって掘り込みがなされているものの、焼土は一切検出されなかった。この施設の入り口には、大形の土師器甕の口縁部が置かれており、土器の内側を確認したところ、わずかに煤のようなものが付着しているためこの施設が灯明台として使用されていた可能性があるのではないかと考えている。

35 号住居跡に付属する不明施設（東から）

4）出土遺物について

出土遺物量は、土師器、須恵器、陶器、鉄製品、青銅製品、銭貨、石製品など変化に富んでいる。中でも特徴的な事案について、以下に述べる。

第一に様々な文字資料が出土したことが挙げられる。酸化焔焼成の須恵器の高台椀の内外に「田」の文字が刻まれた刻書土器、黒色土器の外側に「牛」の文字が書かれた墨書土器、石製の紡錘車に「大」の文字が刻まれた刻書紡錘車である。

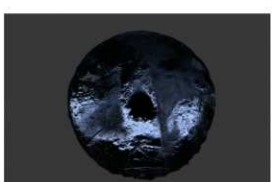
第二に水差し（平瓶）、青銅製の鉸尾といった帯飾りなど官衙関連遺物が出土したことである。

先述した文字資料の出土を考慮すると、この集落には文字の読み書きができる役人（集落を管理する立場にある人）がいたと推察される。しかし、同様に文字資料や官衙関連遺物が出土した昨年度の集落跡で大型竪穴住居跡や大きな柱穴をもつ掘立柱建物跡が検出されたことに比較すると、今年度調査の集落跡は小型の住居跡で構成されている。そして、文字資料や官衙

関連遺物が発見されたのは、いずれも比較的小型の住居跡からである。よって、今年度調査と昨年度調査の集落跡に住む識字層の人物には、階層の違いがあった可能性も考えられる。

17 号住居跡出土刻書土器(「田」の文字)

1 号住居跡出土　墨書土器
(「牛」の文字)



15 号住居跡出土　石製紡錘車
(「大」の文字)

25 号住居跡出土平瓶

41 号住居跡出土鉈尾(青銅製)

2　令和３年度工区（Ｄ工区）

(1)　１区

縄文時代の土坑２０基、平安時代の竪穴住居跡２軒、古代溝跡３条、土坑９基・ピット８基等を検出した。調査区は、Ｃ工区１区と隣接している。遺構は、平安時代の住居跡が２軒重複した状態で検出された。特筆すべき点は、１号住居跡から鉄滓が大量に検出されたことである。鉄製品は出土していないが、特にカマドの周りから鉄滓が多く検出されている。Ｄ工区の１区では、１・２号住居跡以外には住居跡は検出されておらず、隣接するＣ工区１区の住居跡の分布域からも離れて孤立している。この住居跡が明らかに他の住居跡とは異なる役割を持っているのではないかと考えられる。

縄文時代の遺構は、Ｃ工区と同様に調査対象地内でトレンチ状に重機掘削し、遺構の認められた範囲を拡張する方法で調査を行った。

Ｄ工区１区調査区全景（右が南）

【縄文時代】

検出された縄文時代の土坑は、大きい規模のものはほとんどが調査区南側に集中していた。土坑からは、ほとんど遺物は検出されなかった。

7号縄文土坑の底からは、縄文時代前期の深鉢の底部が出土しており、この土器は、底部を上にした逆さまの状態で検出された。胴部や口縁部など他の部分は一切発見されなかった。

7号縄文土坑出土深鉢（西から）

【奈良・平安時代】

竪穴住居跡は、2軒重複して検出された。新しい方の住居はカマドの残存状況も良好であった。カマドの周辺からは大量の鉄滓が見つかっており、この住居跡が製鉄・鍛冶に関連する遺構であることが明らかである。金床石などは見つかっていないが、住居の南西部からは破砕した礫が多数発見された。

1号住居跡全景（南から）

(2)　2区

奈良・平安時代の竪穴住居跡１０軒、土坑８基・ピット８４基を検出した。

発見された住居跡はほとんど８世紀代のものであった。９世紀代の住居跡が１軒あるが、９世紀には集落としては機能していなかったことがわかる。８世紀代にのみこの地に小規模な集落が営まれた理由については、生産城の変遷や周辺の集落遺跡の盛衰との関わりなどを見ていく必要があると思われる。

また、D工区２区の南東にあたる昨年度の調査区や上細井蝉山遺跡・上細井中島・新田上遺跡などでは奈良・平安時代の遺構の内９世紀代の住居跡が多く見つかっている。時期ごとに分布域が異なっているのか、D工区の周辺の未調査地の発掘調査も必要となると思われる。

出土遺物では、縄文土器、土師器・須恵器などの土器片、鉄製品、石製品等が検出されている。C工区１区とは異なり、一般の人々が生活に使用していたと思われる道具であり、特殊な遺物は発見されていない。

縄文時代の調査は、C工区・D工区１区と同様に調査対象地内でトレンチ状に重機掘削し、遺構の認められた範囲を拡張する方法で行う。調査は、令和３年度に行う予定である。

D工区２区全景棟名山を望む（右が北）

【奈良・平安時代】

竪穴住居の規模は、長軸3m程度の比較的規模の小さい住居跡で、長方形を呈するものあった。カマドは、いずれも住居の東壁の中央よりやや南に据えられていた。住居跡、土坑、ピットなどの遺構は調査区の西側に偏って分布していた。

重複していた住居跡はなかったが、９号住居跡は最初に作った小さな住居の床を埋めて新しく床を作り、８０㎝ほど北側に拡幅していた。

9号住居跡全景（西から）

D工区２区の住居跡には住居の柱穴が残る遺構がほとんどなかったが、１０号住居跡は、４つの柱穴が検出された。

10号住居跡全景（西から）

1）石組みのカマドについて

1号住居跡のカマドは、袖石や擁壁に使用された石材が据えられたままで残存していた。天井部を構成していたと考えられる石もカマド周辺から検出された。6号住居跡のカマドは擁壁として据えられた石材が良く残っており、内側が赤化していた。9号住居跡のカマドは袖から擁壁、煙道部まで石材がしっかりと並べられていた。また、遺構外には天井部に使用したのではないかと思われる扁平な石が分布していた。

9号住居跡の石材は整然と並べられていたのに対して、1・6号住居跡の石材は乱雑に並べられていた。D工区のカマドに使用されていた石は、加工のされていないやや丸みを帯びた川原石であった。

他にも、袖石が残るものや支柱石が残るものなど、非常に良好にカマドの石材が残されていた。上細井中西部遺跡群のこれまでの調査と合わせて、石をカマドの構築材として用いる例が多くみられるといった特徴があるようである。

1号住居跡全景（西から）

6号住居跡カマド全景（西から）

9号住居跡カマド全景（西から）

1）ピット群について

本調査区ではピットを 84 基検出したが、掘立柱建物跡の柱穴と考えられるピットは検出できなかった。

また、住居跡の床面の精査や掘方の調査によっても柱穴を検出できなかった住居があったため、住居跡周辺の精査を行ったが、住居外に柱穴を確認できたものはなかった。

D 工区 2 区　調査区南西部ピット群

令和2年10月11日（日）
前橋市教育委員会

上細井中西部遺跡群No.3 現地説明会資料

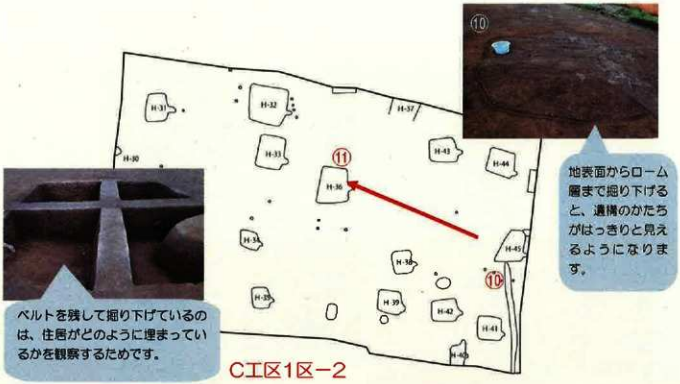
調査地（c工区）全景（左が北）

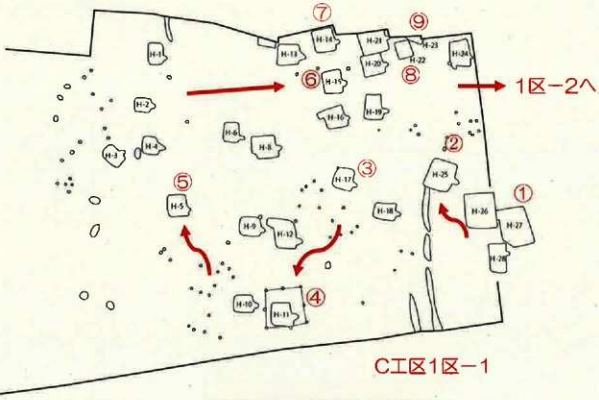
前橋市教育委員会では、平成30年度から上細井中西部地区土地改良事業に伴い、埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。今年度の調査地は、赤城山西南麓に位置し、赤城白川によって形成された白川扇状地の扇端部にあります。

調査の結果、縄文時代の土坑、奈良・平安時代（8世紀から9世紀）の集落跡が見つかりました。現地説明を行うC工区からは、住居跡44軒、掘立柱建物跡1棟、溝跡2条等が発見されています。

当時の生活を考えるうえで重要な遺物が出土しており、この地域の集落の実態がさらに明らかになってきています。

■調査主体　前橋市教育委員会　文化財保護課
〒371−0853　前橋市総社町三丁目11-4
☎027−280−6511



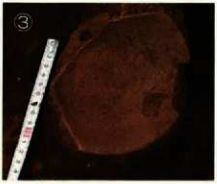


①製鉄・鍛冶の行われていた住居跡

鉄を作る時に出る鉄クズである鉄滓や熱を受けて赤く変色した金床石などが見つかっています。

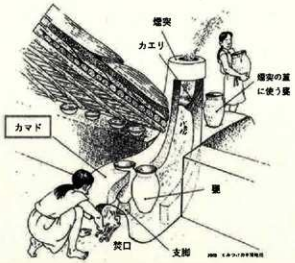
②平瓶出土状況

古代の文房具である平瓶（ひらか）と呼ばれる水差しが出土しました。



③17号住居跡出土刻書土器「田」

須恵器（酸化焔）の高台椀の表面と内側に「田」の文字が刻まれていました。

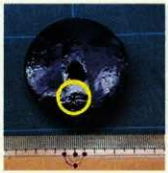


⑤・⑦煙道にかめが埋め込まれたカマド

カマドの煙道に土師器のカメが使われていたと考えられます。

⑥15号住居跡出土石製刻書紡錘車

糸を紡ぐために使用された道具である紡錘車が出土しました。「大」の文字が刻まれた珍しいものです。



⑧張り出し部をもつ竪穴住居跡

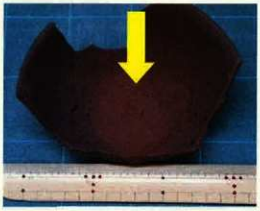
住居の北西隅に張り出しが確認されました。入口の施設などの用途が考えられます。

⑨23号住居跡遺物出土状況

奈良時代の住居跡と考えられます。土器の他に鎌など鉄器も発見されました。

【墨書・刻書土器】

C工区1区-1
1号住居跡出土
墨書・墨画土器「牛」
黒色土器高台椀



C工区1区-1
17号住居跡出土
刻書土器「田」
須恵器（酸化焔）
高台椀

上細井中西部遺跡群の調査では、住居跡から墨で絵や文字が描かれた土器や文字が刻みつけられた土器が見つかっています。

集落遺跡で見つかるこれらの土器は、一文字だけが記された例が多数を占めています。また早い例では奈良時代の前半ごろから土器に文字が記入されるようになりました。

墨書・刻書土器の中には村落内部における祭祀・儀礼に伴って使われたと考えられる例もあります。

【縄文時代の遺構と遺物】

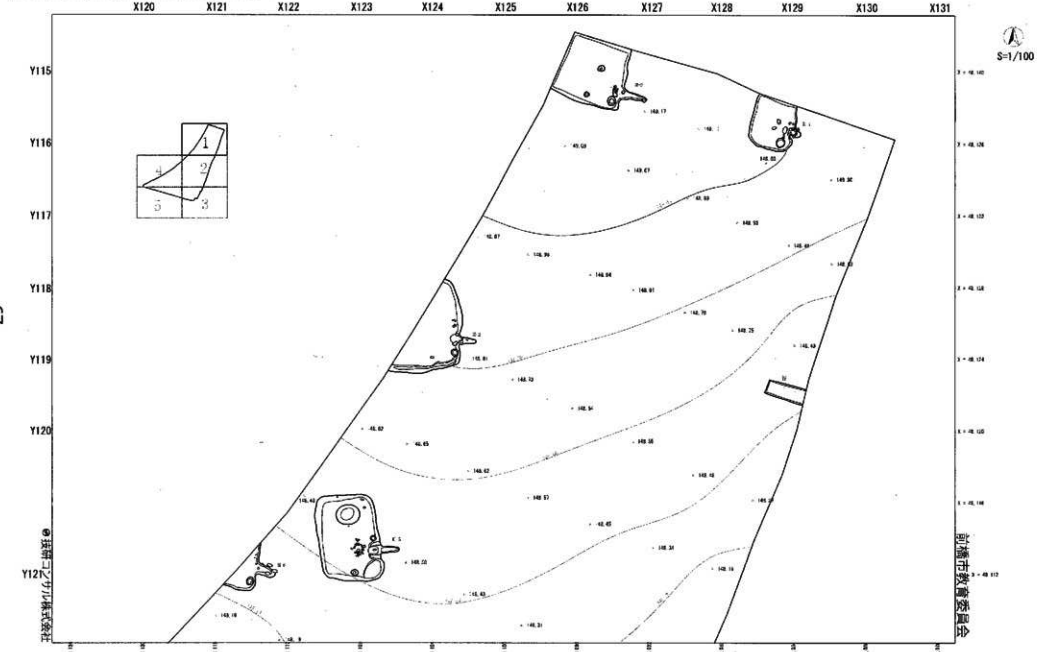
D工区1区　7号縄文土坑

C工区に隣接するD工区の調査では、縄文時代の土坑がたくさん見つかっています。
その中で、大きさ1mほどの7号縄文土坑からは、縄文土器が底を上にしたさかさまの状態で発見されました。

遺構略称	遺構・調査区・層位		図種	縮尺	標準点	水糸高
	上細井中西部遺跡群No.4		平面図	1/100		
作業月日	作図・実測	作記	遺物	No	備考	
経営	株式会社ジオテクノロジー					

上細井中西部遺跡群No.4 D工区2区

全体図1



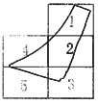
株式会社ジオテクノロジー
財団法人埼玉県教育委員会

遺構略号	遺構・調査区・周位	図種	縮尺	磁北角	水糸高
	上細井中西部遺跡群No.4	平面図	1/100		
作月日	作図・実測作記	遺物	N o	備考	
04.02	設測コンサル水				

上細井中西部遺跡群No.4 D工区2区

全体図2

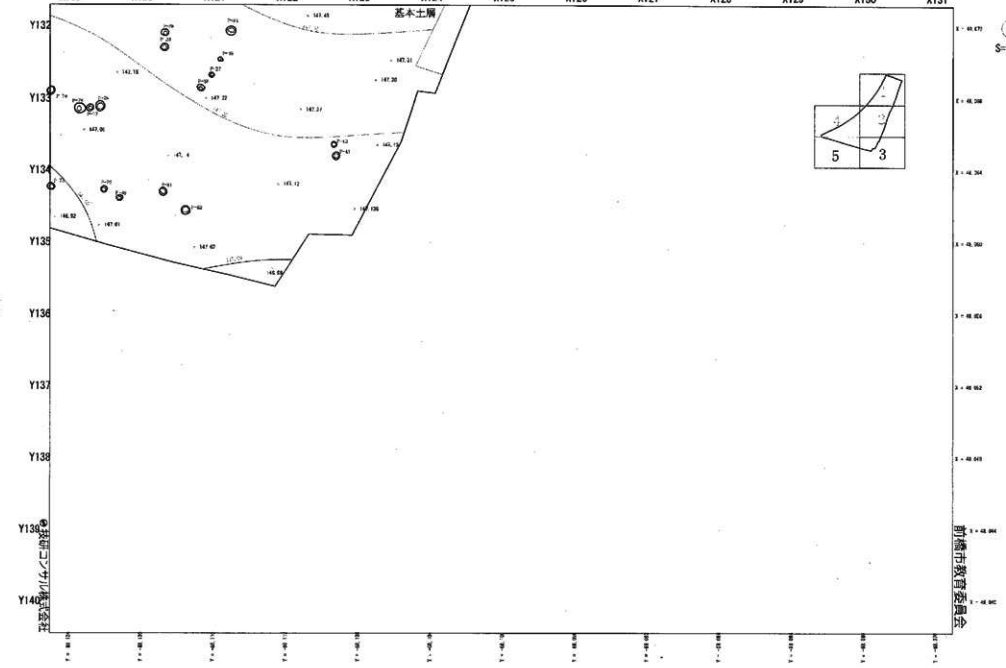
S=1/100



遺構略称 遺構・調査区・与位		図幅 縮尺 遺構実 水準原
上細井中西部遺跡群No.4		平並列 1/100
年月日 作図・実測 註記 遺物		No 備考
12.02		

上細井中西部遺跡群No.4 D工区2区

全体図3

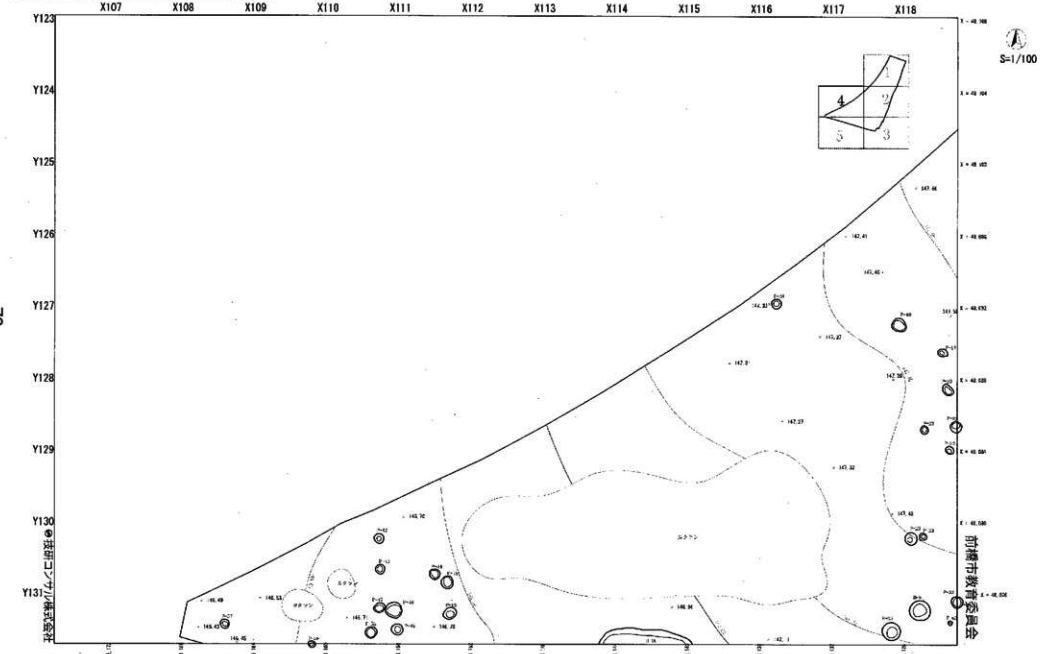


財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
財団法人埼玉県教育委員会

遺構略称 遺物・調査区・場位		縮尺	1/100
上細井中西部遺跡群No.4		平面図	
年月日	作図・実測	No	
R5.12			

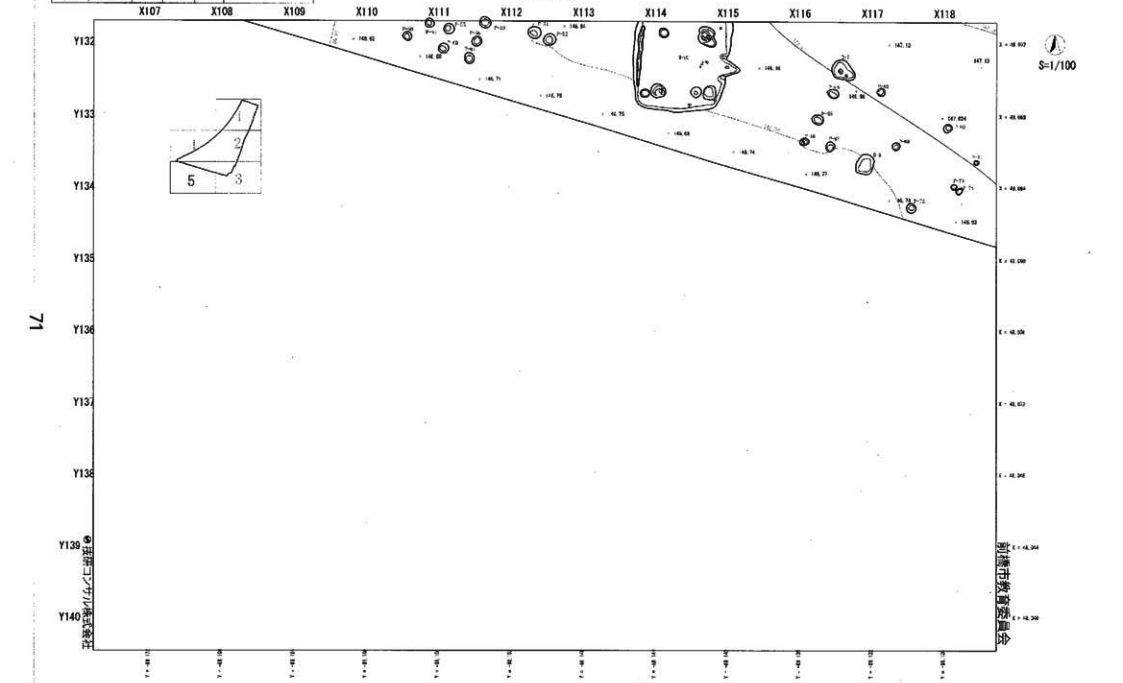
上細井中西部遺跡群No.4 D工区2区

全体図4



上細井中西部遺跡群No.4 D工区2区

全体図5



③元総社蒼海遺跡群(140)

調 査 地　前橋市元総社町1388-1 ほか
調査期間　R2.6.18～8.12
調査面積　326 ㎡
調査原因　土地区画整理事業
調査担当　高橋清文（有限会社毛野考古学研究所）

調査の概要

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う発掘調査は、２２年目となる。事業区域全体が、周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市0142遺跡）であり、多岐に渡る貴重な調査成果を得ている。当該工事内容は、恒久的構築物である道路築造であること、また周囲の発掘調査状況から、工事施工前の記録保存を目的とした発掘調査が必要と判断し、前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年６月３日付けで前橋市と有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約を締結し、６月１８日より調査を開始した。

調査地は、事業区域西側の南北に走る西通線を挟む。東側を１区、西側を２区とした。調査の結果、１区では竪穴住居跡５軒、蒼海城堀跡１条等、２区では竪穴住居跡１１軒、土坑１０基、ピット８０基等を検出した。

１区は、微高地と低地との境に位置し、東に向かって傾斜する。中近世以降の造成により大きく削平を受けており、住居跡は浅い掘り込みが確認できた程度である。また、調査区東端部で中世蒼海城堀跡が南北に走る。

２区は、１１軒の住居跡が調査区西半分に集中して検出された。本調査区も現代の削平を受けており、遺構残存度は良好でない。多数のピットについては、中世屋敷跡に関連するものと考えられる。

元総社蒼海遺跡群(140)
1区全景（写真上が北）

元総社蒼海遺跡群(140) 1区
中世蒼海城堀跡（西から）

元総社蒼海遺跡群(140)
2区全景（写真上が北）

④元総社蒼海遺跡群(141)

調 査 地　前橋市総社町総社 3090-4 ほか
調査期間　R2. 6. 12～7. 20
調査面積　559 ㎡
調査原因　土地区画整理事業
調査担当　中村岳彦（技研コンサル株式会社）

調査の概要

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う発掘調査は、２２年目となる。事業区域全体が、周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0142 遺跡）であり、多岐に渡る貴重な調査成果を得ている。当該工事内容は、恒久的構築物である道路築造であること、また周囲の発掘調査状況から、工事施工前の記録保存を目的とした発掘調査が必要と判断し、前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年６月２日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、６月１２日より調査を開始した。

調査地は、事業区域中央北側で東西に走る中央大橋線を挟む。北側をＡ区、南側をＢ区とした。調査の結果、Ａ区では、古墳時代の竪穴住居跡３軒、古代の道路状遺構、Ｂ区では、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡７軒、溝跡１条等が検出された。本遺跡で特筆すべきは、Ａ区の道路状遺構である。牛池川の浸食崖を３m以上開削した切通し状の路体と砂利敷きの強固な路面を有する。開削時期は、周辺での道路状遺構調査を考慮すると、８世紀前半を遡ることはないと考えられる。遺構覆土でレンズ状に堆積する As-B が確認でき、その直下からの出土遺物や切通し廃絶後、As-B 降下までの自然堆積等から、主な使用期間は、９世紀後半から１０世紀後半と推測される。

元総社蒼海遺跡群(141)　A区全景（写真上が北）

A区　牛池川へ向かう切通し状の道路遺構（写真左：全景　　写真右：道路遺構土層断面）

A区　道路遺構底部の砂利敷き検出状況

B区全景（写真上が北）

⑤元総社蒼海遺跡群(144)

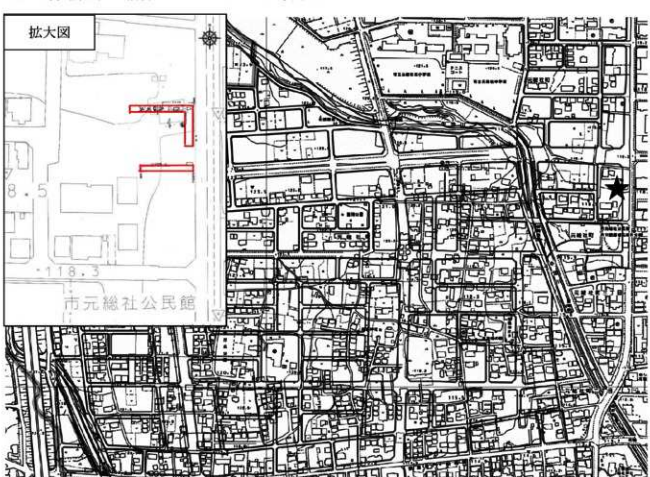
調 査 地　前橋市総社町総社 3601-1 ほか
調査期間　R2. 5. 29～5. 31（1 期調査）
　　R2. 7. 10～7. 21（2 期調査）
調査面積　125 ㎡
調査原因　土地区画整理事業
調査担当　岩丸展久・小峰　篤

調査の概要

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う宅地造成工事(13 街区擁壁工事)にあたり、前橋市（区画整理）と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行なった。協議の結果、市教委が当該工事施工に立会い、遺構が検出された場合は市教委直営の緊急調査で対応することとした。

調査地は、事業区域東端部で、中央大橋線と元総社公民館との間に位置する。擁壁工事に伴う調査の為、調査区は幅約２～３ｍのトレンチ状を呈す。擁壁は、北面、南面、東面に設置されることから、調査区名も北トレンチ、南トレンチ、東トレンチとした。なお、１期調査は北面擁壁部分の西側３分の１、２期調査は北面擁壁の中央部から南端部、南面擁壁部、東面擁壁部である。遺構確認面は、総社砂層（にぶい黄褐色土）及びＡｓ－Ｃ混土（黒色土）で行なった。東トレンチ西壁面では、Ａｓ－Ｃ軽石の一次堆積が部分的に確認された。また、北トレンチ北壁面及び南トレンチ北壁面では、Ａｓ－Ｃ混土、Ｈｒ－ＦＡが緩やかなレンズ状に堆積する様子が観察できた。Ｈｒ－ＦＡの堆積は比較的厚く、非常に硬く締まっていた。

明確な遺構が検出されたのは北トレンチのみで、古代の竪穴住居跡２軒、土坑４基、古墳時代の溝跡１条である。



Ｈ－１号住居跡

形状・規模等：南北(1.85)ｍ、東西(3.4)ｍ、壁高17㎝、面積（6.29）㎡　床面：総社砂層の地山で固く締まる。　竈：東壁南寄りに設置。残存状況は良好でなく、土層断面で焼土とその直下に灰層が堆積する。布目の平瓦が出土したことから、竈構築にあたり使用したものと考えられる。　貯蔵穴：南西隅に設置される。　重複：なし。

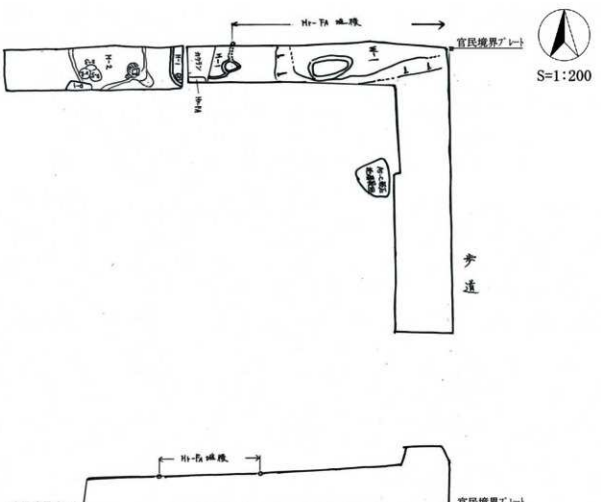
Ｈ－２号住居跡

形状・規模等：南北(2.5)ｍ、東西(4.0)ｍ、壁高23㎝　床面：総社砂層の地山で固く締まる。

竈：南東隅に設置される。竈内壁に石材が直立した状態で出土。また、焚口には天井石として使用された凝灰岩が割れた状態で出土した。竈煙道部付近には、Hr-FA が 5～10 ㎝の厚さで堆積し非常に硬く締まっていた。この Hr-FA 層を煙道の天井部として利用した痕跡が確認できた。　貯蔵穴：南西隅に設置される。本貯蔵穴は、Ｄ－２号土坑及びＤ－３号土坑と重複している。土坑の規模は、ほぼ貯蔵穴と同一であることから、Ｈ－２号住居跡に関連した遺構の可能性も考えられる。　重複：Ｄ－１～３号土坑

Ｗ－１号溝跡

形状・規模等：東西方向に走る（9.5）ｍの溝跡。北トレンチ内では、南側の立ち上がりが確認できたが、北側は調査区外である。総社砂層が緩やかに下り、深さは約 50 ㎝を測り、底部は平坦である。覆土は、総社砂層直上に As-C 軽石を含む黒褐色土及び黒色土、HR-FA 層がレンズ状に堆積している。



元総社蒼海遺跡群（144）調査区全体図

元総社蒼海遺跡群(144)　北トレンチ中央部から南端部全景（西から）

Ｈ－２号住居跡全景（北から）

Ｗ－１号溝跡土層断面

北トレンチ北壁面 Hr-FA 体制状況

⑥元総社蒼海遺跡群(145)

調 査 地　前橋市総社町総社 3583 ほか
調査期間　R2. 11. 4～12. 25
調査面積　1,467 ㎡
調査原因　土地区画整理事業
調査担当　佐野良平（技研コンサル株式会社）

調査の概要

元総社蒼海土地区画整理事業に伴う発掘調査は、２２年目となる。事業区域全体が、周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0142 遺跡）であり、多岐に渡る貴重な調査成果を得ている。当該工事内容は、恒久的構築物である道路築造であること、また周囲の発掘調査状況から、工事施工前の記録保存を目的とした発掘調査が必要と判断し、前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年１０月２７日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、１１月４日より調査を開始した。

調査地は、事業区域の東端、元総社公民館の南隣接地である。牛池川左岸の崖線上に位置する。調査の結果、６世紀～１０世紀の竪穴住居跡１７軒、竪穴状遺構５軒、周溝墓と考えられる溝を含め１４条の溝跡等を検出した。調査区西側の牛池川崖線では、総社砂層の採掘が確認された。採掘場としての役割を終えた後は、土壙墓の検出状況から墓域として使用された可能性が想定される。本遺跡で特筆すべきは、多数検出したピットのうちの１基から、金銅製の仏像が出土したことである。像高約８ｃｍ、台座を含めると約１０ｃｍの観音菩薩立像である。近隣の蒼海（７５街区）№２では、仏像製作のための鋳型が出土していることから、元総社地域での小金銅仏鋳造が行われていたものと考えられる。

元総社蒼海遺跡群(145)調査区全景　（写真上が北）

調査区遠景（県庁方面を望む）

小金銅仏出土状況

小金銅仏（観音菩薩立像）正面及び左側面

⑦元総社蒼海遺跡群(75 街区)No. 2

調 査 地　前橋市元総社町 1754、1848-3
調査期間　R2. 6. 4～7. 13
調査面積　524 ㎡
調査原因　倉庫建設
調査担当　岡野茂・前田和昭
　　(技研コンサル株式会社)

調査の概要

令和２年３月３日付で開発者から提出された試掘確認調査依頼に基づき、同年３月 12 日に確認調査を実施した結果、竪穴住居跡等を確認した。遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更は困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

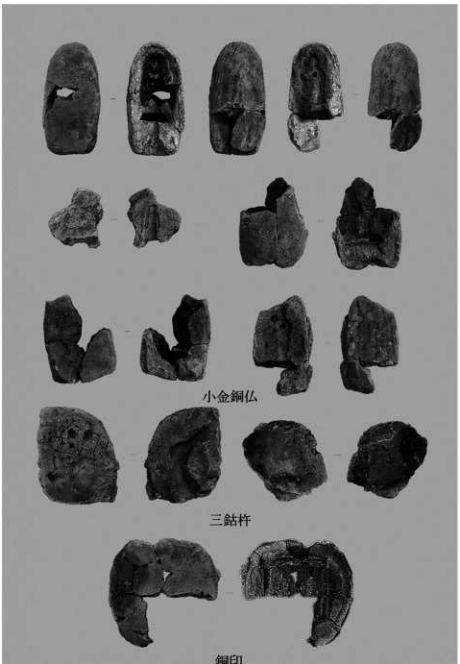
令和２年６月１日、開発者と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約が締結され、同年６月４日より発掘調査を開始した。

調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡１軒、平安時代の竪穴住居跡 14 軒、10 世紀の工房跡１軒、中世以降の道路状遺構１条、時期不明の溝跡１条、土坑６基が検出された。

H-7 と付番した竪穴状の掘り込みは、施設内遺構及び出土遺物から、工房であることが確認された。竈の痕跡がなく、工房専用施設として造られたとみられる。施設内遺構として、炉跡３基、土坑６基、ピット７基を検出した。

炉跡からは金箔片、取瓶、坩堝、銅印の鋳型が、ピットから小金銅仏の鋳型が出土し、他にも三鈷杵の鋳型や銅滓、鍛造剥片、金床石等が出土している。小金銅仏の鋳型は５体分６点であり、うち２点が重合され、残存状況もよく、長さ 8.1cm を測る。他の個体はこれに近い寸法か、やや小さい。

金箔片が出土していることから、鋳造から金箔を貼り付ける作業まで一貫して行われたことも想定される。



元総社蒼海遺跡群（75 街区）No. 2 出土鋳型

調査区西側全景（右が北）

調査区東側全景（右が北）

⑧元総社北小学校遺跡

調 査 地　前橋市総社町総社 3149
調査期間　R2. 10. 1～12. 2
調査面積　208 ㎡
調査原因　プール改築
調査担当　中村岳彦（技研コンサル株式会社）

調査の概要

元総社北小学校プール改築建築工事にあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0018 遺跡）内であること、元総社蒼海遺跡群に近接することを考慮し、試掘確認調査を実施した。調査の結果、古代の竪穴住居跡を検出した。工事計画による遺構の現状保存については、配管溝の一部分及び新設管理棟基礎部分が困難であると判断し、範囲を限定した記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年９月２４日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、１０月１日より調査を開始した。

調査地は、牛池川の浸食作用によって形成された、低地平野と台地の左岸崖線付近に位置する。北には山王廃寺跡が近接する

調査の結果、弥生時代後期から１１世紀にかけての竪穴住居跡２２軒を検出した。主体となるのは、９世紀後半から１０世紀後半のものであった。重複は激しく遺構検出密度は高い。各遺構の全容把握が困難ななかでも、６号住居跡については、カマドが比較的良好に残存していた。特に煙道部の天井は崩落していないことが分かった。床面直上の出土遺物や他遺構との重複関係から、７世紀後半の所産と思われる。なお、１０月２９日に元総社北小学校児童全員と元総社中学校の見学希望者を対象に遺跡見学会を開催した。

元総社北小学校遺跡　遠景（北東から牛池川方向を望む）

元総社北小学校遺跡　調査区全景（写真左：A区　　写真右：B区）

遺跡見学会の様子

6号住居跡全景

⑨池端屋敷小路遺跡

調 査 地　前橋市池端町154-10 ほか
調査期間　R2. 5. 20～6. 8
調査面積　436 ㎡
調査原因　道路築造
調査担当　高橋政充（技研コンサル株式会社）

調査の概要

清里地区南北幹線２期整備事業に係る道路築造工事にあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0107 遺跡・前橋市 0885 遺跡）内であること、また上毛古墳総覧に記載のある「清里村３号墳」が近接することを考慮し、試掘確認調査を実施した。調査の結果、As-B 軽石の堆積する掘り込みが検出され、古墳周堀の可能性が高いと判断した。工事計画の変更は困難であることから、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。市教育委員会では既に直営発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年５月１５日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、５月２０日から調査を開始した。

調査地の地形は、北から南へ緩やかに傾斜する。比高差にして約 2.5m となる。また、調査地は、「清里村３号墳」西側に隣接することから、墳丘部を巡る周堀の検出が想定された。調査の結果、調査区北側で、周堀の肩部を確認した。当該肩部からは、墳丘部（南東方向）へ向かって傾斜しており、本来の地形とは異なる様相を呈している。これに対し、調査区南側では北側より傾斜が比較的緩やかで、地形本来の傾斜を示すものであることから、調査区南側は周堀内、若しくは周堀南端部の可能性が考えられる。したがって、周堀の外周部は、調査区の西を巡るものと思われる。なお、周堀の最深部と目される部分は、現在群馬用水路（調査区外）となっている。

池端屋敷小路遺跡　全景（写真上が北）

⑩田口滝ノ前遺跡

調 査 地　前橋市田口町27-1 ほか
調査期間　R2. 5. 11～8. 3
調査面積　2,164 ㎡
調査原因　上武国道　道の駅新設
調査担当　三宅敦気（技研コンサル株式会社）

調査の概要

前橋市新設道の駅整備運営事業にあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0008 遺跡）内であること、近隣の発掘調査実績を考慮し試掘確認調査を実施した。調査の結果、古墳時代及び平安時代の水田跡を検出した。工事計画による遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年４月２８日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、５月１１日より調査を開始した。

調査地は、赤城南麓の火山斜面と広瀬川低地帯との境界で低地帯側に位置し、周辺は水田地帯である。

【Ａｓ－Ｂ軽石下水田】

非常に遺存状態が良好で、畦畔の高まりを確認できた。検出した畦畔は、南北７条、東西７条で水田面は２２面である。水口は６カ所確認できた。また、配水路と思わる溝１条、東西畦と重複し並行する溝１条、歩行列と思われる足跡など検出した。

【Ｈｒ－ＦＡ洪水層下小区画水田】

非常に遺存状態が良好で、調査区北と西隅では大畔を検出した。南北１６条、東西３６条の畦畔を検出し、水田面数は２７０枚に上る。ほぼすべての水田面に水口を確認した。大畔に近い北西部の畦畔は、やや湾曲して作られており、地形に沿ったものと考えられる。

As-B 軽石下水田面（写真上が北）

Hr-FA 洪水層下水田面（写真上が北）

As-B 軽石下水田　畔と並行する溝

Hr-FA 洪水層下の小区画水田

As-B 軽石下水田　水口

基本土層

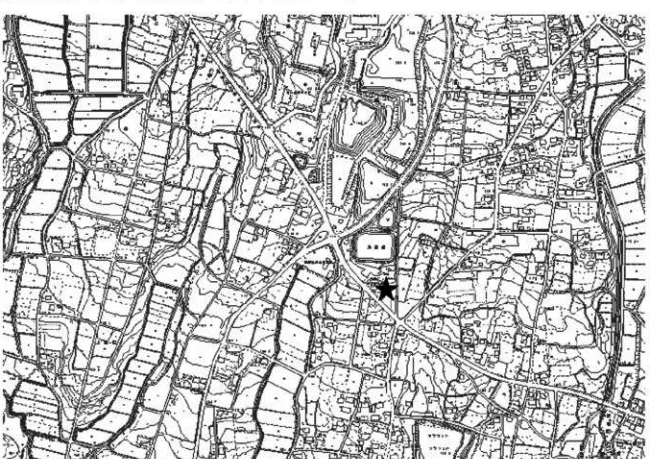
⑪荻窪倉兼Ⅲ遺跡

調 査 地　前橋市荻窪町732-7ほか
調査期間　R2. 5. 10～7. 22
調査面積　1, 239㎡
調査原因　荻窪受水場　配水池築造
調査担当　永井智教（山下工業株式会社）

調査の概要

前橋市水道局の施工する荻窪受水場配水池築造工事にあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市0060遺跡）内であること、近隣では温泉施設建設等に伴う発掘調査実績を考慮し、試掘確認調査を実施した。調査の結果、古代の竪穴住居跡、土坑を検出した。工事計画による遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市水道局と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年４月１４日付けで前橋市水道局と山下工業株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、５月１０日より調査を開始した。

調査地は、県道渋川大胡線沿いで赤城南麓火山斜面の台地上に位置する。調査の結果、竪穴住居跡２４軒、掘立柱建物跡８棟、柵跡１０条、土坑２０基、ピット多数を検出した。検出された遺構は多岐に渡るが、古墳時代後期末から平安時代にかけての遺構が主体となる。特に、７世紀末から８世紀中葉の竪穴住居跡で最も規模の大きい１９号住居から、「大」の墨書を有する土師器坏が複数出土した。墨書土器の催少なこの時期においては、特筆すべき遺物といえる。また、１９号住居跡は１辺が約８ｍの大型住居で、他の住居跡と明らかに異なる入念な構造である。さらに、大型の掘立柱建物跡や柵跡の存在を考慮すると、一般的に掘立柱建物や基壇建物から構成される郡衙とは異なり、豪族の居宅と考えることが自然であると言える。



荻窪倉兼Ⅲ遺跡　調査区全景（写真左が北）

１９号住居跡全景（西から）

平瓶出土状況

１９号住居跡出土の墨書土器　赤丸の中に「大」の墨書

⑫上泉下中峯遺跡

調 査 地　前橋市上泉町２丁目 2342-1 ほか
調査期間　R2. 7. 30～10. 7
調査面積　1, 084 ㎡
調査原因　公園造成
調査担当　永井智教（山下工業株式会社）

調査の概要

荻窪公園県道南ゾーン造成工事にあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0056 遺跡）内であること、近隣での温泉施設建設等に伴う発掘調査実績を考慮し、試掘確認調査を実施した。調査の結果、古代の竪穴住居跡を検出した。工事計画による遺構の現状保存は困難であると判断し、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年６月２９日付けで前橋市と山下工業株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、７月３０日より調査を開始した。

調査地は、県道渋川大胡線南の赤城南麓火山斜面の台地と谷地との境に位置する。調査の結果、竪穴住居跡２３軒、掘立柱建物跡７棟、溝跡３条、土坑３基、ピット多数を検出した。検出した遺構は、縄文時代、古墳時代後期～奈良・平安時代、中近世と多岐に渡っている。主体となるのは、古墳時代後期～奈良時代にかけての竪穴住居跡と掘立柱建物跡等である。７世紀後半の４軒は北カマド、７世紀前半と８世紀以降は東カマドとなり、近隣の荻窪遺跡群と同様の傾向が見られる。また、大型の住居跡、中型の住居跡については、改修を重ねながら複数時期に亘って使用された可能性が考えられる。

その他、調査区北側で検出された１号土坑は、径、深さともに３ｍの巨大で底部に円形の段を有する。「氷室」の可能性も考えられる。

上泉下中峯遺跡　調査区全景（写真右が北）

1号土坑全景（写真左）　1号土坑土層断面（写真右）

石組みのカマド

須恵器底部裏面に墨書「厨」

⑬朝倉上廊遺跡

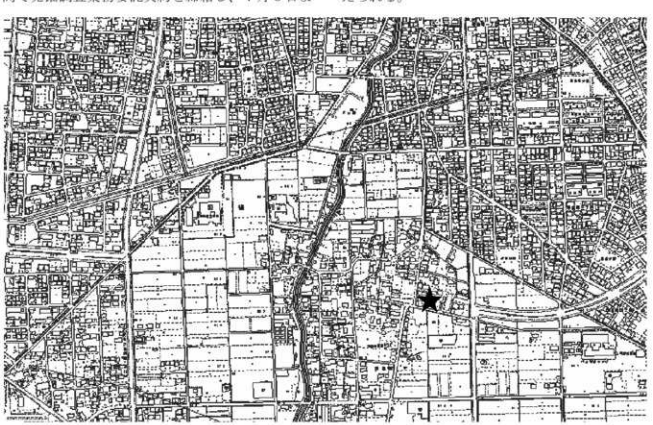
調 査 地　前橋市朝倉町 116-1 ほか
調査期間　R2. 7. 6～11. 18
調査面積　1,620 ㎡
調査原因　道路築造
調査担当　福嶋正史（株式会社シン技術コンサル）

調査の概要

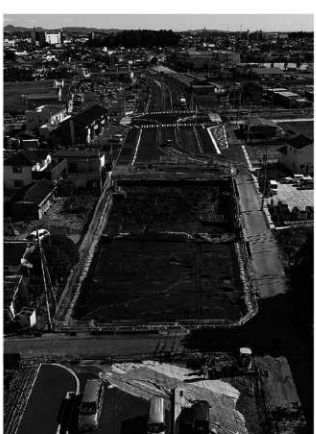
（都）江田天川大島線（市道 15-767 号線）道路築造にあたり、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地（前橋市 0285 遺跡・前橋市 0286 遺跡）内であること、東には朝倉伊勢西遺跡群が近接することを考慮し試掘確認調査を実施した。調査の結果、古代の竪穴住居跡が検出された。道路という恒久的構築物の築造であることから、記録保存のための発掘調査実施について前橋市と協議を行った。協議の結果、市教育委員会では既に直営の発掘調査を実施中であるため、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。令和２年６月２３日付けで前橋市と株式会社シン技術コンサルとの間で発掘調査業務委託契約を締結し、７月６日より調査を開始した。

調査地は、前橋台地の北東辺縁部に位置し、南には水田地帯が広く続く。調査の結果、奈良～平安時代の集落跡、用水路と考えられる大型の溝跡等を検出した。集落跡については、低地に囲まれた狭い微高地に形成されており、激しく重複していた。８世紀～１０世紀にかけての住居跡が４５軒確認され、最盛期は９世紀後半と考えられる。近接する朝倉伊勢西遺跡群でも同時期の集落跡が見つかっており、本遺跡は集落の西限と考えられる。

住居跡以外の遺構としては、８世紀代に構築された溝跡が挙げられる。特に３号溝跡は大型のもので、調査区南端に沿って東西に走る。北側の肩部は検出されたが、南側については調査区外である。堆積土層の大半は水成で、複数回掘り直された痕跡が見られる。水田開発に伴う灌漑用水路としての性格を有すると思われる。なお、西端の縁辺底面から８世紀中葉の土師器坏、土師器甕が複数個体集中して出土した。祭祀関連の可能性も考えられる。



朝倉上廊遺跡調査区全景（写真上が北）



遺跡遠景（西から）

W-3 号溝跡遺物出土状況（北から）

W-3 号溝跡断面（東から）

⑭川曲柳橋Ⅳ遺跡

調 査 地　前橋市川曲町字柳橋 153-1 ほか
調査期間　R2. 3. 23～4. 17
調査面積　1520 ㎡
調査原因　校舎建設
調査担当　中村岳彦（技研コンサル株式会社）

調査の概要

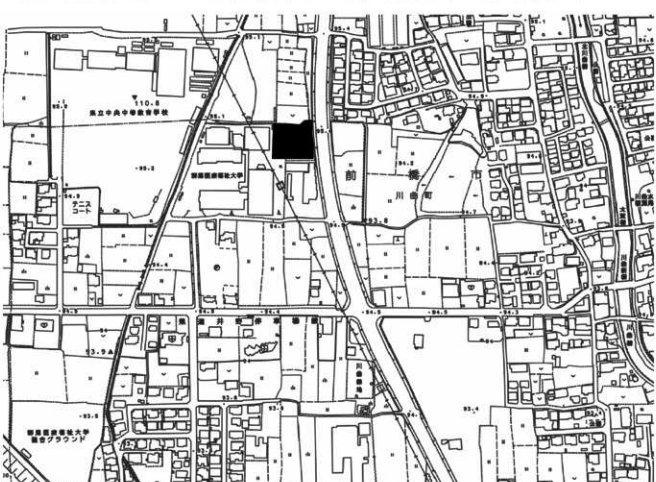
令和２年１月１０日付で開発者から提出された試掘確認調査依頼に基づき、同年１月２２日に確認調査を実施した結果、As-B 下水田跡等を確認した。遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更は困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

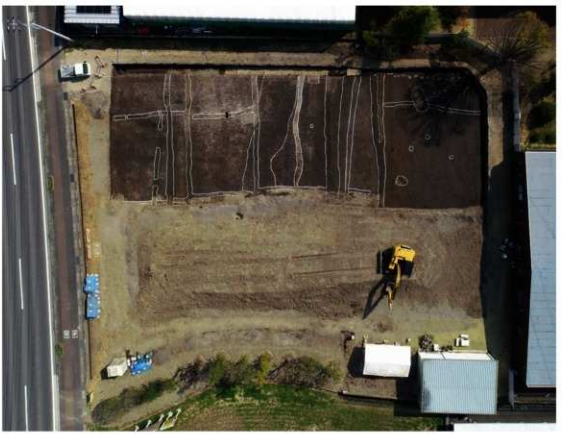
令和２年３月１３日、開発者と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約が締結され、同年３月２３日より発掘調査を開始した。

調査の結果、平安時代の As-B 下水田が調査区全面に検出され、古墳時代から奈良時代の溝跡１条、中近世の溝跡５条、ピット４基が検出された。

As-B 下水田は、南北方向の畦畔を５条検出し、うち１条は最大下幅 1.8m、高さ 0.06m程の大畦畔となる。大畦畔中央を掘り込む小溝が確認されたが、大畦畔全体には延伸しない。また、東西畦畔との置石１点も確認された。東西方向の畦畔は７条検出し、１条は大畦畔の可能性がある。この東西畦畔は、最大下幅 0.42m高さ 0.04mと規模は小畦畔と変わらないが、周辺遺跡の調査で検出された大畦畔と坪境の推定ライン上に位置する。検出された水田面は 21 面で長地型が想定される。取水口は９箇所検出した。南北大畦畔の西側は北から南へ、東側は北東から南西へ配水していたと考えられる。また、調査区南西部では水田面に東西方向に歩行する人間の足跡が確認された。

また、水田面下層では As-C 層が検出され、その下層で自然流路や旧河道が検出された。





川曲柳橋Ⅳ遺跡調査区南側全景（下が北）

川曲柳橋Ⅳ遺跡調査区北側全景（下が北）

⑮総社昌楽寺廻窪道遺跡 No. 2

調 査 地　前橋市総社町総社 2874 番 1 ほか
調査期間　R2. 4. 3～5. 1
調査面積　193 ㎡
調査原因　宅地造成
調査担当　小林一弘（株式会社シン技術コンサル）

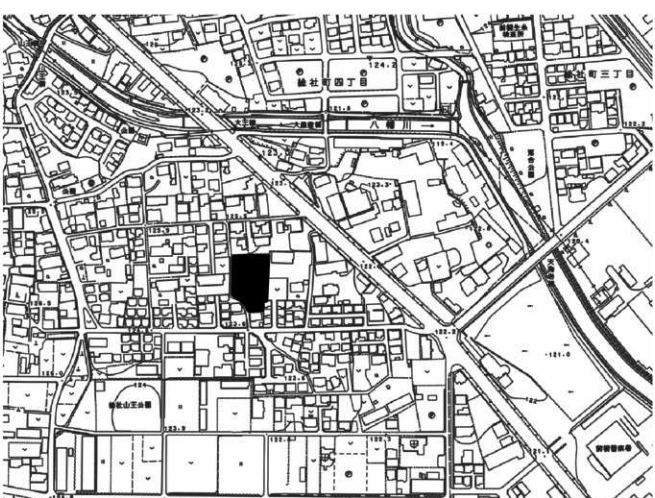
調査の概要

令和元年 12 月 12 日付で開発者から提出された試掘確認調査依頼に基づき、令和２年１月９日に確認調査を実施した結果、竪穴住居跡等を確認した。遺跡の現状保存に向けて協議を行ったが、計画変更は困難であることから、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

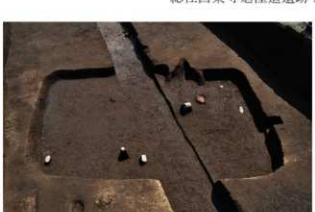
令和２年３月 23 日、開発者と株式会社シン技研コンサルとの間で発掘調査業務委託契約が締結され、同年４月３日より発掘調査を開始した。

調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡２軒、平安時代の竪穴住居跡７軒、土坑 10 基、ピット 27 基、溝跡２条、性格不明遺構５基、中世以降の井戸跡１基、土坑１基が検出された。古墳時代・平安時代の集落の一部と考えられる遺構を中心としている。

本遺跡は八幡川右岸の自然堤防上にあり、国指定史跡山王廃寺からは約 350m 東方となる。古墳時代の竪穴住居跡２軒は、いずれも７世紀後半頃のものであり、山王廃寺や総社古墳群の大型方墳が構築された時期と近いものとなる。また、平安時代の竪穴住居跡は、９世紀第３四半期から 10 世紀初頭のものであり、奈良・平安時代に増加した集落の一部として構築されたものと考えられる。なお、１・６号竪穴住居跡、１号井戸跡、６号土坑の平安時代以降の遺構から、山王廃寺のものと考えられる瓦片が出土している。



総社昌楽寺廻窪道遺跡 No. 2 調査区全景（西から）

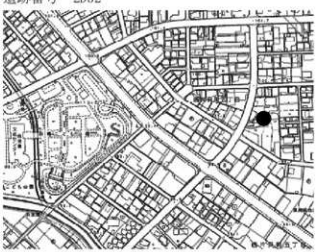


1 号竪穴住居跡全景（西から）

1 号竪穴住居跡遺物出土状況（西から）

⑯西片貝東高縄遺跡

調 査 地　前橋市西片貝町五丁目 14 番 3 ほか
調査期間　R2. 6. 16・17
調査面積　93 ㎡
調査原因　事務所兼データセンター建築
調査担当　並木史一・寺内勝彦
遺跡番号　2D32



調査区位置図

(1)調査の経緯

令和２年６月２日付で提出された試掘確認調査依頼に基づき、同年６月 16 日に確認調査を実施した結果、竪穴住居跡１軒が確認されたため、速やかに協議を行い、計画変更が困難であることから、検出された竪穴住居跡について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は市教委直営で行い、調査に要する測量等の経費は開発者が負担した。６月 16 日に発掘調査を実施し、翌 17 日に埋め戻しを行った。

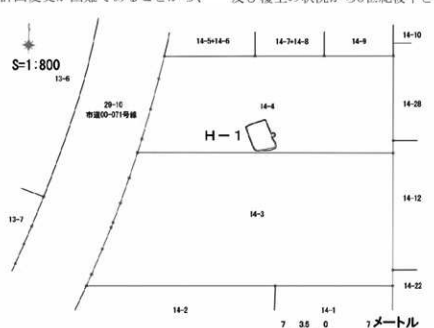
(1)調査結果

調査地は、前橋市児童文化センター付近の東部環状線の東側に位置し、広瀬川低地帯内で、周辺の調査実績は少ない。

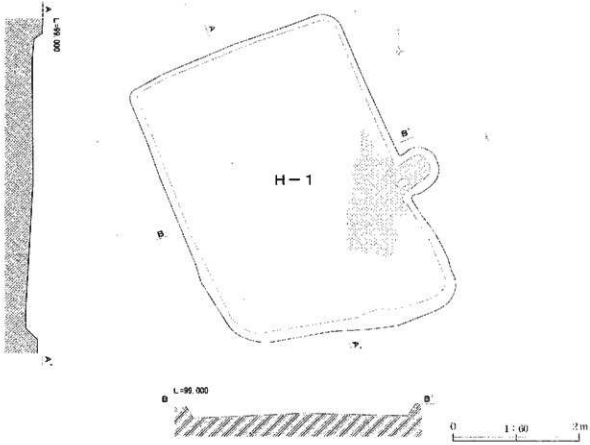
調査の結果、８世紀後半の竪穴住居跡１軒が検出された。開発地の一部は、広瀬川低地帯内の微高地にあたり、微高地に築かれた集落である可能性もあるが、他に遺構は確認されなかった。また、開発地内には、弘仁地震によると推定される地割れ、噴砂が確認されたが、これが１号住居跡にも及んでいた。

１号住居跡

形状・規模等：東西(1.4)ｍ、南北(2.4)ｍ、壁現高34㎝ 床面：ローム地山床で固く締まる。竈：東壁やや南寄りに検出された。全長5㎝、焚口幅20㎝を測る。貯蔵穴等：検出されなかった。周溝：なし　重複：なし　出土遺物：土師器甕片、須恵器短頸壺蓋片等が出土した。時期：出土遺物及び覆土の状況から8世紀後半と推定される。



西片貝東高縄遺跡調査区全体図



1号竪穴住居跡

1号竪穴住居跡全景（西から）

1号竪穴住居跡竈全景

1号竪穴住居跡炭範囲（西から）

⑰西片貝西大道遺跡

調 査 地　前橋市西片貝町一丁目 306 番 2
調査期間　R2.11.20・21
調査面積　20 ㎡
調査原因　宅地造成
調査担当　並木史一・寺内勝彦
遺跡番号　2D33

調査区位置図

(1)調査の経緯

令和 2 年 11 月 10 日付で提出された試掘確認調査依頼に基づき、同年 11 月 20 日に確認調査を実施した結果、竪穴住居跡 1 軒が確認されたため、速やかに協議を行い、計画変更が困難であることから、検出された竪穴住居跡について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は市教委直営で行い、調査に要する測量等の経費は開発者が負担した。11 月 20 日に発掘調査を実施し、翌 21 日に埋め戻しを行った。

(1)調査結果

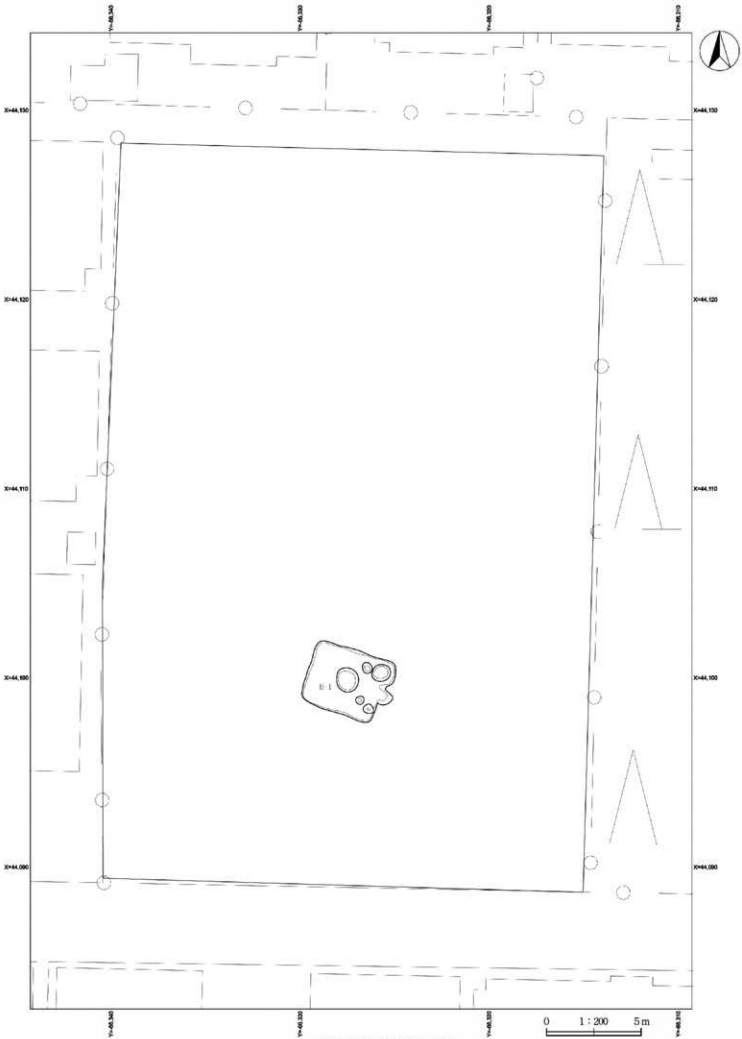
調査地は、上毛電鉄片貝駅の北西側に位置し、広瀬川低地帯内で、周辺の調査実績は少ない。

調査の結果、9 世紀後半の竪穴住居跡 1 軒が確認された。1 号竪穴住居跡は、貯蔵穴 2 基と床下土坑を持つことが特徴であり、南東側の柱穴内には、石が据えられていた。開発地は、南側から続く古くからの集落の縁に位置するが、この集落は広瀬川低地帯内の微高地に相当し、開発地はやや外れて氾濫平野とされている。試掘調査では、ローム層が残る部分も見られたが、1 号竪穴住居跡が築かれていたのは、水成堆積砂質土内であり、当時として集落の外れに造られた住居であった可能性がある。

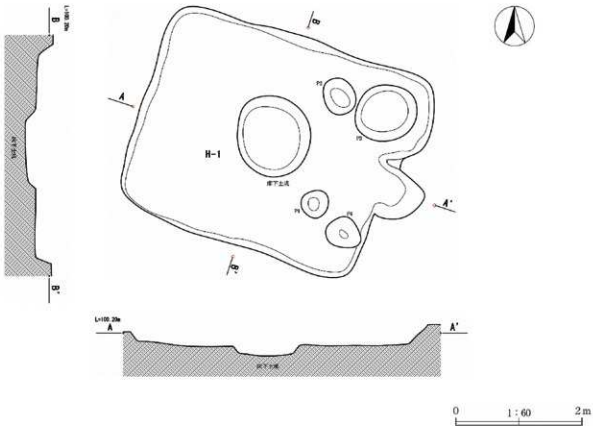
1号住居跡

形状・規模等：東西 4.5m、南北 3.5m、壁現高 26cm　床面：水成堆積砂質土の地山床で締まり弱い　竈：東壁やや南寄りに検出された。全長 73cm、焚口幅 78cm を測る。貯蔵穴等：竈の右手と左手となる住居東側の北と南に 1 基ずつ貯蔵穴が確認された。住居中央に床下土坑1基が確認された。北東、南東側の柱穴 2 基が確認された。周溝：なし　重複：なし　出土遺物：土師器坏・甕片、須恵器坏片が出土した。時期：出土遺物及び覆土の状況から 9 世紀後半と推定される。

西片貝東高縄遺跡周辺地形図



西片貝西大道遺跡全体図



1 号竪穴住居跡

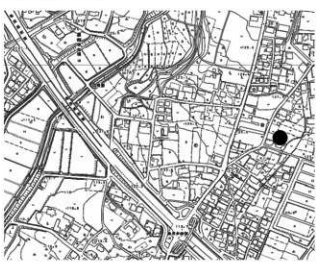
1 号竪穴住居跡全景（西から）

1 号竪穴住居跡竈全景（西から）

1 号柱穴全景（西から）

⑱堤下原間遺跡

調 査 地　前橋市堤町 532 番 1、534 番 4
調査期間　R2. 12. 14
調査面積　12 ㎡
調査原因　認定こども園駐車場整備
調査担当　並木史一・寺内勝彦
遺跡番号　2D34



調査区位置図

(1) 調査の経緯

令和２年 12 月７日に駐車場整備における擁壁設置に伴う掘削の立会調査を行った結果、開発地南側で竪穴住居跡 1 軒が確認されたため、協議を行った。工事計画変更による現状保存が困難であることから、検出された竪穴住居跡について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は市教委直営で行い、12 月 14 日に実施した。

(1) 調査結果

調査地は、認定こども園江木幼稚園の東側で赤城山南麓に位置する。北から南へ下る斜面の舌状台地上であり、敷地南東方向は谷地となる。

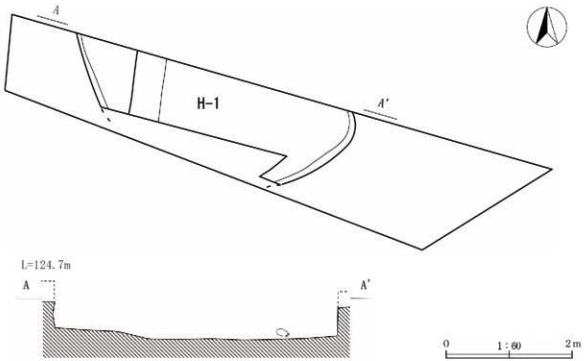
調査の結果、8 世紀後半の竪穴住居跡 1 軒が確認された。工事に伴う調査で調査範囲が狭く、住居の一部の調査に止まったが、住居は北東方向へ傾く長方形を呈するとみられ、谷地の縁となる台地の下に存在すること、西側床面が緩やかなテラス状に高くなることが特徴である。

1号住居跡

形状・規模等：東西〔3.6〕m、南北(3.4)m、壁現高　45cm　床面：黒色地山土を用いた貼床。西側がテラス状に高くなる。竈：調査範囲では検出されなかった。北西側に焼土および構築材の可能性のある自然石が確認され、床面付近となるこの直下で土師器甕片が出土していることから、東壁となる北東方向にある可能性が高い。　貯蔵穴等：検出されなかった。周溝：なし　重複：なし　出土遺物：土師器甕・坏片、須恵器片が出土した。時期：出土遺物及び覆土の状況から 8 世紀後半と推定される。

堤下原間遺跡周辺地形図

105 基準点配置図兼交点計算図



1 号竪穴住居跡

1 号竪穴住居跡全景（東から）

1 号竪穴住居跡全景（西から）

⑲総社高井向原遺跡

調 査 地　前橋市総社町高井字向原 539
調査期間　R3. 3. 30
調査面積　15 ㎡
調査原因　店舗建設
調査担当　並木史一・寺内勝彦
遺跡番号　2A264

調査区位置図

(1) 調査の経緯

令和 3 年 3 月 16 日付で提出された試掘確認調査依頼に基づき、同年 3 月 29 日に確認調査を実施した結果、建物建築予定部分である高圧鉄塔南東側で竪穴住居跡 1 軒が確認されたため、速やかに協議を行った。工事計画変更による現状保存が困難であることから、検出された竪穴住居跡について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は市教委直営で行い、3 月 30 日に実施した。

(1) 調査結果

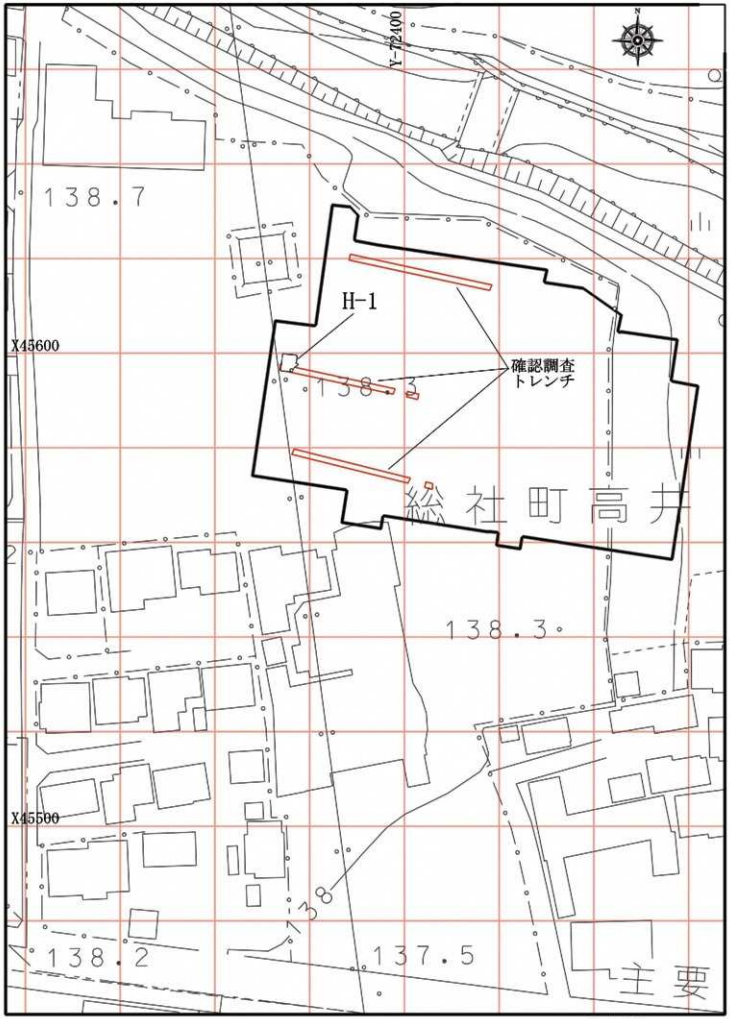
調査地は、(主) 前橋・箕郷線に面する北側で、関越自動車道の東側約 200 m となり、榛名山麓の相馬ヶ原扇状地と前橋台地の接続部付近に位置する。同自動車道は開発に伴い北原遺跡として発掘調査が行われており、古代の集落、また、八幡川と前橋・箕郷線の中間付近では古墳時代中期の水田跡も検出されている。

調査の結果、古代の竪穴住居跡 1 軒を検出した。北原遺跡で Hr-FA 下水田が検出されているのに対し、調査地北側では、Hr-FA 層は残らず、住居検出位置から南側でも 2cm 程の厚みで、堆積状況が芳しくなく、水田畦畔は検出されなかった。しかしながら、同層下層は水田床土と考えられる粘性土であり、Hr-FA 降下時に水田が営まれていた可能性は十分に考えられる。また、As-B は純層としての堆積は見られなかったものの、As-B 混土下層も粘性土であることから、As-B 降下時にも水田が営まれ、水田に近接する住居であった可能性も考えられる。

1 号住居跡

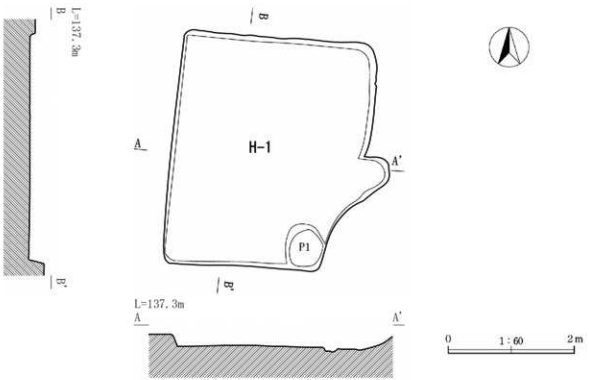
形状・規模等：東西 3. 12 m、南北 3. 65 m、壁現高 23cm　床面：黒色地山土を用いた貼床　竈：東壁やや南寄りに検出された。全長 22cm、焚口幅 33cm を測る　貯蔵穴等：竈右側となる住居南東隅で検出された。柱穴は検出されなかった　周溝：なし　重複：なし　出土遺物：土師器甕・坏片、須恵器片が出土した　時期：出土遺物及び覆土の状況から 8 世紀後半と推定される

周辺遺跡位置図



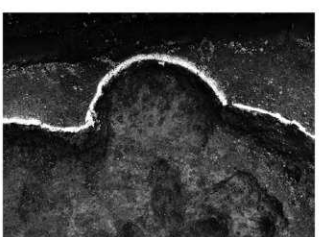
総社高井向原遺跡調査区全体図

S=1:800
10m



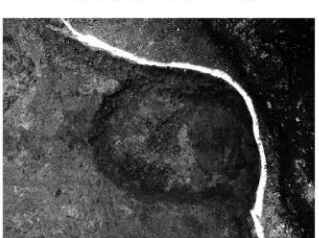
1号竪穴住居跡

1号竪穴住居跡全景（西から）



1号竪穴住居跡竈全景（西から）

1号竪穴住居跡全景（南西から）



1号竪穴住居跡貯蔵穴全景（西から）

2　市内遺跡発掘調査事業

(1)事業の目的

試掘・確認調査の実施は、主に周知の埋蔵文化財包蔵地内外における比較的規模の大きな土木工事について、その施工により遺跡が破壊されることを未然に防ぐため、地理的状況や周辺での調査実績などを考慮し、遺構の有無、包蔵地内に至っては遺跡の範囲や残存状況などを確認することを目的とする。

試掘・確認調査の実施にあたっては開発者との協議を前提とし、その趣旨について理解と協力のもとに成り立っている。調査の結果、遺構や遺物等を確認した場合は、群馬県埋蔵文化財発掘調査取扱い基準に基づき、開発者と埋蔵文化財の取扱いについて協議を行う。試掘・確認調査は、埋蔵文化財の現状保存または記録保存（発掘調査）のための基礎調査の面も併せ持つと考えられる。

(2)試掘・確認調査の方法

①遺構確認のための掘削作業

工事予定地にトレンチを設定し、重機による掘削の後、人手による精査を行う。トレンチ内で埋蔵文化財の有無、また、その範囲や密度、検出深度など、埋蔵文化財の内容確認を行う。試掘・確認調査面積は、開発対象面積の１割程度を基準とする。

②記録作成

掘削したトレンチ位置や検出遺構の分布状況を記したトレンチ配置図を作成する。また、調査地の基本的な土層状況を確認するため、トレンチ内の一部について深掘りし土層断面図を作成する。図面記録の他に、35mmカラーリバーサルフィルム及びデジタルカメラを使用して写真撮影を行い、写真記録を作成する。

(3)調査結果

本年度は、別表の「(5)令和２年度試掘・確認調査一覧表」のとおり、試掘・確認調査を44件実施した。このうち、28件で埋蔵文化財を検出した。

①検出した遺構の主な時代
　縄文時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中・近世

②検出した遺構の主な種類
　古墳、住居跡、水田跡、溝跡、堀跡等

③発掘調査を実施した遺跡
　ア　上泉下中峯遺跡
　　（前橋市0056・0059遺跡）
　　奈良・平安時代の竪穴住居跡等
　イ　元総社北小学校遺跡
　　（前橋市0118遺跡）
　　弥生・古墳・平安時代の竪穴住居跡等

3　遺跡台帳整備事業

(1)前橋市遺跡地図の更新

遺跡地図作成事業は平成15年度から開始し、平成24年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行した。

平成25年度以降は、開発等に伴う発掘調査で増加した遺跡の分布地図の更新について検討しており、継続して更新作業の実施を予定している。

(2)遺跡ＧＩＳの更新

平成20年度から開始した遺跡GIS事業は平成29年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡GISへ随時更新を行い、情報を追加していく。また、重要文化財情報もGISに搭載し、内容の充実を図っていく。

4　埋蔵文化財資料整備事業

(1)普及パンフレットの作成

「い・せ・き　ワールド in 前橋 2021」

令和２年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を周知するため、「い・せ・き　ワールド in 前橋 2021」（A3版の両面カラー印刷）を作成した。

作成部数は7,000部で、両面とも写真を多く取り入れ、調査内容を分かりやすくまとめた。

令和３年度当初に市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、埋蔵文化財に関する啓発活動の資料として普及に役立てる。

(2)出土資料の活用（貸出展示）

常設展示

①群馬県立歴史博物館
　市之関前田遺跡・柏倉芳見沢遺跡出土石器
　苗ヶ島大畑遺跡・前橋天神山古墳出土土器
　元総社蒼海遺跡群出土青白磁梅瓶　49点

②岩宿博物館（みどり市）
　上ノ山遺跡・市之関前田遺跡出土石器　２点

企画展示等

①群馬県立歴史博物館「綿貫観音山古墳のすべて」
　前二子古墳出土鉤状金具　14 点

②多胡碑記念館「金井沢碑の遺産―古代豪族と仏教―」
　荒子小学校校庭Ⅱ・Ⅲ遺跡出土鋳印・墨書土器、前山Ⅱ遺跡出土墨書土器、柳久保遺跡群Ⅵ出土墨書土器、芳賀東部団地遺跡Ⅱ出土墨書土器・刻書紡錘車、五代木福Ⅱ遺跡出土墨書土器、山王廃寺跡出土鋳印　16 点

③岩宿博物館「岩宿時代の円形のムラ」
　内堀遺跡Ｅ区Ａ地点出土石器　36 点

④かみつけの里博物館「折りの器―須恵器からみた古墳時代のぐんま―」
　前二子古墳出土須恵器（小像付筒形器台、高坏形器台、提瓶、はそう、直口壺）、土師器（高坏、台杯直口壺）　11 点

(3)貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）

博物館からの遺物借用依頼のほか、出版社等からの遺跡や遺物の写真提供依頼や、研究者による遺物見学依頼が増加しており、遺物・写真などの資料を管理するため、鳥羽収蔵庫に収納されている遺物の整理およびデータベース作成を行った。

(4)展示成果

①総社歴史資料館

総社歴史資料館では、総社・元総社地区で出土した遺物を展示している。代表的なものは、山王廃寺出土の「放光寺」と記された瓦および塑像群、王山古墳出土の大刀形埴輪、元総社地区の推定上野国府出土の墨書土器、元総社蒼海遺跡群出土の奈良三彩などである。

②元総社公民館

元総社地区の土地区画整理に伴う発掘調査の成果である壷や高盤などの出土遺物、上野国府に関連する人形や墨書土器などの複製品、写真などの展示を行っている。

③芳賀公民館

芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの解説パネル、発掘調査写真などの展示を行っている。

④サンデンファシリティ

見学者体験教室「森の教室」に発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子など撮った写真パネルを展示している。

⑤けやきウォーク前橋

文京町№1 遺跡の解説パネルのほか、「い・せ・きワールド in 前橋 2019」、「新出土文化財展 2018」解説パネルの一部を掲示し、二之宮八王子古墳出土小刀・金銅製耳環、西大室七ツ石遺跡出土須恵器甕、大室古墳の教室製作の土偶などを展示している。

(5)新出土文化財展２０２０

①事業の目的

市内各所で実施する埋蔵文化財の発掘調査により、文化財保護課では、数多くの貴重な知見を得ている。令和元年度に新たに見つかった出土遺物を、発掘調査成果の速報展示として、広く市民に公開した。埋蔵文化財や郷土の歴史に対する興味・関心・理解を深めてもらうことを目的とする。

②事業に至る経緯

平成 27 年度の鳥羽収蔵庫での展示をスタートに平成 29、30 年度は総社歴史資料館で実施。さらに多くの集客を図るべく、令和元年度からは「国指定重要文化財臨江閣」を新会場とし、本年度で 6 回目を数える。

③開催概要

会　　期：11 月 10 日から 11 月 23 日　13 日間
※11 月 16 日は休館
来場者数：2,952 人

④展示資料

上野国府等範囲確認調査、元総社蒼海遺跡群、上細井中西部遺跡群、西部第一落合遺跡群、前橋城（市役所西地点）ほか

上細井中西部遺跡群出土の墨書土器、刻書土器、水差しや円面硯、皇朝十二銭、銅製の丸鞆や蛇尾などの官衙関連遺物、元総社蒼海遺跡群では、銅鏡３枚をはじめ、雁又鏃、鉄鈴など、貴重な遺物を展示した。その他の遺跡も含め、縄文時代から前橋城に関連する近世の遺物まで、バラエティに富んだ出土品を展示することができた。遺物総数は約 150 点を数え、併せて遺跡調査概要を解説したパネルも展示した。コロナ過での開催であったが、テレビ、新聞などで紹介されたこともあり、多くの来場者に恵まれた。

元総社蒼海遺跡群展示品

元総社蒼海遺跡群展示品（銅鏡・鉄鏃等）

上細井中西部遺跡群展示品

(6)現地説明会

①上細井中西部遺跡群№3

場　所　前橋市上細井町
対象者　地元住民
実施日　令和２年 10 月 11 日
内　容　縄文～奈良・平安時代の住居跡、鍛冶・製鉄に関する遺構
墨書・墨画土器や刻書紡錘車、平瓶等の展示

上細井中西部遺跡群№3 現地説明会風景
６０人が参加

②前橋城大手門石垣

場　所　前橋市本町一丁目
対象者　市民
実施日　令和３年２月 15 日
内　容　江戸時代前期酒井雅楽頭時代の大手門石垣遺構

前橋城大手門石垣遺構現地説明会風景
約２５０人が参加

(7)令和２年度市内遺跡出土金属製品保存処理

平成 29 年度調査の二之宮八王子古墳及び令和元年度調査の小島田八日市古墳から出土した刀装具、鉄鏃、青銅製鏡など 17 点について、長期間の保管を可能とするため、化学的な方法を用いた保存処理を行った。処理を行った金属製品のうち、鞘尻金具１点と足金具１点は銀メッキで覆われていることが判明した。本業務は(公財)山梨文化財研究所に委託し、令和２年７月１日から令和３年２月９日の間に行われた。

足金具（処理前）

足金具（処理後。銀メッキを研ぎ出した）

5　文化財資料管理

(1)寄贈図書用務・報告書一斉送付

令和元年度は、他教育委員会、他自治体、各埋蔵文化財調査団体及び個人等から寄贈図書があった。

この寄贈に対する返礼の意味も含め、情報交換及び前橋市の文化財保護行政の周知のため、『推定上野国府～平成 30 年度調査報告』他 14 冊を 290 ヶ所に送付した

(2)写真資料・図書資料等のデジタル化

劣化していく写真ネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。

6　上野国府等保存整備事業

(1) 上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の国庁や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成２３年度から「上野国府等範囲内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行いながら事業を実施してきた。

本年度は第２期５か年計画の最終年にあたる。本年度の調査で礎石建物跡と推定される遺構が検出されたため、１０月に第２９回委員会を開催し、現地視察を行い専門的な意見をいただいた。２月には第２期５か年の調査成果を再確認のうえ、第３期の調査計画について協議し調査箇所等について検討するため、第３０回委員会を開催した。なお、新型コロナウイルス感染防止のため、書面開催とした。

(2) 第２９回上野国府等調査委員会

開催日　令和２年１０月３０日（金）
開催場所　元総社公民館視聴覚室及び発掘現場
《現地視察》
上野国府調査トレンチの視察
《協議内容》
視察結果の検討
《主な意見》
【推定上野国府 73 トレンチの遺構について】
・礎石建物で側柱だけに布地業があって、真ん中には布地業がないものがあるのか調べてみないと分からないが、側柱は屋根の荷重を受けるので地業が深く、真ん中は床だけなので側ほどはしっかりしていない。例え床束があったとしても、布地業が残ったとして 10 ㎝程度であり、まず残らないのではないか。
・壺地業みたいな箇所は、布地業を入れて建物を造る前に穴があって、そこの部分だけ深く土を詰めた結果として、壺地業のように残ったということも考えられないことはない。
・壺地業らしきものは、礎石があった場所の残痕という可能性がある。もう一回、礎石建物の中を丁寧に探って、壺地業に似たような状況があるかないかを丁寧に確認してもらいたい。
・４号・５号の溝は、２本の溝が平行しており、その間は道路と考えるのが普通ではないか。硬化面は、その後に同じ方向に造られた道路と見た方がいい。
・柱列は、きちんと断面を見て柱穴の確認をする必要がある。布地業の残りの厚さは 10 ㎝～15 ㎝程度かもしれないが、どこかで割って丁寧に土層断面の記録をとる必要がある。布地業の外に溝みたいなものがあった。あれが何なのか、他を割っていくことによって考えられるようになるのではないか。
・今日見せてもらった礎石建物と前に調査されている南の礎石建物跡の間にもうひと棟布掘りの建物がもう一棟並ぶのではないか。
【宮鍋神社周辺の検出建物の性格付けについて】
・宮鍋神社の周辺エリアについて、遺構の時期や建物の性格・種類がかなり見えてきた。このエリアの評価、性格付けを明確にすることを早急の課題に設定して、それを解決するために何をしていけばよいか決めて対応していく必要がある。
・資料１ページで、大きな区画溝に色付けがされているが、その南側の安中線に面している所で掘立柱建物が見つかっている所もあり、調査をできる機会があれば、この辺りも調査を進めていただきたい。
・推定上野国府 28・35 トレンチの布地業から元総社蒼海遺跡群(136) の布地業まで、正確な図面を作って、それぞれの遺構の切りあい関係と相互の距離はどうなのか示してもらうと、この辺りの性格をもう少し把握しやすくなる。そのような図面を次回の委員会では提示していただきたい。
・今日示された図だと推定上野国府 73 トレンチは総地業と布地業が重なっているように見えた。図面を作るときに、表現の仕方を工夫して、誤解のないようにしていただきたい。
・この一画は正倉かどうか分からないが、倉が建つ一画であったことは十分言える。国府の倉になるか、群馬郡家の正倉になるか含めて、ここの所はもう少し精密な検討ができる図面が欲しい。色々な情報を集約したものを整理して、どういったことが想定できるか、どういったことが課題として今後やるべきか、検討していただきたい。
・調査が進む中でこのエリアの基本となるものが抑えられてきたので、以前から言っているとおり、広い場所では、短期決戦で面的に遺構を把握するという調査でもかなり分かることが出てくると思う。
【上野国府の区画設定と牛池川について】
・牛池川の河岸を東辺にして、区画溝が方形に造られ、その中に今回の布地業や総地業の倉庫と考えられるものが見つかっている。この辺りを明らかにしていくことが、国府の全体像を明確にする切り口になる。
・役所群があって川がその限りになるかということについて、飛鳥宮を見ると飛鳥川が西の限りになっている。東辺は大垣が出ているとか、おそらく大垣が取り囲んでいるであろうと言われている。西側は

飛鳥川が流れていて、おそらくそれが限りだろう。川の規模が違うが、川を取り込むことは、役所を造る場合でもかなり冒険だったと思う。牛池川も東の限りと見る方がいいと思う。

・倉庫群と牛池川との間に区画溝が入るのではないか。正倉のようなものであれば、一番の財産だから高い所に置き水害の憂いがないようにするのが普通だという気がする。

【蒼海城の全体像把握について】

・この国府域と思われる範囲の中において、区画整理に伴う調査と国府調査等、色々な調査から、蒼海城の全体像がどのように反映されるか、調査の中で蒼海城関連のものがたくさん出ているが、それを整理して国府関連遺構の分布と合わせていただきたい。

【浅間B軽石堆積範囲の把握について】

・遺構の性格を判断する基準になってくるのは、浅間のB軽石が堆積した面だと思う。浅間B軽石が堆積した面の上に蒼海城が造られている。トレンチ調査ではなく、平面調査で浅間B軽石の堆積面までを剥がして、浅間B軽石以前の遺構がどのように検出できるか、はっきりしていくと、もっと古代の遺構の在り方が掴めてくると思う。

現地視察の様子

(3)第３０回上野国府等調査委員会

開催日　令和３年２月１８日（木）

開催場所　書面開催のため各所

《報告》

① 令和２年度元総社蒼海遺跡群発掘調査の成果について

・元総社蒼海遺跡群(141)で牛池川へと降りる切通し状の道路遺構が検出された。

・元総社青海遺跡群(75街区)で、10世紀代の鍛冶工房から銅製品の鋳型が出土した。

② 令和２年度上野国府等範囲内容確認調査の成果について

・73トレンチの礎石建物跡について、宮鍋神社周辺で検出された同様の礎石建物跡との比較や、各遺構も含めた変遷について報告した。

③ 第２期上野国府等範囲内容確認調査の成果について

・宮鍋神社周辺、元総社小学校とその西方、東山道駅路国府ルート、上野国分尼寺南限の現時点での調査状況について説明した。

《協議内容》

① 第３期上野国府等範囲内容確認調査事業計画について

・第３期事業計画はこれまでと同様に５か年計画で行い、宮鍋神社周辺の調査を最優先で行い元総社小学校やその西方地域の調査も随時行う。

② 令和３年度上野国府等範囲内容確認調査計画について

・第３期事業計画に基づき、引き続き宮鍋神社周辺で官衙関連遺構の検出を目的に行う。

③ 国府関連遺構が検出された際の保存方法について

《その他》

① 来年度の上野国府等調査委員会について

② 上野国府等調査委員会全般について

《協議の結果について》

・第３期事業計画については事務局案のとおり５か年で行い、宮鍋神社周辺の様相の解明に努める。

・次年度は事業計画に則り宮鍋神社周辺の調査を行う。

《主な意見》

【元総社蒼海遺跡群(141)について】

・道路状遺構 R-1 の造営方位は、北で西に若干振れている。この振れにあう遺構は、周囲でどの程度広がるのか。また、この振れは、宮鍋神社南方で見つかっている建物群の振れともほぼ合致しており、この方位が、この建物群の古代における何らかの基準になっている可能性は高い。既に調査したところで、この方位に揃う遺構の再検討をすると、新たに建物などが見つかるかもしれない。

・蒼海(141)の報告書P28の、関連遺構７～８の間で幅が変化しており、関連遺構９から以南では方位がやや東に振れている。全体を連続した一つの遺構とみてよいのだろうか。関連遺構７～９の北と南とでは性格を異にする施設であった可能性があるのではないか。

【元総社蒼海遺跡群 75 街区№2 について】

・三鈷杵の密教系造物や銅印の出土は、山王廃寺などとの関連が推定され、重要な発見である。

・10 世紀初頭の工房 H-7 の存在と出土遺物は、国府域内あるいは近縁で仏教にかかわる施設が営まれたことを示すものとして重要な発見である。軒先瓦が伴出していることから、近接してある国分尼寺の活動とのかかわりも考えることができる。その可能性も含めて施設の性格を明らかにするために、蒼海(75 街区№2)の報告書P26 の 17 の印鋳型をさらに精査し、印面の文字の判読（複数の可能性も含めて）に努めることが望まれる。

【宮鍋神社付近で検出された掘込地業建物について】

・この一画の倉庫群は、山王廃寺下層の群馬評以後の群馬郡衙正倉とも考えられるが、方位が正方位で定まらず、その点が悩ましい。国府の庫と考えた場合は、8 世紀第 2 四半期以降になると思う。もう少し検証が必要である。

・倉庫群として、このような倉庫はどのように建てられていくのか。ひとつ建てて、いっぱいになったら、次のひとつといった感じか。それとも、一斉に建てるのか。倉庫の建てられ方ということを文献史学からどこまでわかるのか、前沢委員に確認しておく方が良い。

【元総社小学校校庭遺跡について】

・官人の居宅跡に想定されるのではないかという印象をもっている。特に古代的な国府が解体し、在庁官人による支配が行われる時期の遺構の可能性がある。「総社」という神社はそのような時期に成立したと考えられる。

【第 2 期調査の成果について】

・国府及び国庁の全体像が掴み難い中で、宮鍋神社周辺で複数の礎石建物の痕跡が確認されたことの意義が大きい。この付近に倉庫群が所在した可能性が高い。これについては、「上野国交替実録帳」の府院および群馬郡家の箇所の記載内容と照合して考察する必要がある。

・元総社小学校西方地域で確認された、多数の掘立柱建物の検出状況（規模・形状、柱穴掘方形状、方位、焼土・炭化物の存否など）による所見は重要である。ここで確認された状況を他の地区と比較照合し、これが局部的なものか全域に及ぶものかを調べる必要がある。

・「上野国交替実録帳」には 997 年（長徳 3）正月 11 日に府院焼亡の記事があり、それまでは国庫（国府の倉庫）に多量の戸籍・田図が収められていたとみることができる。発掘調査では遺構の年代判定にこの火災の痕跡の存在を確認することが重要な意味をもつ。

【調査方法、年次計画等について】

・①宮鍋神社周辺の調査を優先的に実施するのが良い。②元総社小学校校庭周辺は、校庭部よりも西方の方が重要かと思う。あまり広げず、まず①の部分を重視したらどうか。

・範囲が広いため、まずは宮鍋神社を中心として、広い範囲でレーダ探査を実施し、先に地中の情報をある程度把握し、その後ピンポイントで発掘調査をするのが良いと思う。

・主担当を 2 名としつつも、その人たちを中心とし、委員会とは別に内外からなるバックアップ体制による、実質的な作業チームが必要であると思う。

【調査箇所等について】

・75・76 トレンチも重要だが、77・78 トレンチのところを走る東西溝と、牛池川の東で確認されている東西溝は、規格・方位とも異なるので、同じ施設の区画溝ではないと考えている。牛池川を挟んで、別の施設が展開しているのではないか。一番気になる部分である。

・なぜ、今、77・78 トレンチの調査が必要なのか。建物群を囲む区画塀の調査であるなら、もう少し建物群に近いところ、例えば、南辺、西辺からおさえるべきではないか。

【保存の方策等】

・最善は遺構を保護する措置を取ったうえで埋め戻し、何も立てないことであるが、そういった措置が難しい場合は保護層を確保して開発に対応するのが良い。ただし、国府関連遺構の中でも中枢部分などの重要度が高いものについては、強い保護措置がとれるように、協議・調整をしていただきたい。また、遺構が確認できない空白地帯についても、国府全体でその場所の持つ役割についてしっかり検討して、保護の措置を取っていただきたい。

【その他】

・以前からお願いしている地図の作製は進んでいるようであるので、それができれば、また理解もより進むかと思う。全体が見えて、わかることも多々ある。

・これまでの調査で確認された遺構の全容を把握して認識を整理するために、先に作成した時期・遺構性格別の全体図を見ながらの検討会をもつことを提案する。

・古代の微地形を表現した地図（グラデーションで色分け等）を作成すると良い。またその地図に、これまで作成しているような、遺構・遺物を落とした図面を 1 枚 1 枚時期ごとに作成すれば、全体の構造・変遷の把握の助けになると思う。

・最終的な目的を明確に意識して、調査や委員会を進めていただければと思う。

あ と が き

令和２年度は、新型コロナウイルスの世界的な蔓延により、文化財も様々な影響を受けました。感染拡大防止のため、イベントの中止、施設休館による利用者の減少がありました。

一方で現地説明会の様子の動画公開等、デジタルを活用した周知啓発にも積極的に取り組みました。

我々の業務であり、我々の使命は、人々がこれまで営んできた悠久の歴史を、その足跡を調査し、ふたたび光をあて、守るべき文化をつつがなく後世に伝え残してゆくことです。

毎年刊行しているこの年報の編集作業は、この１年で本市文化財保護課が積み上げてきたものを見つめ直し、改めて顧みる機会となります。

達成感、反省、感謝、様々な感慨が湧き上がってきます。

次はどのような思いで１年を振り返ることになるでしょうか。充足感をもって次号が刊行できるよう、精一杯業務に取り組んで参りたいと思っております。

令和３年３月

文化財保護課長　田中　隆夫

令和２年度
前橋市文化財調査委員
（敬称略・氏名五十音順）
岡田　昭二
能登　健
右島　和夫
村田　敬一

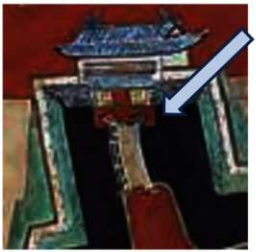
令和２年度
文化財保護課職員

参事兼課長	田中　隆夫
文化財保護係	
副参事兼係長	上野　克巳
副主幹	江黒　啓一
〃	吉田　和夫
〃	長谷川潤一
〃	小川　卓也
〃	奥山　武
主　任	本舘　美保
〃	横山　知美
〃	宮川　親妃
嘱託員	前原　豊
〃	小島　純一
埋蔵文化財係	
課長補佐兼係長	神宮　聡
副主幹	岩丸　展久
〃	松村　輝敏
〃	藤井賢一郎
〃	並木　史人
〃	小峰　篤
〃	阿久澤智和
〃	寺内　勝彦
主　事	齋藤　颯
学芸員	村越　純子
専門員	梅澤　克典

年報　第５１集　令和２年度文化財調査報告書
令和３年３月
発行　前橋市教育委員会事務局　文化財保護課
前橋市総社町三丁目１１－４

表紙について

本町一丁目において発見された前橋城大手門の石垣



矢印の先が発見場所